

太
田
城
跡

常陸太田市内遺跡調査報告書
第17集

令和四年三月

常陸太田市教育委員会

太田城跡

JT 跡地内太田城跡埋蔵文化財調査報告書

第17集

2022

茨城県常陸太田市教育委員会

お お た じょう あと
太田城跡

JT 跡地内太田城跡埋蔵文化財調査報告書

第 17 集

2 0 2 2

茨城県常陸太田市教育委員会

序

常陸太田市は、平成16年12月1日の1市1町2村の合併により、県内第1位の面積を誇る市となりました。市域には300か所を超える埋蔵文化財包蔵地がみられ、東日本有数の規模を誇る前方後円墳である梵天山古墳をはじめ、全長100mの前方後円墳である星神社古墳や大型円墳である高山塚古墳、久慈郡寺の推定地とされる長者屋敷遺跡など、貴重な遺跡が数多くあります。

当市では、これらの貴重な遺跡の保護・保存を図るとともに、その性格を明らかにすることによって活用を図ることができるようにすることを目的として、市内遺跡事業に取り組み、調査を進めてまいりました。

本報告書は、それらの調査の成果を報告することを目的として刊行するもので、令和2年度に実施された太田城跡の発掘調査で得ることができた成果について盛り込みました。

当市では、総合計画のひとつの柱として「地域資源に磨きをかけた観光の振興」を掲げております。地域に埋もれた資源を発見し、その資源について学び、活用することが地域の活性化に結びついていくものと考えております。本報告書が、そのような地域資源の発見・活用の一助になるとともに、この成果が少しでも多くの方々のお役に立つことが出来れば幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書の刊行までご指導・ご協力を賜りました皆様に、厚く御礼申し上げます。

令和4年3月

常陸太田市教育委員会
教育長 石川 八千代

例言

1. 本書は、茨城県常陸太田市栄町102番地1に所在する「太田城跡」埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、日本たばこ産業株式会社（略称：JT）跡地利用に伴う事前調査である。
3. 発掘調査、整理作業・報告書作成は、常陸太田市教育委員会の委託を受けて、有限会社勾玉工房 Mogi（2021年10月以降、株式会社勾玉工房に社名変更）が実施した。
4. 調査期間は下記のとおりである。

発掘調査期間：令和2年6月9日～令和2年11月30日

整理・報告書作成：令和3年5月1日～令和4年2月28日

5. 調査体制は下記のとおりである。

調査主体者：常陸太田市教育委員会 教育長 石川 八千代

調査指導：常陸太田市教育委員会文化課 主任 山口憲一

事務局：常陸太田市教育委員会文化課 課長 高橋知之

同文化振興係 係長 小澤光徳

同文化振興係 主任 川崎祐子

同文化振興係 主事 手代木早百合

同文化振興係 主事 萩谷友里恵

調査・整理担当：谷 旬、米山聡一 現地調査・整理作業・報告書作成

6. 本書の作成は常陸太田市教育委員会文化課の指導の下、株式会社勾玉工房が行った。第1章第1節を山口（常陸太田市教育委員会）、第2章～第4章を大賀 健、谷、水原康平、米山があたった。
7. 発掘調査および整理作業参加者は次のとおりである。

発掘調査

石井正義、阿部武男、井坂桂一、上野千枝子、小澤明子、金澤信好、柏 勝、久野周也
源田正枝、須賀川照美、鈴木めぐみ、澤田すみ江、佐藤夕美、佐藤次男、菅原裕子
飛田けい子、谷川明正、濱 敏子、西宮芳江、檜山 博、平田桂子、横須賀陽三、野口 守
矢代信子、矢崎福司、渡邊義雄、和田美帆、皆川典子

整理作業

トレース・レイアウト：大賀琢磨、木村夏月、篠原仁史

遺物実測図修正：宇佐美義春、橋邊明子、宮内勝巳

水洗、注記・接合、実測：秋山菜摘、佐藤政代、篠原みよ子、村上恭子

庶務・経理：橋邊明子、林 恵美子

8. 発掘調査ならびに本書作成に至る過程で次の方々や機関から御指導・御協力を賜った。
茨城県教育庁文化課、佐竹研究会、
佐竹氏ゆかりの文化遺産を考える連絡会議、茨城城郭研究会
阿久津 久、浅野晴樹、荒蒔克一郎、池田敏宏、井上尚明、宇留野主税、瓦吹 聖、川松 博、
菊池壮一、斎藤慎一、齋藤達也、笹岡 明、獅子内一成、関口慶久、高橋 修、高橋伸久、
高橋裕文、田切美智雄、津田芳男、鶴見貞雄、富山章一、永井智教、西野 保、萩野谷 悟、
比毛君男、藤崎 明

凡例

1. 遺跡の略号は、O T Jを用いている。
2. 遺構図は、国家標準直角座標第IX系（世界測地系）を用いた。
3. 地図の縮尺は各図中に示した。
4. 挿図中の北の矢印は、グリッド北「地図上の北」を示す。
5. 遺構の種類についての略号、及び文中の略字は次を用いている。
SI：竪穴建物跡 SD：堀跡・溝跡 SK：土坑 P：ピット sec：セクション
6. 遺構図の縮尺は次を原則とした。
調査区全測図
堀跡・溝跡平面図 1/200
堀跡・溝跡土層断面図、竪穴建物跡平面図 1/80
7. 遺構実測図に示した断面水準は、海抜標高（m）である。
8. 遺構・遺物の色調表記は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会事務局監修 財団法人日本色彩研究所色票監修 2004年）を参照のうえ記述した。
9. 縄文土器、弥生土器については、大賀（健）、木村が分類・土器型式比定にあたった。
10. 古墳時代～近・現代の土器・陶磁器などについては、大賀（健）が分類・土器型式比定にあたった。併せて、池田、津田の両氏より御教示を賜った。
11. 遺物実測図の縮尺は以下のとおりとした。
尖頭器 2/3
縄文土器・弥生土器、石器 1/3
古墳時代～中世の遺物（土器・陶磁器、石製品など）1/3、1/4
12. 遺物実測図は胎土に繊維を含む縄文土器をドットトーン、須恵器断面を黒塗り、中世の国産陶器は断面をグレー、貿易陶磁器は断面をブルーで表した。
13. 近世後期～近・現代の遺物については実測図は作図せず、写真掲載のみとした。
14. 遺物の残存率は、図示した部分の推定円周に対する割合である。
15. 焼成の項目は硬質・やや硬質・やや軟質・軟質の4ランクに分けた。

16. 遺物観察表の「大きさ」の項目に記してある数値は次のとおりである。

口径 : cm

底径 : cm

器高または現存高 : cm

なお（ ）で示した数値は推定値または残存値である。計測不能の時は—とした。

17. 本報告書では古墳時代以降遺物の胎土を以下のように大別、観察表記載を行った。

土師器

胎土A群 きめ細かい。白色細粒・黒色細粒などを含む。

胎土B群 ややきめ細かい。白色粒子・黒色粒子・砂粒などを含む。

胎土C群 ややきめ細かい。白色粒子・黒色粒子・雲母粒子などを含む。

胎土D群 やや粗い。白色粒子・小礫などを含む。

須恵器

胎土A群 ややきめ細かい。白色細粒・小礫などを含む。

胎土B群 ややきめ細かい。黒色細粒などを含む。

胎土C群 ややきめ細かい。雲母粒子などを含む。

胎土D群 やや粗い。白色粒子・小礫などを含む。

かわらけ

胎土A群 きめ細かい。混入物が目立たない。

胎土B群 ややきめ細かい。混入物（細砂等）を少量含む。

胎土C群 ややきめ細かい。混入物（細砂等）やや少量～やや多く認められる。

瓦質土器（内耳鍋含む）

胎土A群 きめ細かい。混入物が目立たない。

胎土B群 ややきめ細かい。白色細砂・細粒等をやや少量含む。

胎土C群 若干きめが粗い。混入物やや多い（雲母粒子を含まない一群）。

胎土D群 若干きめが粗い。混入物やや多い（雲母粒子を含む一群）。

陶器

胎土A群 極めてきめ細かい（精緻）。混入物が目立たない。

胎土B群 きめ細かい（精緻）。混入物が目立たない。

胎土C群 きめ細かい。混入物を少量含む。

磁器

胎土A群 きめ細かい（精緻）。混入物が目立たない。

胎土B群 きめ細かい。混入物を少量含む。

目次

序 / 例言 / 凡例 / 目次	
第1章 調査に至る経緯と経過	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の方法と基本層序	
第1節 調査の方法	15
第2節 基本層序	16
第4章 調査成果	
第1節 太田城跡の発掘調査概要	17
第2節 古代の遺構・遺物	19
第3節 中世の遺構・遺物	32
第4節 近代産業遺跡 - 大蔵省専売局太田製造所跡地 - について	97
第5節 遺構外出土遺物	99
第5章 まとめ	
第1節 古代の遺構・遺物について	119
第2節 中世の遺物	122

図版目次

第1図 太田城跡位置図	第10図 第4号竪穴建物跡 (SI04) 出土遺物
第2図 太田城跡とその周辺の地形区分図・地質概念図 (常陸太田市編さん委員会1984 に加筆)	第11図 第13号竪穴建物跡 (SI13) 出土遺物
第3図 時期別の佐竹氏勢力図	第12図 第15号竪穴建物跡 (SI15) 出土遺物
第4図 遺跡周辺図及び佐竹氏・徳川氏関連史跡・寺社	第13図 第6・7・8号竪穴建物跡 (SI06・07・08)
第5図 遺構配置図	第14図 第11号竪穴建物跡 (SI11)
第6図 第1・2号竪穴建物跡 (SI01・02)、第1号竪穴建物跡 (SI01) 出土遺物	第15図 1号堀 (SD01) (1)
第7図 第2号竪穴建物跡 (SI02) 出土遺物	第16図 1号堀 (SD01) (2)
第8図 第3・12号竪穴建物跡 (SI03・12)	第17図 1号堀 (SD01) (3)・8号溝
第9図 第4・5・9・10・13・14・15号竪穴建物跡 (SI04・05・09・10・13・14・15)	第18図 2号堀 (SD02) (1)
	第19図 2号堀 (SD02・SD05) (2)
	第20図 2号堀 (SD02) (3)
	第21図 2号堀 (SD05) (4)
	第22図 2号堀 (SD05) (5)
	第23図 3号堀・6号溝 (SD03・SD06)

第24図	4号堀 (SD04) (1)	第43図	遺構外出土縄文時代遺物
第25図	4号堀 (SD04) (2)・7号堀 (SD07)	第44図	遺構外出土弥生時代遺物 (1)
第27図	1号堀 (SD01) 出土遺物 (1)	第45図	遺構外出土弥生時代遺物 (2)
第28図	1号堀 (SD01) 出土遺物 (2)	第46図	遺構外出土古代遺物 (1)
第29図	2号堀 (SD02A) 出土遺物	第47図	遺構外出土古代遺物 (2)
第30図	2号堀 (SD02B) 出土遺物 (1)	第48図	遺構外出土古代遺物 (3)
第31図	2号堀 (SD02B) 出土遺物 (2)	第49図	遺構外出土古代遺物 (4)
第32図	2号堀 (SD02B) 出土遺物 (3)	第50図	遺構外出土中世遺物 (1)
第33図	2号堀 (SD05) 出土遺物 (1)	第51図	遺構外出土中世遺物 (2)
第34図	2号堀 (SD05) 出土遺物 (2)	第52図	遺構外出土中世遺物 (3)
第35図	2号堀 (SD05) 出土遺物 (3)	第53図	遺構外出土中世遺物 (4)
第36図	2号堀 (SD05) 出土遺物 (4)	第54図	遺構外出土近代・現代遺物
第37図	4号堀 (SD04)・SD04SK01 出土遺物	第55図	古代土器編年図
第38図	SD04SK01・SD04SK02 出土遺物	第56図	瓦質火鉢関係
第39図	SD04SK02 出土遺物	第57図	茨城県央・東北のかわらけ分類 (田口 2011 文献)
第41図	3号堀 (SD03)・6号溝・7号溝 (SD06・07) 出土遺物	第58図	中世土器編年図
第41図	検出された専売公社遺構	第59図	遺跡全測図
第42図	遺構外出土旧石器時代遺物		

表目次

第1表	周辺遺跡と関連寺社・史跡	第14表	堀・溝出土遺物観察表 (5)
第2表	太田城と佐竹氏関連略年表 (1)	第15表	堀・溝出土遺物観察表 (6)
第3表	太田城と佐竹氏関連略年表 (2)	第16表	堀・溝出土遺物観察表 (7)
第4表	太田城と佐竹氏関連略年表 (3)	第17表	堀・溝出土遺物観察表 (8)
第5表	第1・2号堅穴建物跡 (SI01・02) 出土遺物観察表	第18表	旧石器時代出土遺物観察表
第6表	第4号堅穴建物跡 (SI04) 出土遺物観察表	第19表	縄文時代出土遺物観察表
第7表	第13号堅穴建物跡 (SI13) 出土遺物観察表	第20表	弥生時代出土遺物観察表 (1)
第8表	第15号堅穴建物跡 (SI15) 出土遺物観察表	第21表	弥生時代出土遺物観察表 (2)
第9表	第11号堅穴建物跡 (SI11) 出土遺物観察表	第22表	古代出土遺物観察表 (1)
第10表	堀・溝出土遺物観察表 (1)	第23表	古代出土遺物観察表 (2)
第11表	堀・溝出土遺物観察表 (2)	第24表	古代出土遺物観察表 (3)
第12表	堀・溝出土遺物観察表 (3)	第25表	中世出土遺物観察表 (1)
第13表	堀・溝出土遺物観察表 (4)	第26表	中世出土遺物観察表 (2)
		第27表	近世・近代出土遺物観察表 (1)
		第28表	近世・近代出土遺物観察表 (2)
		第29表	古代の調査成果要約
		第30表	今回出土かわらけ分類表



調査区上空から撮影した全方位パノラマ写真（南から）

（渡邊義雄氏提供）



調査前状況（南上空から）

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

常陸太田市では、平成29年9月に旧太田倉庫があった土地を日本たばこ産業株式会社より寄附を受けた。この土地に隣接する市道3175・3181・3182・3184号線の道路改良工事に伴い実施された発掘調査により、調査区内より大規模な堀跡が確認された。

今後の開発行為を計画する上でも敷地内に存在する堀跡の全容解明が必要なことから、開発前の調査として発掘調査が計画された。

これを受けて常陸太田市教育委員会では、栄町102番1地先の堀跡推定位置区域である4,600㎡以内を調査対象として発掘調査による記録保存を実施することとし、令和2年4月27日、有限会社勾玉工房Mog iと業務委託契約を締結。発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査の経過

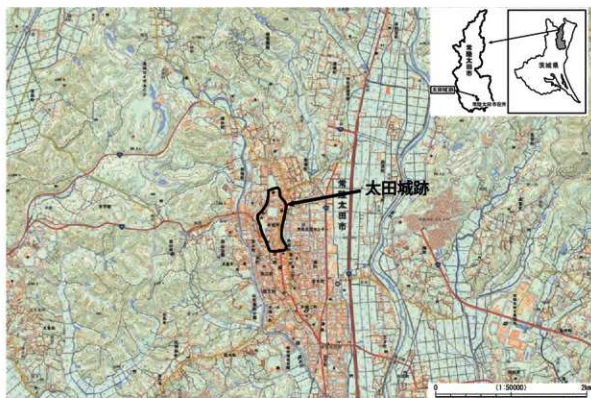
発掘調査

2020年

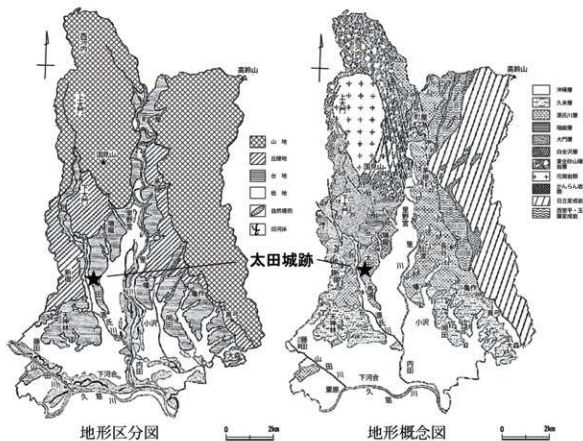
6月2日(火)～8日(月)	発掘調査準備
6月6日(土)～17日(水)	重機搬入、重機による表土除去
6月18日(木)～9月4日(金)	遺構調査(調査1・2区 SD04・05)
7月10日(金)～17日(金)	遺構調査(調査2区などの 堅穴建物跡)
7月17日(金)～8月6日(木)	遺構調査(調査3区 SD03・06, 調査2区 SD07)
8月13日(木)～10月30日(金)	遺構調査(調査3区 SD02, 調査4区 SD01)
10月30日(金)～11月2日(月)	現地説明会
11月2日(月)～11日(水)	後片付け
11月12日(木)	埋戻し協議
11月16日(月)～30日(月)	調査区埋戻し
12月1日(火)～4日(金)	発掘機材撤収

整理作業

2021年5月～7月	調査記録の整理、遺物水洗い・注記・接合
7月～11月	遺物選別、遺物実測図・拓本作成作業、遺物観察表作成
8月～12月	遺構平面図・土層断面図・土層注記照合、遺物実測図修正
10月～2022年1月	トレース作業、図版作成・レイアウト作業
1月上旬～2月	遺物写真撮影、原稿執筆、報告書編集作業
2月上旬～下旬	報告書印刷・製本



第1図 太田城跡位置図



第2図 太田城跡とその周辺の地形区分図・地質概念図 (常陸太田市編さん委員会 1984 (に加筆))

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

太田城跡は茨城県北東部、常陸太田市に所在する。

常陸太田市は南北幅40km、東西幅15km程の細長い形をした都市で、茨城県内最大の総面積371.99㎢を誇る。県都水戸市から北に20km、東京都から120km圏内に位置している。昭和29年に1町6箇村を合併し常陸太田市が誕生。更に平成16年に金砂郷町、水府村、里美村を編入して現在に至っている。

市域の地形を見ていくと、八溝山地が西部、多賀山地が北東部に展開している。八溝山地は福島県、栃木県、茨城県の県境に位置する標高1022mの八溝山を主峰とする山系で、八溝山塊、鷺子山塊、鶏足山塊、筑波山塊を伴い標高を減じつつ、南北約100kmにわたりのびていく。山形は丸みを持った壮年期の終わりの地形で谷間には平地をまばらに挟んでいる。地質的には中生代ジュラ紀に堆積した層が主であるが、各山塊間の低地には新生代第三紀、第四紀の地層が堆積している。また、4山塊に共通の層序が見られ、走行方向に連続性が確認されている。鶏足山塊においては産出した化石から逆転層の分布が認められる。八溝山に源を發し、市域を北西部から南東部にかけて東流する久慈川は八溝山塊の東縁に接し、流域の低地には第三紀の地層群が広く分布している。

北東部の多賀山地は常陸太田市東部に接している日立市に跨いで連なっている。地質的には古生代カンブリア紀赤沢層、玉簾層を基盤とし、その上部に古生代石炭紀大雄院層が堆積している。これらの地層は一般的に日立古生層と呼称される。なお多賀山地の常陸太田市に面している山縁部には日立古生層の西堂平層が露出している。

市域の河川は久慈川と並行するように山田川が流れ、中央部は里川が縦断しているが、いずれも市の南東端部で合流し、太平洋に注いでいる。里川は県北部に在する里川町付近に源を發し、阿武隈高地南部を東西に区分するように南流している。3河川は肥沃な河岸段丘を形成し、沖積低地の様相を呈しており、関東平野の北限に位置している。



西山公園展望台から望む市内風景



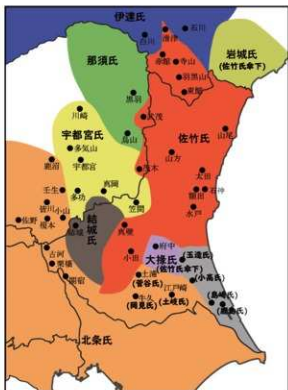
平安末期 12世紀後半



鎌倉末期 14世紀前半



15世紀後半頃



天正18年(1590)頃

第3図 時期別の佐竹氏勢力図

第2節 歴史的環境

本節では、太田城を拠点とした佐竹氏の五百年間の動向（本書4～6頁）、ならびに佐竹氏関連の主な城館跡（本書7～10頁）、佐竹氏関連の寺社（本書10～11頁）について整理を行う。太田城跡周辺の先史～古代遺跡の分布については分布図（本書8頁、第4図）として掲載した。同遺跡群の概要については割愛させて頂いた。常陸太田市教育委員会2021文献5～7頁をご参照頂ければ幸いである。

〔佐竹氏の500年〕（第3図）

佐竹氏は平安後期より秋田移封に至る凡そ500年、常陸北部を本拠地に活動した一族である。12世紀前半、源義光の孫昌義は久慈郡（佐都西郡）佐竹郷に土着、佐竹氏は成立する。昌義の子隆義は常陸平氏や奥州藤原氏と姻戚関係を結び常陸国内に勢力を拡大（第3図上段左）、平氏政権により、その武力を期待され常陸介に補任された。そのため南関東の武士団の結集に成功した源頼朝の攻撃対象となる。秀義（隆義の子）は金砂山城に籠城するも落城、花園山に逃れるが、争いは文治5（1189）年の奥州合戦まで継続する。秀義の服属により本領は安堵されたとみられるが、奥七郡には、幕府により郡地頭が設置され、佐竹氏は低迷期を迎える（第3図上段右）。但し、一方では、承久の乱[1221]の戦功で美濃国に所領を獲得するなど、その活動域は列島規模の広がりを持つものとなっていく。また、寛元3（1245）年には、佐竹義重（重義）が常陸介に任官し、諸大夫層への家格へ復帰するなど、鎌倉末期にはある程度の勢力回復に成功している。

貞義は、庶長子の月山周根が夢窓疎石の弟子であった関係から、足利尊氏・直義兄弟に接近、建武2（1335）年には常陸国守護職を獲得した。貞義・義篤父子は、同年7月中先代の乱、同3年瓜連城合戦などで、犠牲を払いながらも、恩賞として所領を獲得していく。文和4（1355）年の佐竹義篤謫状によれば、太田郷を中心とした常陸北部、さらには陸奥・越中・加賀などに所領が散在、庶子へ所領を分割させており、戦国期まで継承される佐竹氏の権力基盤の基本的枠組みはこの時期に形成された。

応永14（1407）年、佐竹氏は、山内上杉憲定の子龍保丸（後の佐竹義憲、義人）を養子として迎える。山入・稲木・長倉氏ら一族はこれに反発し、「佐竹の乱」と呼ばれる対立・抗争に発展する。この争乱は、室町幕府と鎌倉府との競合関係とも連動し、東国に断続的な抗争をもたらし、永享の乱[1438]や結城合戦[1440]、さらには鎌倉府再興以後も享徳元（1453）年の「佐竹五郎・六郎合戦」や延徳2（1490）年の山入氏による義舜の太田城追放など、古河公方足利成氏と幕府方（上杉方）の対立構造に絡んで、潜在的な対立は継続する。義舜は永正元（1504）年に太田城を奪還し、義人系佐竹氏は本宗家としての地位を確立する（第3図下段左）。

山入氏打倒により本宗家の影響力が久慈川以西に及ぶようになると、それに反発した一族層は、享禄2（1529）年に義篤（義舜の子）の弟義元を擁してこれに対抗する。義篤は、以後12年に及ぶ部垂の乱に勝利することにより、一族の内紛を克服、常陸国北部における権力を確立し、当主権の強化、奉行人層など支配機構の整備を図っている。

常陸北部を掌握した佐竹氏は、下野国や陸奥国南奥への進出を本格化させる。義篤期の天文10(1541)年に南郷東館の破却を条件に白川氏と和睦、依上保の掌握を果し、義昭期にはさらに北進して羽黒山城を攻略、既に長尾景虎(のち上杉謙信)と通じていた義昭は、足利義氏・北条氏康による白川氏との和睦調停を拒否し、永禄4(1561)年には寺山城を攻略する。一方、常陸南部では、上杉氏と連携することで、東関東の領主層との関係を深めていく。

義重期になると、永禄12(1569)年越相同盟交渉のさなかで起きた手這坂の戦い、天正2(1574)年の第三次関宿合戦での対応にみられるように、上杉氏への従属を離れ、独自の行動を取り始めていく。天正6(1578)年の小川台合戦や同12(1584)年沼尻合戦では、義重を盟主とした東関東の領主連合(「東方之衆」)が、北条氏の軍勢と対峙している。同じ頃、南奥でも天正7(1579)年蘆名氏との和睦により、岩城・石川・白川・二階堂氏を含めた領主連合が形成され、同9(1581)年には「奥州一統」が実現する。しかし、伊達政宗の南下、天正17(1589)年摺上原の戦いによる蘆名義広(義重実子)敗北により、南奥の領主連合は崩壊、佐竹氏の影響力は大きく後退し、羽柴秀吉による小田原攻めを迎える(第3図下段右)。

小田原落城後、秀吉により常陸・下野における「当知行分」21万6750貫文を安堵された佐竹氏は、天文18(1590)年末から同19年初頭にかけて江戸氏・大掾氏・鹿島行方郡の諸氏・額田小野崎氏ら自立性の高い領主層を排除し、際限なき軍役に負担し得る体制整備に着手するとともに、金山開発(註1)や製塩(註2)など、財政基盤の強化にも努めた。また、天正19(1591)年3月には太田より水戸へと本拠を移している。文禄3(1594)年には石田三成の指導の下に領内で大間検地を実施し、翌年6月には54万5800石を安堵される。同7月から9月全領規模の知行割替を実施し、近世的な領国支配体制への転換をはかった。

慶長3(1598)年8月秀吉が没すると政権内部の対立が表面化し、慶長5(1600)年には石田・毛利方(西軍)と徳川方(東軍)の対立を軸とする関ヶ原合戦が勃発する。義宣は豊臣政権への服属以来、取次である石田三成の指南を受ける立場にあったが、内部での意思統一は図れず、東軍の勝利に終わる。上杉氏、島津氏の処分が終了した慶長7(1602)年5月8日義宣は伏見にて出羽国替を命じられ、約500年続いた佐竹氏の常陸支配は終わる。

〔佐竹氏関連の主な城館跡〕(第4図)

A. 太田城と周辺の城館

太田城は陸奥へ通ずる里川一帯の谷間を後背地とし、条里制水田が形成された久慈川流域最大の平地を押さえる台地に位置し、古くからの重要な交通の要衝にあった。東・西・南は湿地帯に囲まれ、台地上にあり要害性を持つが、北方面が台地に続き弱点となる(註3)。城の範囲については、「康応記録」に下馬地点として「部田」「木崎」「白坂」「車内」「小野下」が記され(註4)、太田城周辺の城館群の存在も多数確認されており、本遺跡北東1kmの瑞龍台地には小野崎城跡、今宮館跡、小野館跡などがある(註5)。

馬坂城跡〔常陸太田市指定史跡〕は本遺跡の南西約3km、久慈川の低湿地に突き出した台地の先端部に築かれ、空堀により三つの曲輪を造成する。12世紀前半佐竹昌義が居館を構えるが、隆義期までには太田へ移り、その後、一族の稲木氏、天神林氏の居城となる。佐竹の乱終結後の16世

紀前半以降の動向は不明である。遺構の構造から、戦国城館直前の居館の段階にあるとされる。

B. 佐竹三家関連の城

久米城は本遺跡の西3kmに所在。久米の集落の北側、鹿島神社のある付近を中心として、北および東側から丘陵で集落を囲むように築かれる。四つの空間で構成され、遺構は広範囲にわたり良好に残っている。15世紀後半に山入氏に対抗するため佐竹氏により築城、のちに佐竹北家の本拠となるも、秋田移封により廃城となる。

山方城は北西15kmに所在。久慈川とその支流に挟まれた舌状台地上に築かれ、空堀によって御城、中城、外城の三つの曲輪によって構成され、詰城としての高館山がある。南には山方宿、城下には山方河岸があり、太田や太平洋方面、陸路で那珂川方面にも通じる物流の拠点でもあった。山入の乱以降、佐竹東家が在城し、南奥進出の拠点となる。東義久の南奥進出が進展すると軍事的拠点としての機能は、赤館城（福島県棚倉町）を中心とした東館（同矢祭町）・羽黒山城（同岡町）・寺山城（同棚倉町）に移っていく^(註6)。

C. その他の佐竹氏関連の城館

金砂山城（西金砂山城）は本遺跡の北西約14km、居館部分は西金砂神社の南側の陣馬と呼ばれる平坦部で、土塁が一部残っており、『吾妻鏡』に見える金砂城と比定されている。金砂山麓には佐竹氏ゆかりの寺院が存在し、京都や奥州藤原氏との関係を示す仏教文化が展開していた。

孫根城は本遺跡の南西10kmに所在。北の岩船川に臨む比高20mほどの台地先端に中心部の遺構が残る。東1.5kmには、佐竹一族大山氏の居城大山城があり、その支城であったという。延徳2（1490）年、太田城を追放された佐竹義舜は、外祖父大山義長を頼り孫根城に入った。現存する遺構は、大山城より大規模であり、城域はかなり広大であった可能性がある。

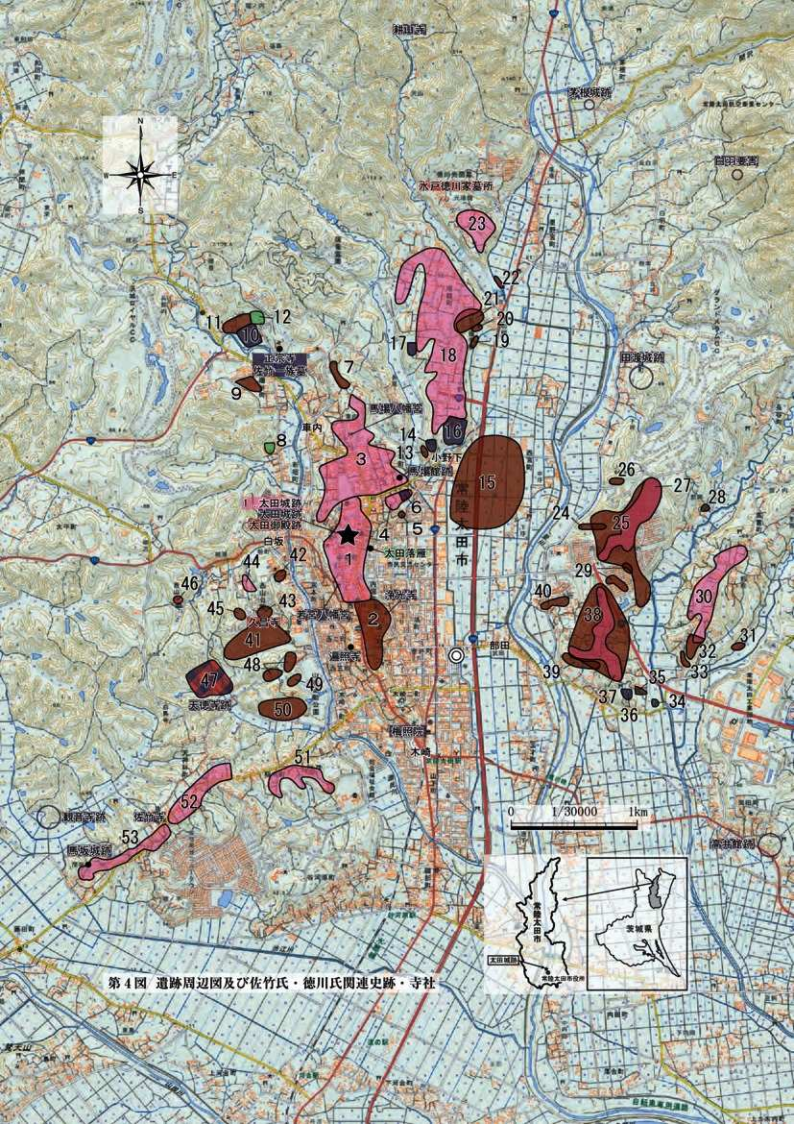
山入城〔常陸太田市指定史跡〕は本遺跡北西7km。山田川西側の要害山上に展開、城下には天下野街道が南北にはしり、「宿」「古宿」などの地名も残る。発掘調査では国産陶磁の他、貿易陶磁（青磁・白磁）などが出土、四面庇の建物を含む掘立柱建物3棟が検出されている。

瓜連城〔茨城県指定史跡〕は本遺跡の南西8kmに所在。久慈川の低地を望む台地の東端部に築かれ、主郭部は常福寺の境内となっている。南北朝期に南朝方の楠木正家、ついで北朝の高師冬が一時在城するも廃城となる。瓜連の地は、鎌倉後期には北条氏領となり、政所が置かれ、一族や得宗被官が下向した。常陸北部の主要幹線が交差する地理的条件にあり、南奥へ通ずる依上道（近世の南郷道）の起点でもあった。

部垂城は本遺跡の西約9kmに所在。大宮台地北側縁辺部に築かれ、城域は四つの郭を持ち、僅かに遺構が残る。久慈川の水運や玉川における砂金採集、甲神社を中心とする宿場の要素があって形成された城館と考えられる。享祿2（1529）年部垂の乱の舞台となった。

D. 従属国衆の城館から佐竹氏の城館へ

水戸城〔茨城県指定史跡（一部）〕は本遺跡20kmに所在。那珂川と桜川に挟まれた馬の背状の台地先端部に位置、陸奥へ通ずる陸上交通の要であるとともに、桜川・那珂川・那珂湊を結ぶ水上交通の要地でもあった。12世紀末から13世紀初頭頃より馬場氏（後に大掾氏）、15世紀初期には江戸氏、天正18（1590）年の佐竹氏による水戸城攻略と翌年の本拠移転となる。既に、16世紀前半



第4図 遺跡周辺図及び佐竹氏・徳川氏関連史跡・寺社

第1表 周辺道跡と関連寺社・史跡

No	遺跡名	時代・時期					
		縄文	弥生	古墳	奈良平安	中世	近世
1	太田城跡	○	○	○	○	○	○
2	脇ヶ丘遺跡			○	○		
3	馬場遺跡	○	○	○	○		
4	筑鼻遺跡	○	○	○	○		
5	馬場横穴			○			
6	馬場館跡					○	
7	森後台遺跡			○	○		
8	極楽寺跡					○	
9	福寿台遺跡			○	○		
10	勝楽寺跡					○	
11	池前遺跡			○	○		
12	正法院跡					○	
13	百龍横穴墓群			○			
14	今宮館跡					○	
15	中野川遺跡				○		
16	小野崎城跡					○	
17	小野館跡					○	
18	瑞龍遺跡	○	○	○	○		
19	瑞龍B横穴墓群			○			
20	瑞龍A横穴墓群			○			
21	瑞龍古墳群				○		
22	身籠山横穴墓群				○		
23	元龍館遺跡		○		○		
24	幡山西横穴墓群				○		
25	幡山古墳群					○	
26	幡山北横穴墓群						○
27	幡山遺跡	○	○	○			

No	遺跡名	時代・時期					
		縄文	弥生	古墳	奈良平安	中世	近世
28	前田遺跡	○					
29	幡山東横穴墓群						
30	高貫遺跡	○	○		○		
31	高貫東横穴墓群				○		
32	高貫古墳群				○		
33	高貫西横穴墓群				○		
34	築崎貝塚	○					
35	森栗貝塚	○					
36	幡館跡						○
37	幡台遺跡	○	○		○		
38	幡台古墳群				○		
39	幡バツケ横穴墓群				○		
40	幡台下遺跡				○		
41	山吹山横穴墓群				○		
42	陣馬横穴墓群				○		
43	元太田山師範学校跡				○		
44	元太田山遺跡				○		
45	元太田山横穴墓群				○		
46	西山御殿跡(西山荘)						○
47	田久呂寺跡						○
48	所化塚横穴墓群				○		
49	三麻堂横穴墓群				○		
50	宮ヶ作横穴墓群				○		
51	稲木遺跡	○	○		○		
52	長瀬平遺跡	○	○		○		○
53	押菜平遺跡	○	○		○		○

縄文・弥生・古墳時代

- 6 馬淵館跡 ●太田城跡
- 10 勝楽寺跡 ●正宗寺 佐竹一族墓
- 14 今宮館跡 ●馬場館跡
- 16 小野崎城跡 ●馬場八幡宮
- 17 小野館跡 ●若宮八幡宮
- 36 幡館跡 ●浄光寺

- 通照寺
- 梅園院
- 佐竹寺
- 馬坂城跡
- 茅根城跡
- 白羽館跡

- 白羽要害
- 田渡城跡
- 高井館跡
- 棋山寺
- 天徳寺跡
- 観音寺跡

筑波川家屋遺跡(古跡)

- 46 西山御殿跡(西山荘)
- 47 旧久島寺跡
- 太田御殿跡
- 久島寺
- 水戸徳川家墓所(瑞龍山)

中世以降

- 8 極楽寺跡
- 12 正法院跡

縄文・弥生・古墳時代

古墳時代以降遺跡

どちらの時代にも属する遺跡

には江戸氏により整備がなされていたが、佐竹氏時代に常陸国を代表する都市として確立する。慶長2（1597）年には府中を通して水戸へ抜ける道筋が河和田經由から長岡經由に付け替えられるなど、交通路の整備も行われている（註7）。慶長7（1602）年、佐竹氏の秋田移封後は武田信吉、徳川頼宣を経て水戸徳川家初代徳川頼房の居城となる。平成3（1993）年以来発掘調査が積み重ねられており、近世のみならず、戦国期の遺構・遺物も確認されている。

〔佐竹氏関連の寺社〕（第4図）

正宗寺は本遺跡北西1.5kmに所在。10世紀に平良持が開いた増井寺が起源で、前九年合戦に際し源頼義がここで安倍氏を調伏して以後、真言密教の勝樂寺となる。その後、佐竹氏の菩提寺となり、弘安年間（1278～88）には行義が境内に正法院を開く。南北朝期には月山周奩（貞義の子）が、夢窓疎石を中興開山に招き正宗庵を建て、臨濟禪の寺として発展する。天正期（1573～92）以降に勝樂寺・正法院は急速に衰微し、正宗寺のみが存続する。裏山には佐竹氏一族の墓と伝えられる宝篋印塔があり、旧正法院開山堂跡や正宗寺境内などから鎌倉・室町期の瓦や古瀬戸灰釉四耳壺が出土している。正徳2（1712）年正宗寺仏殿修造の際に、北宋銭を主とした22万枚を超える多数の古銭が出土している（註8）。

馬場八幡宮は本遺跡の北650mに位置。源頼義が前九年合戦の際、当地にあった熊野神社に陣をはり、石清水八幡宮を祀り戦勝祈願、康平3（1060）年に熊野社を東側に移し、八幡神社を祀ったのが起源とされる。永保3（1083）年後三年合戦の際、源義家と義光は武運長久を祈願、凱旋のとき武器を奉納した。承徳元（1097）年に義光は軍配団扇を奉納した。応保元（1161）年佐竹昌義が社殿を造営し、代々太田稲荷社とともに崇敬した。現社殿は天正8（1580）年、佐竹義重により、鎌倉に倣い現在地へ移し、再造営された（註9）。

若宮八幡宮は本遺跡の南400mに位置。創建は応永年間（1394～1428）で、山上内杉氏から入嗣した佐竹義人が鶴岡八幡宮より勧請し、太田城中に祀ったことが起源とされる。宝永5（1707）年中山信敏により現在の場所へ移されている（註10）。

佐竹寺〔国指定重要文化財〕は本遺跡の南西3kmに位置。寛和元（985）年、花山天皇の勅願で元密が堂宇を創建、もとは鶴ヶ池の洞崎を寺地とし、観音寺と称していた。佐竹昌義の帰依を受け、一族の祈願寺となる。文永6（1269）年、佐竹長義が観音堂を祈願所として再興、佐竹寺と称する。天文12（1543）年に焼失し、佐竹義昭が現在地に再興した。

清音寺（城里町）は本遺跡の南西20kmに位置。文和元（1352）年に佐竹義篤が父貞義の追善のために腹庵宗己を招き中興開山とし、太古山獅子院清音寺として臨濟宗に改めた。佐竹氏の秋田移封により衰微したが、徳川家康の助力と水戸徳川家の保護を受けて復興した（註11）。

その他、太田城周辺には現在、梅照院（木崎二町）、浄光寺（塩町）、遍照寺（西二町）、耕山寺（瑞龍町）などがある（註12）。天正18（1590）年12月、水戸城を攻略すると、江戸氏ゆかりの社寺を追放、太田の社寺の移転を行っている。同年天徳寺を江戸氏祈願寺円通寺の跡地へ移し、同19年に佐竹氏の祈禱所宝鏡院を場外杉山へ、文禄元（1592）年、馬場八幡宮を分祀し水戸八幡宮を建立、慶長元（1596）年太田木崎の法然寺を水戸へ移している。

注釈

- 註1：常陸太田市内の瀬谷・町屋、常陸大宮市内の部垂、日立市内では金沢・助川・大久保金山などがあり、本遺跡の10 km圏内に位置している。また、水戸城から約12 kmには木葉下金山、有賀金山などがある。16世紀初頭は坑道堀が開発され、金産出量が急増した時代である。金を含む地層は、茨城県域では阿武隈山地と八溝山地に見られ、金山はこれらの地域に偏在する。とくに八溝山地は承和3（836）年に金嶽上の記述が『日本書紀』にあるように古代からの産金の場であり、これに直接的に関わってきたのが、八溝修験の山伏であった。佐竹氏の鉱山経営は地域により「請山」と「直山」と2形態の方式がとられ、次第に前者から後者への変遷もみられている。天正19（1591）年には豊臣政権の直轄となるが、実際の経営は佐竹氏に委ねられていた（萩野谷2016）。
- 註2：茨城県内における製塩は、縄文時代後期にまで遡る。村松白根遺跡（東海村）では、16世紀前半の製塩遺跡と集落跡が、近隣の沢田遺跡、長砂渚遺跡も15世紀を初期の上限とする釜屋跡が確認されている。これらの地は16世紀後半には佐竹氏家臣真崎氏の支配下にあり、佐竹氏の財政基盤の一つであった可能性は高い（菅川2011、茨城県立歴史館2020）。
- 註3：15世紀半～16世紀初頭、佐竹氏は度々太田城の退去・奪還を繰り返しているが、永正元（1504）年義舜の奪還を最後にみられなくなる。この事は、太田城単体に止まらない、周辺の要害の整備と一体化した本拠の防衛体制の構築がこの時期よりなされていったことを示唆させる。
- 註4：「康応記録」は、康応元（1387）年7月14日の佐竹義宣（義香）死去時の家臣の由緒や礼節を記したとされる史料であるが、現存の写本福には、天文年間（1533～1555）の年記を持つものが複数存在しており、16世紀半ば頃の実態をある程度反映している記述と考えられる（佐々木2021）。
- 註5：国道293号線北側の台地上、里川沿いには、茅根城跡・白羽館跡・田渡城跡・幡館跡・高井館跡・小日館跡など多数の城館跡がみられ、山には小規模な詰め城跡も確認される。これらの城館の存続の時期は明らかでないが、小野崎城跡では1964年に発掘調査が行われ、溝や櫓列跡の遺構や北宋銭・かわらけ・陶磁器片などが確認されている。（常陸太田市編さん委員会編1984B、茨城城郭研究会編2017）。
- 註6：赤館城（福島黒間町）は本遺跡56 kmに位置。1998年の発掘調査では壮大な二重堀が検出されている。また、主郭部の北側に位置する郭群は、佐竹氏時代に改修された可能性が高いとされる（飯村・室野編2017年）。各城領では、衆による軍団編成がなされ、東義久の赤館城を中心に、寺山城・羽黒城に宗家家臣を配し、現地の領主層を指南させるという体制がとられた（高橋編2017）。
- 註7：水戸市立博物館編2021年。
- 註8：遺構地に2011年まで存在した盤陀石、戦国期にまで存在した「光堂」の存在から、創建の最も古い勝楽寺は浄土庭園をもつ中世寺院であったと推定される（常陸太田市編さん委員会編1984A、高橋編2017）。
- 註9：徳川光圀の「八幡社改め」は、西山御殿隠居後の元禄6（1693）年にはじまるが、整理を免れたのは水戸八幡宮、太田の若宮八幡宮、馬場八幡宮など数社にすぎず、その他は潰されるか、佐竹氏の守護神であった八幡神から祭神が代えられた。（常陸太田市編さん委員会編1984A、茨城地方史研究会編2002）。
- 註10：宝永3（1706）年12月水戸藩家老中山信敏は、松岡の城地はそのままに、大貫の上知と太田郷への采地替えを命じられ、翌年、「太田蓮華寺跡在餘古城地」への屋敷構えを許される。「聞基帳」（彰考館所蔵）によれば、太田城跡地には慶長19（1614）年に初代水戸藩主頼房の生母養珠院殿により建立された蓮華寺が存在した。信敏の屋敷構えに伴い蓮華寺は木崎への移転を命じられたが、手狭であったため稲木へ移り、久昌寺（徳川光圀生母久子の菩提寺）の末寺格となり、幕末の混乱で荒廃した久昌寺の名をたいて現存している。（『水戸紀年』『茨城県史料』近世政治編1、彰考館文庫蔵『文獻史料』六巻『茨城城史料』近世政治編1、宮澤1989、沼澤2012）。
- 註11：境内には、佐竹秀義・同義興・復興宗己の墓と伝えられる宝篋印塔「城里町指定文化財」がある。塔は、形態の特長から南北朝時代のものである。材質は凝灰岩である。佐竹一族の墓と伝えられる宝篋印塔や墓石は、他に正宗寺、浄光寺（埴町）、常光院（久米町）にある。
- 註12：寛文5（1665）年にはじまる徳川光圀の寺院整理について、破却した佐竹氏菩提寺稲木村天徳寺跡に、光圀が生母谷久子の菩提寺久昌寺を造営したように、太田では、佐竹氏ゆかりの寺院の多くが移転や破却されるなど、佐竹氏の名残を払拭しようとする意図がうかがえる。（茨城地方史研究会2002）。

第2表 太田城と佐竹氏関連年表(1)

和暦	西暦	出来事・事柄	主な関連事項
隆承元	1196	隆義実、甥の源義国(足義家の子)と常陸で戦う(常陸合戦)	
天仁2	1189	藤原(太田)通房、太田城を築く。	
長承年間	1132 ～36	この頃、藤(佐竹)昌義が常陸国久慈郡(西都郡)佐竹郷に住す	
隆成元	1161	この年、佐竹昌義、藤原八幡宮の社殿を造営	平治元年(1159)12月の乱
隆承元	1177	佐竹昌義、藤原寺(今の佐竹寺)に300貫の地を寄進	同3年(1170)11月平治合戦、鎌倉自法寺を創設する
治承4	1180	10～11月源頼朝、佐竹氏を攻める。11月5日金砂城陥落、佐竹秀義は花園城へ逃ぐ(金砂合戦)。同年11月8日頼朝、佐竹氏を没収し、新家人へ転す	同年9月源頼朝挙兵
治承5	1181	この年、佐竹隆義、常陸介に補任	
治承6	1180	7月常陸合戦、佐竹秀義陣向し、討たれて新家人となる	
壽永3	1221	5月承久の乱、佐竹氏は参賀として奥郡御守正任、山口郷、上野菅住などを獲得	
壽永2	1223	8月佐竹秀義、増井の藤原宗直に子孫正法院を建立	
壽永元	1225	12月18日佐竹秀義、鎌倉北郷の地に於て、遺骸は常陸に移され増井の正法院に埋葬	
寛元3	1245	9月9日佐竹秀義(奥義)、常陸介に任命する	同4年5月北条時朝、御行軍藤原頼朝を幽閉する
文永6	1269	佐竹行義、観音寺の寺堂を再興、「妙徳山明王院佐竹寺」とし新願寺となす	宝治元年(1247)6月三浦時高一族滅亡(宝治合戦)
弘安8	1285	佐竹行義、勝安寺境内に「勝明山正法寺」を建立、那珂西郡阿直郷600貫の地を寄進	同8年(1285)11月安達泰盛一族滅亡(曾良騒動)
永仁2	1294	佐竹行義(政義)臣、鎌倉の石井家の分限として太田に根本山蓮田寺を建立	
山中元	1321	佐竹行義、母(二階堂頼綱)の菩提を弔うため、太田(頼明)に浄光寺を建立、開山に臨阿含舎を造営して城下の地を寄進	
弘長元	1331	9月元弘の乱、佐竹行義、橋本正成の河内南牟婁攻めの幕府軍に従軍	元弘3年(1333)8月鎌倉幕府滅亡
建武2	1335	7月頃、佐竹行義、常陸守に補任	
建武2	1335	同年7月北条時行、信濃に挙兵、鎌倉を攻める(中先代の乱)。佐竹行義、足利義親に属し、武蔵国船見で時行軍と合戦、子孫昌義戦死する	12月足利時義、箱根下の戦いで新田義軍を破り西上。北条綱家、御代討つため鎌倉を出陣
建武3	1336	2月25日、佐竹行義、南朝将楠木正家の拠る瓜連城を攻撃する。子孫昌義討死し、貞義は頼朝西金砂山へ逃れる。12月31日、佐竹義隆が瓜連城を落とす	5月鎌田の戦い、頼朝元(1338)年9月北高直用、常陸国東条庄に背き、次いで神宮寺城に入る
文和3	1354	この頃、佐竹義隆、室町幕府侍所頭として活動(～延文2年「1357」)	文和元年(1352)2月足利直義没
応永15	1408	6月山内上杉憲定の子二勇胤、太田城へ入り家督を相続。佐竹義隆(のち義人)とも名乗、山内与義や佐竹一門藤本・長倉氏・棚田氏、これに反発し義隆の義隆を擁して藤本城、ついで長倉城に拠り戦う(佐竹の乱勃発)	
応永23	1416	10月上杉輝房の乱起る。山内与義・藤本父子は輝房方として、佐竹義隆は公方方として参陣する。結義らは降伏し、幕府と結びつ(京都結陣戦)となる	
応永24	1417	1月佐竹義隆、鎌倉時評を頼朝人に任じられる	
応永32	1425	閏4月幕府、佐竹義隆と山内義隆を平国守護として両佐竹氏の和親と在鎌倉を命じる	享永10年(1438)8月将軍義隆、鎌倉公方足利持氏を討つ(享永の乱)
嘉吉元	1441	4月結城澤城で結城氏朝子久丸の命(佐竹義隆)等が佐竹氏のもとに落ち延びる。5月1日将軍足利義満、佐竹氏父子討伐を命じる	享永12年(1440)3月結城合戦の騒ぎ。嘉吉元年6月24日将軍義満、赤松隆康に降参される(嘉吉の变)
享徳元	1453	佐竹実定、足利頼朝と太田城より逃れ、義隆は一族山内氏を頼り新井城に逃れる(「佐竹本朝六部合戦」)	享徳3年(1454)12月27日成氏、関東管領上杉憲忠を謀殺(享徳の乱起る。同12月24日佐竹義人没)
応仁元	1467	この年、佐竹義朝(義隆)・義隆父子、太田城を解圍する	同5月応仁・文明の乱起る。同12月24日佐竹義人没
延徳2	1490	閏7月、佐竹義輝、山内義隆・氏義の攻撃により太田城を占むが、一族山内氏を頼り新井城へ移る。江戸氏、棚田・山尾小野崎氏はこれを見届け、佐竹氏を援助する	
永正元	1504	佐竹義輝、岩城氏を支援し、山内氏義を打倒し太田城解圍	同3年4月～翌年8月吉川公方足利義氏・高基の乱
永正7	1510	12月佐竹義輝、江戸越前・總参父子と起義文を交わし、江戸氏の一軍同位の家格を承認し、「人取之事」について協定を結ぶ	同5年(1500)～翌年6月第二次政長・高基乱争、同7年(1510)6月～同9年6月第三次政長・高基乱争
享徳2	1529	源義隆(義隆弟)、小堀・長倉氏ら一族とともに源義隆攻め(源義の乱起る)	
天文9	1540	3月14日源義隆とその子武野自守(源義の乱の終結)	天文8(1539)源義氏の天文の乱起る
天文10	1541	10月佐竹義隆、岩城氏の仲介より白川氏と和親。白川氏は和親の条件として高野郡(南郷)郡領と新田城を破綻、岩城氏は郡内の長沢よりして佐竹氏を領有	
天文15	1544	この年、佐竹寺、御座より麻直棟(天神棟)に堂宇を再興	同年4月20日武蔵河越合戦起る(藤谷上杉氏滅亡)
天文20	1551	6月佐竹義朝と江戸氏通和する。江戸氏は佐竹氏の従軍下に入る	同21年(1552)3月関東管領上杉憲政、上野平井城を造る。同5月越後長尾景虎を頼り越後へ入る。6月長尾景虎、上野憲政を擁して越後を出陣。9月5日長尾景虎、上野田沼に誓降する
天禄3	1590	9月3日北条宗康、吉川公方義元の降参として、佐竹義朝は白川講和との和議を提案する。同年10月佐竹義朝、氏義の御内を拒否する	
天禄4	1591	3月下旬、佐竹義朝、小田原陣を包圍する長尾景虎(のち、上杉政勝、輝定、謙信)の出陣要請に応じ参陣する	同3月16日長尾景虎、山内上杉氏の名義を継ぐ
天禄7	1594	正月、上杉謙信、佐竹義朝・平野道広頼らとともに小田原城を攻撃する。小田原氏は頼朝宗政の居城土浦城へ逃去する	
天禄7	1594	6月、佐竹義朝、大捷首領の功績として府中城へ入城する。幕の三郎(昌幹、のちの小野崎義政)を西国の養子とし、家督を継がせる	
天禄9	1596	6月、大塚昌時、府中を退却され、大塚重直の家督に復帰する	同3月上杉輝房、白井城を攻撃するも大敗する
天禄12	1599	正月5日、佐竹義朝の小田原へ侵攻	同11年8月頃、北条氏、関原城を攻める
天禄12	1599	11月太田實正・頼朝宗政・典輝氏・大塚氏ら「東方之衆」、手塚坂で小田原陣の軍を包圍し、小田原城を攻め、佐竹義朝は小田原にて籠城行軍を行う(手塚坂の戦い)	同閏5月上杉輝房、北条氏と同盟成立(越前同盟)

第3表 太田城と佐竹氏関連略年表(2)

和暦	西暦	出来事・事柄	主な関連事項
天光2	1571	6月佐竹義重、岩城氏の本拠所に出発。病中の当主親兵衛・若年の義高(丸)のちの常陸、義重の甥に代わり、「一時的に内政に關与する。その後は義重の支援のもと社務院(親隆重 義重)が「岩城当主」として岩城氏陣営の中心を担う	同12月北条氏政、上杉謙信と手切れ、武田信玄と同盟西陣(甲相同盟)
天正2	1574	11月下旬佐竹義重、前田利家等の太田出陣。同24日下野小山で上杉謙信と会談するも、意見が合わず決裂。謙信は閉居支度から撤退。同11月16日岩城城陥落	大正元年(1573)7月北条氏邦、前田康成(第3次前田合戦)戦死
天正2	1574	この年、馬場八幡宮、藩派のため前田神守等とともに焼失	
天正3	1575	6月佐竹義重、赤松城を奪取する。赤松城支配を佐竹(家)義久へ預け置く	
天正3	1575	12月佐竹義重、常陸重臣と同盟する	
天正4	1576	6月10日佐竹義重、越中田原の集戦により従五位下(家)朝任に就任される	
天正5	1577	6月結城降参。北条氏政と手切れ、上杉謙信・佐竹義重と結託	
天正6	1578	2月北条氏邦、鎌倉藩邸に田村清綱と相談の上で「佐竹氏」への出陣を要請する	3月13日上杉謙信没し、5月謙信の没(このころ)
天正6	1578	3月～6月、佐竹義重から東方之衆、岩城氏支隊に援攻した北条氏政軍と常陸小山田村(小山田合戦)、6月7日北条氏邦討死する	6月武田勝頼、上杉景勝と同盟成立(甲相同盟)
天正7	1579	3月佐竹義重の次男唯忠丸(義貞)、白川義親に入嗣する	同年3月上杉景勝自害する(前田の乱終結)
天正7	1579	7月白川義親の仲介により佐竹義重と鎌倉義成が和睦し同盟する(両氏の影響下にある岩城・白川・二階堂を加えた連合が形成)	
天正7	1579	10月佐竹義重、武田勝頼と同盟を結ぶ(甲相同盟)	
天正8	1580	この年、佐竹義重、馬場八幡宮を「町平南」に移し、社殿を再造営する	3月9日北条氏政、越中田原へ使者を派遣し従軍する
天正9	1581	3月佐竹義重・鎌倉義成、田村方の前田出陣攻撃、田村方敗北。4月伊達輝宗・結城晴朝・相馬義胤の仲介により和睦成立。義重はその和睦を「奥州一統」と表現	大正10年(1592)3月武田氏滅亡。6月2日本能登の乱。同19日堀川一詮、北条氏高に敗れる(神代川合戦)
天正11	1583	この年春頃、佐竹義重、羽柴秀吉との通交開始か	4月殿ヶ岳の戦い。同10月25日秀吉、家康に「関東惣無事之儀」の文牒を要求
天正12	1584	5月佐竹義重から東方之衆へ、野野原茂にて北条氏と対陣する。鎌倉氏、佐竹氏方に援兵を呼び、白川義親も参戦する	同年3月～12月小教・長久平の戦い
天正12	1584	10月9日鎌倉陣降参。佐竹義重の後押しで旗本の嫡子丸若丸が家督相続	同月伊達輝宗没し、政治が家督を継承する
天正13	1585	11月17日伊達政宗、二本松城救援のため出兵した佐竹義重・岩城常隆・石川順次・白川義親・義成ら連合軍、大敗績して戦う	同年5月伊達政宗、鎌倉陣邸に侵攻し、7月秀吉、豊臣自就任。8月宇都宮攻囲。多気山城陥落
天正14	1586	12月3日秀吉、東国の諸大名・国司に対して、「関東奥兩國惣無事之儀」を家康に命じたので、それに従うように命ずる	同10月26日徳川家康、大坂で秀吉と対面・臣従する。12月秀吉、太政大臣就任。豊臣政を号せられる
天正15	1587	3月白川義成(佐竹義重の弟)、鎌倉義成(義高の弟)と結して鎌倉氏へ入嗣、黒川城へ入城する。この時、義成の田原城の名跡継承も決定する	4月謙隆・山内義弘、秀吉に降伏する
天正16	1588	2月佐竹義重、江戸藩政を支配した府中の大儀式を収める(府中合戦)	4月14日後醍醐天皇、秀吉の警備隊に降参する
天正16	1588	6月佐竹義重・鎌倉義成ら連合軍、郡山・苗田で伊達政宗と対陣する(郡山合戦)	8月22日北条氏邦没す(北条氏の秀吉への臣服)
天正17	1589	2月後半以降～3月前半、佐竹義重が結託し、鎌倉義成が家督を継承する	
天正17	1589	5月佐竹氏・江戸氏、藤田小野將監と和睦し和親する(神生川終結)	
天正17	1589	6月5日藤田上陣の戦い。鎌倉義成は常陸へ逃亡。同11日伊達政宗、黒川城に入城する	
天正17	1589	10月30日伊達政宗、藤田小野將監と結託を乞ふ。佐竹氏陣営の身分の保証、佐竹氏との合戦に勝利した場合は賠償として江戸藩を宛行うことなどを要約する	7月26日伊達政宗、白川義親と盟約を結ぶ。11月4日豊田朝宗、政宗の属臣に降参
天正17	1589	11月佐竹義重、赤松城の普請を命ずる	11月27日頃伊達政宗、岩城常隆と謀る。11月北条氏邦の部族保保。真田昌高が結城を襲撃する
天正18	1590	4月下旬佐竹義重・宇都宮国綱・結城晴朝ら、浅野長吉へ合流し、下野の小山・根本、生土、新藤城、5月同知は平氏、江戸城・藤ヶ崎・土浦城などを攻撃	3月1日秀吉、小田原攻めのために京都を出陣
天正18	1590	7月27日佐竹義重・宇都宮国綱・結城晴朝(国綱家嫡子)等とともに小田原へ出陣	
天正18	1590	7月28日秀吉、佐竹義重へ佐竹忠成・江戸川(水戸)・府中・清津四城を渡し、その他悉く織城を指し、同日鎌倉、幸山山、岩間山城の城割りなどを指示する	同7月5日北条氏政降参する。同22日岩城常隆(佐竹義重嫡)没す
天正18	1590	8月1日秀吉、佐竹義重の家督・下野の内務知行21万4千石を正式に承認する	
天正18	1590	9月23日佐竹義成丸(丸)の没後、佐竹義重(一階)、岩城氏へ入嗣する	同9月1日小田原城陥落。徳川家康
天正18	1590	12月19日佐竹氏、江戸川の水戸城を攻撃。江戸藩政・実成父子は降参する	同10月大坂・長崎一揆、和賀・真賀一揆終結
天正18	1590	12月22日佐竹氏、府中城の大陣降参を収める。陣所は自衛する	
天正18	1590	12月23日佐竹義重、秀吉の標準により従四位下・侍従に就任	
天正18	1590	この年、太田の大徳寺、江戸氏利勝宗水戸家祖廟の門前寺造営の結核へ参る	
天正19	1591	1月2日佐竹義重、参内して黄金二十兩を献上。羽柴姓を許される	
天正19	1591	1月29日秀吉、佐竹御所の御山を築造とし、佐竹氏に預け置く	
天正19	1591	2月9日佐竹氏、鹿島郡・行方郡の領主らを太田城下で謀殺する	この年、九戸政実が転赴する(九戸一揆)
天正19	1591	2月23日佐竹氏、藤田城の小野將監を攻撃。藤田は伊達政宗を頼り逃亡	
天正19	1591	3月佐竹義重、太田城より水戸城へ居城を移す	
天正19	1591	5月20日佐竹義重、田中陣営に対し、山尾城の普請や太田城の「北城庫」など、太田領・山尾領の支配について指示する	
天正19	1591	6月17日堀、豊臣降参。佐竹氏に陸奥九戸城へ2,500石の軍勢派遣を命ずる	
天正19	1591	6月20日秀吉、羽柴秀次・藤田家康・上杉景勝・藤生氏高、佐竹義重・宇都宮国綱・伊達政宗に奥州出陣を命ずる。義成は岩城氏・相馬氏「其外一平之衆」らを引率し「相馬通」を攻撃すべしことを命ぜられる	9月14日坂本大崎・高野一揆終結する。24日和賀・真賀一揆を討滅し、9月4日九戸政実降参する
天正19	1591	この年、室積院(佐竹氏の祈願寺)、太田より水戸の藤原山へ移る	
文禄元	1592	3月佐竹義重ら京都を出陣。肥前島津原へ向かう	同年3月謙隆の没(このころ)
文禄元	1592	この年、太田の馬場八幡宮を分祀し水戸八幡宮を建立	
文禄2	1593	5月23日秀吉、佐竹氏に朝参への鹿嶋御参を下す	
文禄3	1594	10月～12月佐竹義重陣(天竺院降参)	
文禄3	1595	6月19日佐竹御陣邸にまつ3佐竹義重、豊政政様3ら5,4万8,000石を安堵。このうち、結城の義重は4万石を加増され太田城・山尾城両方に5万石を号せられる	7月豊政秀次、高野山で自害する

第4表 太田城と佐竹氏関連略年表(3)

和暦	西暦	出来事・事柄	主な関連事項
文祿4	1595	7月～9月佐竹領で全領領民の知行割替を行う	
慶長3	1598	山内清季、太田城跡から水戸へ移す	
慶長5	1597	10月宇都宮氏、沼野清吉の謀害により改易される。重祿関係にある佐竹氏も連座改易の危機に瀕される。石野三成の起り成しで事なきを得る	同2年(1597)1月秀吉、朝鮮へ再渡兵(慶長の役)
慶長4	1599	同3月4日加藤清正ら七月、石田三成を襲撃、佐竹義實、三成救出に尽力する	同3年(1598)8月豊后守吉茂
慶長4	1599	12月佐竹義實、太田の將領八幡宮を再建する	同3年6月徳川家康、会津上杉攻めの命令を發す
慶長5	1600	7月26日佐竹義實、惣領御城に寄進する	同7日豊後家二奉行、13ヶ条で家康を拜請する
慶長5	1600	8月25日佐竹義實、重宝遺物を御城に返し水戸へ帰陣する	9月15日關ヶ原合戦
慶長7	1602	3月8日、家康、伏見の佐竹義實に因幡改分を伝える	4月家康、高津久史の隣城・八幡・日向を安堵
慶長7	1602	6月9日家康、佐竹領受取の使者として河野清康、島田利正を水戸に派遣。同13日大久保忠雄・本多正信を笠原に派遣。太田城の接收には河野清康が当たる。同15日佐竹義實、八幡に太田より八幡へ移る	
慶長7	1602	7月、家康、佐竹義實に「秋田・仙臺」の支配を認める御贖物帖を与える	11月武田信玄、水戸15万石に封ぜられる
慶長14	1609	12月徳川頼房、水戸藩初代藩主となる	同8年11月徳川頼家水戸20万石に封ぜられる
慶長19	1614	9月太田村妙心山蓮華寺に徳川頼房の母屋佛堂、観音を創建する	同年10月大坂の陣、慶長20年(1615)6月豊后家滅亡
寛文18	1641	この年、水戸藩、全領領民を実施する	
文祿4	1604	5月徳川光圀、西山御殿(西山荘)に歸陣	同3年10月14日徳川頼朝隠伏する
文祿9	1606	この年、水戸藩、領内の神社を整理する。特に「八幡改め」は厳しくする	文祿13年(1700)12月6日徳川光圀没
宝永4	1707	10月中山道宿、太田村において屋敷焼燬を命じられる	
宝永4	1708	12月中山道宿、蓮華寺を「古城跡」より本陣へ移し、屋敷を焼燬を命じられる	
宝永5	1708	7月中山道宿旅行の内の20館を「太田屋敷跡」の近辺に置くべきことを告げられる	
文化元	1804	この頃、太田御殿、消火により焼失	
天保4	1833	4月徳川齊昭、太田藩領など水戸八重を定める	天保12年(1829)10月徳川齊昭、水戸9代藩主となる
天保7	1836	2月徳川齊昭、太田村跡より太田城跡を命じる	
天保8	1837	9月太田に戦没追善御願される	
天保13	1842	同年秋、太田御殿再建される	天保元年(1830)1月水戸藩大坂の改易はじまる
天保3	1836	3月太田益富齋、若宮八幡宮近くに移転し武庫をもつ太田御殿(文武御殿)に改称	天保3年(1836)安政の幕府
明治20	1887	4月太田小学校が現在地に校舎を新築する	
昭和46	1971	1月15日太田小学校火災、本館・副館校舎など八棟が焼失する	
昭和51	1976	7月31日太田小学校新校舎が完成する	

参考・引用文献

- 網野善彦 2004『里の国の中世 常陸・北下総の歴史世界』平凡社
 荒川善夫 1997『戦国期北関東の地域権力』岩田書院
 茨城県考古学協会編 2010『茨城の考古学散歩』東冶書房
 茨城城郭研究会編 2017A『改訂版』図説茨城の城郭』国書刊行会
 茨城城郭研究会編 2017B『続・図説 茨城の城郭』国書刊行会
 茨城県地方史研究会編 2002『茨城県の歴史 県北編』茨城新聞社
 茨城県立歴史館編 2005『開館30周年記念特別展Ⅱ 戦国大名常陸佐竹氏』
 茨城県立歴史館編 2020『令和元年度 特別展 佐竹氏—800年の歴史と文化—』
 飯村均・室野文編 2017『東北の名城を歩く 南東北編 宮城・福島・山形』吉川弘文館
 萩野吉梧 2016『茨城県の金山道路』栃木県教育委員会ほか編纂・発行『平成二十二年度 第十八回企画展 栃木県那須風土記の丘資料館 那須のゆりがね—産金の歴史—』
 黒田基樹 2018『北条氏政』ミネルヴァ書房
 黒田基樹 2021『図説 享徳の乱』戎光祥出版
 佐々木倫朗 2011『戦国期権力佐竹氏の研究』思文閣出版
 佐々木倫朗 2021『中世における常陸佐竹氏の動向』同編著『シリーズ・中世関東武士の研究第30巻 常陸佐竹氏』戎光祥出版
 佐々木倫朗・千葉篤志編 2021『戦国佐竹氏研究の最新線』山川出版社
 瀬谷義彦監修 1982『日本歴史地名大系第8巻 茨城県の地名』平凡社
 高橋修編 2017『佐竹一族の中世』高志書院
 中根正人 2019『常陸大掾氏と中世後期の東国』岩田書院
 沼澤佳子 2012『水戸藩前期における付家老中山家の位置とその確立』『茨城県立歴史館報』39号
 常陸太田市史編さん委員会編 1984A『常陸太田市史 通史編上巻』
 常陸太田市史編さん委員会編 1984B『常陸太田市史編さん史料編 佐竹氏関連城跡』
 平井聖ほか編 1979『日本城郭大系4 茨城・栃木・群馬』新人物往來社
 福島県教育委員会編 1988『福島県の中世城跡』
 松本一夫 2015『小山市の盛衰 下野名門武士団の一族』戎光祥出版
 水戸市史編さん委員会編 1963『水戸市史 上巻』
 水戸市立博物館編 2021『水戸東照宮創建400年記念特別展 徳川頼房—初代水戸藩主の軌跡—』
 皆川修 2011『製塩遺跡について—一村松白根遺跡を中心に—』茨城県考古学協会中世シンポジウム実行委員会編
 『茨城県考古学協会シンポジウム 茨城中世考古学の最新線—編年と基準資料』茨城県考古学協会
 宮澤正純 1989『水戸藩附家老中山家の動向』北茨城市教育委員会『茨城史壇』8

第3章 調査の方法と基本層序

第1節 調査の方法

①調査区の設定：仕様書に示された調査区に基づき新たに調査着手順に“調査区”を設定した。すなわち調査1区（SD05中心）・調査2区（SD04中心）・調査3区（SD02中心）・調査4区（SD01中心）である。当初は、令和元年（2019）度調査に際し全域に設定された5m四方のグリッドの利用も考慮したが、復元に手間取るとともに、巨大な堀幅長を鑑みるとよりおおまかな区分けが妥当と考えた。なお、報告書の時点では4mグリッドによる表示を基本とした。

②調査の進め方：かなりの廃土量が予想されたため、過去の試掘で確認されていた中央部大堀（SD05）に相当する箇所から調査を開始した。堀幅8mとの想定のもとに幅10m余のトレンチ状に南から北へと掘り進めた。調査区中央部分で堀幅を減じたが、この時点ではSD05の延長と捉え、ここまです調査1区とした。桜樹付近で東に変転することを確認したため、調査2区とし、SD04を東に掘り進めることとした。推定した堀の位置が北に寄ったため、結果として古代集落跡の一部を検出することとなった。調査3区はSD05の第2屈折点から北を指すが、これ以北がSD02に繋がることとなり、また、SD03もこの一部とした。調査4区はSD01東端から直線的に幅6mほどの調査区である。

③遺構の検出方法及び記録方法：調査対象となる堀の幅・深さを考慮し、最大6mの深さまで可能な大型掘削機（0.7バックホウ）を使用することとした。遺構の保全の立場から掘削は堀の中心から両側に半載するように掘り進めながら、肩部に係る埋没土は作業員作業にて堀下に掻き落とした。堀底からは瓦運搬機を応用して、鋤簾・鍬・箕により処理した。平面図はデジタル測量委託により、断面図は土層説明注記の必要性を鑑みて手実測とした。

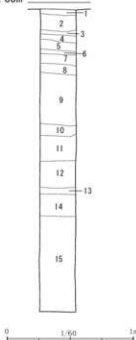
④遺物について：遺物は基本的に原位置を保つように心がけたが、急斜面のため思うに任せず集中地点一括取り上げたものも多い。また、重機掘削のため堀の埋没土内から引き上げられたものについてははき得る限り視認しながら採取した。点上げ遺物は測量委託に、その他は作業員により記録処理された。

⑤写真記録について：写真撮影はNikonFE/zoom-NIKKOR（モノクロフィルム）、CanonEos1000/CANONZOOMLENS-EF（カラーリバーサル）、NikonCOOLPIX-B500/NIKKOR40x（デジタル）、必要に応じてMamiya RB67 pro-sd（中型カメラ）を用いた。空撮はドローンにて行った。

⑥表土除去及び遺構調査ででた大量の廃土はJT敷地内の調査区外に仮置きし、発掘調査終了とともに重機により埋め戻しを行った。最終的には堀跡幅を示すアンカーを表面に設置した。

第2節 基本層序

L=37.60m



※表土層については、専売公社時のかく乱が著しいため割愛した（『太田城跡』2021年に、ほぼおなじである）。

- 1層 10YR5/6: 黄褐色 やや締まりあり、粘性なし、ソフトローム
- 2層 10YR4/4: 褐色 上層に白色バミスわずかに含む、やや締まりあり、粘性なし、AT層に相当
- 3層 10YR4/6: 黄褐色 締まりあり、粘性なし
- 4層 10YR4/4: 褐色 締まりあり、粘性なし
- 5層 10YR6/3: 鈍黄褐色 締まりあり、粘性なし
- 6層 10YR7/2: 鈍黄褐色 乳白色バミス含む やや締まりあり、粘性なし、Ag-kp 風成層
- 7層 10YR8/1: 灰白色 乳白色バミス主体、あまり締まりなし、粘性なし、Ag-kp 堆積層
- 8層 10YR6/2: 灰黄褐色 乳白色バミス含む、やや締まりあり、粘性なし、Ag-kp 浸透層
- 9層 10YR5/4: 鈍黄褐色 紫色スコリア若干、やや締まりあり、やや粘性あり
- 10層 10YR7/4: 鈍黄褐色 乳白色粘土主体、乾燥時硬質 強粘性、常総粘土層上部
- 11層 2.5Y7/3: 浅黄色 灰白色粘土主体、締まりあり、粘性強、常総粘土層下部
- 12層 2.5Y8/2: 灰白色 細砂粒主体、やや締まりあり、粘性なし
- 13層 2.5Y7/3: 浅黄色 砂粒主体、やや締まりあり、粘性なし、砂層
- 14層 2.5Y7/3: 浅黄色 鉄分吸着砂塊硬い、砂礫層
- 15層 5Y3/1: オリブ黒色 大礫石大量に含む、崩れやすい、粘性まったくなし、見和群層被層

第4章 調査成果

第1節 太田城跡の発掘調査概要

〔近年における太田城跡発掘調査概要〕

①平成20年度(2008)確認調査

日本たばこ産業太田倉庫跡敷地内に20本の遺構確認トレンチを掘削。うち合計7本のトレンチ内で遺構(堀跡)を検出。

②平成29年度(2017)試掘調査

日本たばこ産業太田倉庫跡敷地内で試掘調査。堀跡分布範囲を絞り込む。

③令和元年度(2019)調査

日本たばこ産業太田倉庫跡の外周道路(市道3175・3181・3182・3184号線)改良工事に伴い本調査を実施。弥生時代後期～平安時代の竪穴建物跡85軒、中世の柵列跡1基、焼土遺構1基、土坑24基などを発見。

※①～③の調査内容については、常陸太田市教育委員会2021文献、7～14頁を併照頂ければ幸いです。

〔今回発掘調査概要〕

今回の発掘は、上記調査結果を踏まえた、太田城跡の追跡調査である。

検出遺構

古代：竪穴建物跡15軒

中世：堀・溝跡8条、土坑4基

近代：旧専売公社太田倉庫に伴う礎石基礎、柱列、電柱

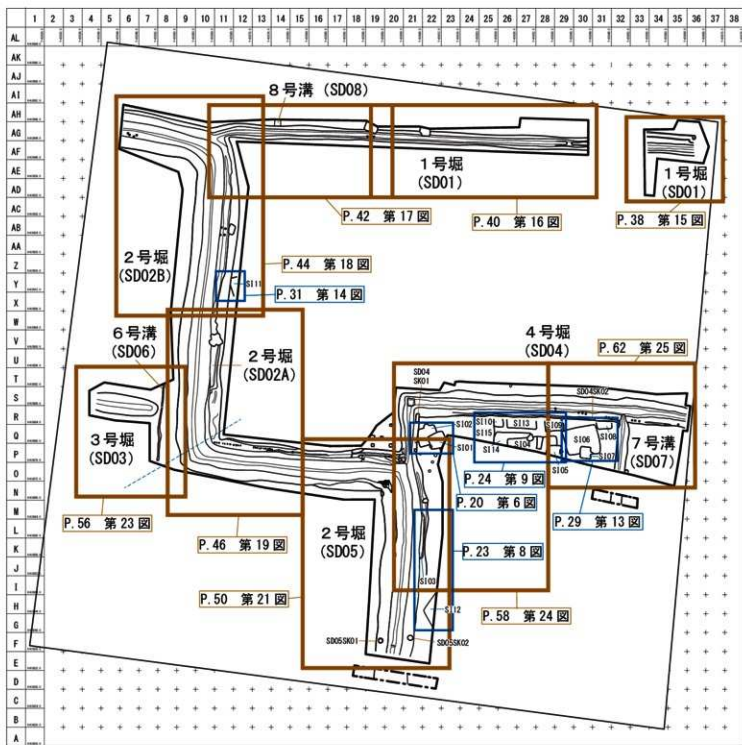
出土遺物

コンテナ箱(270換算) 18箱

縄文土器・石器、弥生土器、古墳時代～平安時代の土師器・須恵器、

かわらけ、瓦質土器、中世陶磁器、石製品、古銭

近世～近代陶磁器・瓦類



第5図 遺構配置図

第2節 古代の遺構・遺物

第1号竪穴建物跡(SI01) (第6図)

位置：調査2区、SD04が東西方向から南方に屈曲するポイントに所在する。

規模・形状：東西壁幅3.6m、南北壁幅3.2m。方形を呈する。カマドは北壁中央に確認された。

重複関係：SI02と重複する。平面プラン確認の結果、SI02より新しいと判断した。

出土遺物：SI-01・1～2を実測・図化した(第6図)(SI01・02では、両遺構重複部を中心に非実測資料としては土師器小破片約50点が出土している)。

〔備考〕SI-01・1は「ハ」字状口縁を呈しており、7世紀中葉頃の「北関東系須恵器」に比定できよう(津野ほか2004文献、池田2007文献、藤野2019文献)。なお、SI-01・2はSI01からの混入品の可能性がある。

時期：出土遺物と遺構の重複関係から7世紀中葉頃と推定したい。

第2号竪穴建物跡(SI02) (第6・7図)

位置：調査2区、SD04が東西方向から南方に屈曲するポイントに所在する。

規模・形状：東西壁幅4.1m、南北壁幅3.8m。方形を呈する。カマドは竪穴の北壁中央部で確認した(壁からカマド煙道先端までの長さは0.6m程である)。

重複関係：SI01と重複する。平面プラン確認の結果、SI01より古いと判断した。

出土遺物：SI-02・1～7を実測・図化した(第7図)(SI01・02では、両遺構重複部を中心に非実測資料としては土師器小破片約50点が出土している)。

〔備考〕SI-02・3は器面処理(黒色処理)をした口縁外反環である。東北地方南部系土器との関係を考慮すべきものであろう。一方、SI-02・2は北関東地方に多い漆仕上げ土器である。

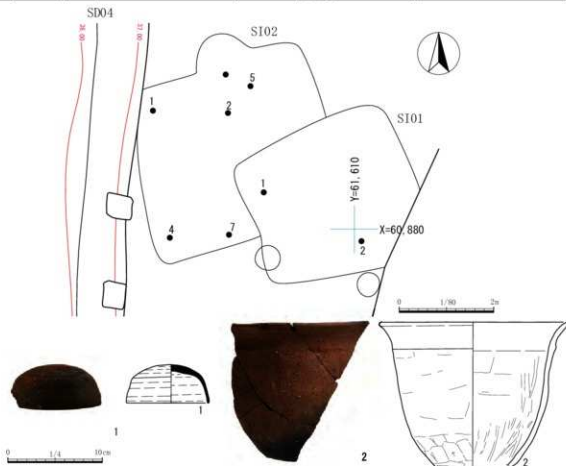
時期 出土遺物と遺構の重複関係から6世紀中葉頃と推定する。



調査2区平坂実測風景(東から)

第5表 第1・2号竪穴建物跡 (SI01・02) 出土遺物観察表

SI01						
No.	器種	大きさ	特徴	胎土	色調・焼成	備考
1	須恵器 蓋	8.9 4.1 -	口縁ロ成。天井部回転ヘラケズリ。残存率1/2	須恵器A群、 泥人物や多い	外：5B4/1暗赤灰 内：5B5/1青灰 やや硬質	逆八字状を呈する（北関東系須恵器）。産地特定できず。
2	土師器 甔	(19.6) (15.3) (7.8)	口縁部ココナデ。体部外面ヘラケズリ後、ナデ。内面ナデ後、ヘラミガキ。残存率1/4	土師器B群+ 骨針	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR6/3にぶい褐 やや硬質	
SI02						
No.	器種	大きさ	特徴	胎土	色調・焼成	備考
1	土師器 半球形坏	(12.6) (4.5) -	口縁部ココナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ナデ。残存率1/3	土師器A群+ 細砂粒	2.5YR5/8明赤褐 やや硬質	
2	土師器 半球形坏	(15.1) (4.5) -	口縁部ココナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ナデ。口縁部に漆仕上げ痕跡。残存率2/3	土師器B群+ 白色小礫	外：10YR8/3浅黄橙 内：10YR4/7にぶい黄橙 やや硬質	
3	土師器 半球形坏	(13.8) (3.3) -	口縁部ココナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。漆仕上げ	土師器B群+ 砂粒	外：10YR6/3にぶい黄橙 内：10YR4/2灰黄褐 やや硬質	
4	土師器 外反环	(15.7) (3.4) -	口縁部ココナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ヘラミガキ。黒色処理か	土師器D群+ 白色砂粒、 卵石	外：7.5Y5/2灰褐 内：7.5YR2/1黒 やや硬質	口縁部が逆八字状に大きく開くのが特徴。
5	土師器 外反环	14.0 3.0 -	口縁部ココナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ナデ。残存率1/4	土師器B群+ 白色小礫	10YR7/6明黄褐 やや硬質	口縁部が短く緩くS字状に屈曲するのが特徴。東北地方産部派か。
6	土師器 長胴甔	22.2 31.2 (7.6)	口縁部ココナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ナデ	土師器D群+ 細砂粒	10YR6/2灰黄褐 やや軟質	
7	土師器 長胴甔	19.6 (24.8)	口縁部ココナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ナデ	土師器D群+ 細砂粒	外：7.5Y7/3浅黄 内：7.5YR7/4にぶい橙 やや硬質	



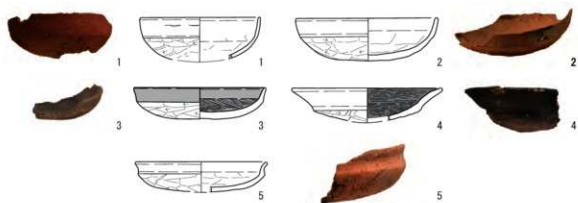
第6図 第1・2号竪穴建物跡 (SI01・02)、第1号竪穴建物跡 (SI01) 出土遺物



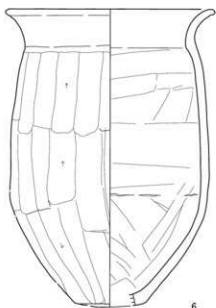
第1・2号竪穴建物跡検出状況（南東から）



第2号竪穴建物跡遺物出土状況（南東から）



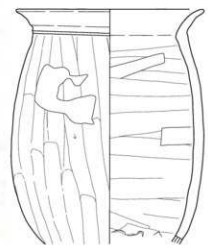
6



6



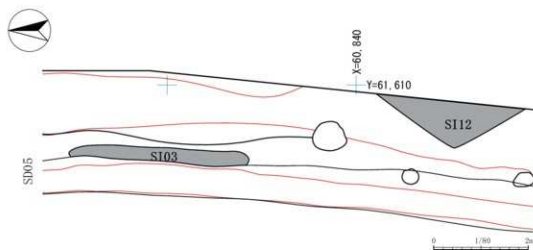
7



7

第7图 第2号竖穴建物跡(S102)出土遺物





第8図 第3・12号竪穴建物跡 (SI03・12)

第3号竪穴建物跡 (SI03) (第8図)

位置：調査1区、SD05南北方向部分の東側に位置する。

規模・形状：竪穴建物跡の北東端が確認された。東西壁幅0.4m以上、南北壁幅3.8m。

重複関係：竪穴建物跡の北東端が確認された（残り3/4はSD05によって切られる）。

出土遺物：僅少。非実測個体（土師器破片20点、須恵器小破片4点）が出土しているのみ。

時期：特定できず。

第12号竪穴建物跡 (SI12) (第8図)

位置：調査1区、SD05南北方向部分の東側に位置する。平面プランは不明瞭である。

規模・形状：竪穴建物跡の西側が確認された。東西壁幅1.6m以上、南北壁幅2m以上。

重複関係：竪穴建物跡の西側が確認された（東側はプランが明瞭に確認できなかった）。

出土遺物：なし。時期：特定できず。

第4号竪穴建物跡 (SI04) (第9・10図)

位置：調査2区、SD04の南側に位置する。

規模・形状：東西壁幅約10m、南北壁幅3.6m以上。長方形状を呈する。カマドは竪穴の北壁中央部で確認した（壁からカマド煙道先端までの長さは0.6m程である）。

重複関係：平面プラン確認の結果、竪穴西側はSI114を切り、東側はSI105によって切られると判断した。

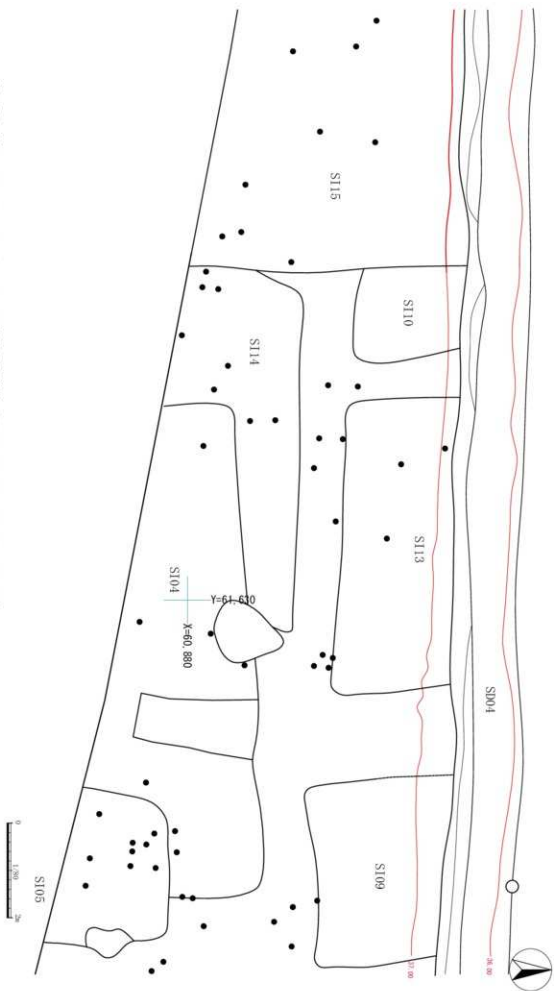
出土遺物：SI-01・1～5を実測・図化した（第10図）。なお、非実測個体としては土師器破片約70点、須恵器甕小破片4点が出土している。

〔備考〕SI-04・3は器面処理（赤色処理、ヘラミガキ）をした須恵器蓋模倣の土師器坏である。

SI-04・4は土師器漆仕上げ（内面ヘラミガキ）坏である。

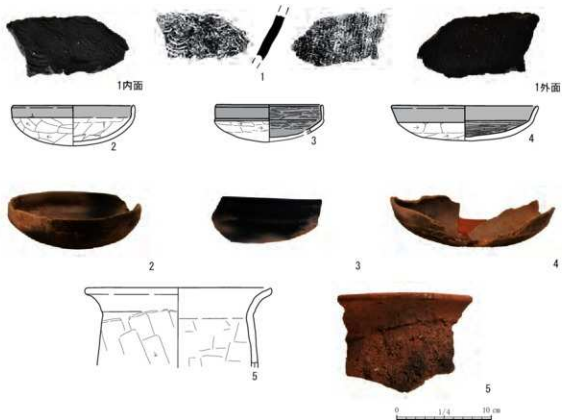
時期：出土遺物と遺構の重複関係から6世紀中葉頃と推定したい。

第9圖 第4・5・9・10・13・14・15号聚穴建物跡 (S104・05・09・10・13・14・15)





第4・5・9・10・13・14号竪穴建物跡検出状況（南東から）



第10図 第4号竪穴建物跡（SI04）出土遺物

第6表 第4号竪穴建物跡 (SI04) 出土遺物観察表

SI04						
No.	器種	大きさ	特徴	胎土	色調・構成	備考
1	須恵器 甕	(4.3)	体部破片。外面格子印き。内面 同心円状宛て具。残存率1/8以 下	須恵器A群	外:SP5/1暗紫灰 内:SB4/1暗青灰 やや硬質	生産地不明
2	土師器 杯	13.1 4.3 -	口縁部コナナゲ。体部外面へラ ケズリ。内面へラミガキ。漆仕 上げ。ほぼ完成形	土師器A群	2.SY8/2灰白 内外黒灰 やや硬質	
3	土師器 杯	(11.6) (3.1) -	口縁部コナナゲ。体部外面へラ ケズリ。内面へラミガキ。黒色 処理。残存率1/8	土師器A群	外:2.SY6/3にぶい黄 内:N1.5/黒 やや硬質	須恵器杯身模倣土師器
4	土師器 杯	15.2 3.8 -	口縁部コナナゲ。体部外面へラ ケズリ。内面へラミガキ。漆仕 上げ。残存率2/3	土師器A群	外:10TR4/2灰黄褐 被熱痕 内:10TR7/4にぶい黄橙 黒面 やや硬質	
5	土師器 甕		口縁部コナナゲ。体部外面へラ ケズリ。内面ナゲ。残存率1/8 以下	土師器D群	内外:5TR7/4にぶい橙 やや軟質	

第5号竪穴建物跡 (SI05) (第9図)

位置: 調査2区、SD04の南側に位置する。

規模・形状: 東西壁幅3.4m、南北壁幅2.4m以上。方形状を呈する。カマドは竪穴の北東壁側で確認した(壁からカマド煙道先端までの長さは0.3m程である)。

重複関係: S104と重複する。平面プラン確認の結果、竪穴西側はS104を切るかと判断した。

出土遺物: なし。 時期: 遺構の重複関係から6世紀中葉以降と推定したい。

第9号竪穴建物跡 (SI09) (第9図)

位置: 調査2区、SD04の南側に位置する。

規模・形状: 東西壁幅4m、南北壁幅3.2m以上。方形状を呈する。

重複関係: 竪穴建物跡の南端が確認された(残り3/4はSD04によって切られる)。

出土遺物: なし。 時期: 特定できず。

第10号竪穴建物跡 (SI10) (第9図)

位置: 調査2区、SD04の南側に位置する。後世の擾乱が著しく、平面プランもやや不明瞭である。

規模・形状: 東西壁幅2m以上、南北壁幅2m以上。方形状を呈する。

重複関係: 竪穴建物跡の南東端が確認された(残り3/4はSD04やS115によって切られる)。

出土遺物: なし。 時期: 特定できず。

第13号竪穴建物跡 (SI13) (第9・11図)

位置: 調査2区、SD04の南側に位置する。

規模・形状: 東西壁幅6.2m、南北壁幅2.4m以上。方形状を呈する。

重複関係: 竪穴建物跡の南端が確認された(残り3/4はSD04によって切られる)。

出土遺物 SI13-1を実測・図化した(第11図)。なお、非実測個体としては土師器破片約11点、須恵器破片2点が出土している。

時期 出土遺物からみて7世紀前～中葉頃に推定してみたい。

〔備考〕SI-13・1は北関東地方に多い漆仕上げ土器(内面ヘラナデ調整)である。

第14号竪穴建物跡(SI14)(第9図)

位置:調査2区、SD04の南側に位置する。

規模・形状:東西7.6m、南北3m以上。方形を呈する。なお現状でカマドは確認されなかった。

重複関係:竪穴建物跡の北端～西側が確認された。プラン確認の結果、東側はSI04によって、西端もSI15によって切られると判断した

出土遺物:覆土中から須恵器破片、土師器破片が少量出土した。

時期:遺構(SI04)の重複関係から6世紀中葉以前と推定したい。



第11図 第13号竪穴建物跡(SI13)出土遺物

第7表 第13号竪穴建物跡(SI13)出土遺物観察表

SI13	No.	器種	大きさ	特徴	胎土	色調・構成	備考
1		土師器 杯	13.5 5.5 -	口縁部ココナデ。体部外面ヘラケズリ。内面ナデ。一部ヘラミガキ。漆仕上げ。完形	土師器II群	10R5/4に近い黄褐色内面黒塗 やや硬質	

第15号竪穴建物跡(SI15)(第9・12図)

位置:調査2区、SD04の南側に位置する。後世の攪乱が著しく、平面プランも不明瞭である。

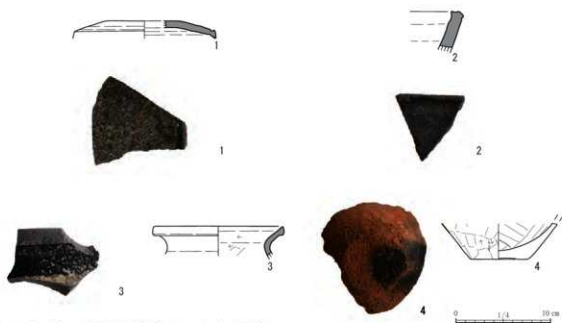
規模・形状:東西約3m程、南北5.8m以上。方形を呈する。

重複関係:竪穴建物跡の中央部分が確認された。平面プラン確認の結果、東側はSI14を切ると判断した。

出土遺:SI15-1～4を実測・図化した(第12図)。なお、非実測個体としては土師器破片約47点、須恵器破片7点が出土している。

〔備考〕SI15-4は常総系土師器甕の底部破片である。ヘラケズリ主体であることから櫻村1998編年・6期[9世紀前半]以降に比定できよう。

時期:出土遺物からみて9世紀頃と推定したい。



第12図 第15号竪穴建物跡 (SI15) 出土遺物

第8表 第15号竪穴建物跡 (SI15) 出土遺物観察表

SI15						
No.	器種	大きさ	特徴	胎土	色調・構成	備考
1	須恵器 蓋	(15.0) (1.4) -	ロクロ成形。天井部外面に自然 釉(オリーブ灰色)付着。残存 率1/8以下	須恵器B群	外:10Y6/2 オリーブ灰 内:10Y6/1 灰 やや硬質	短頸蓋の蓋か。産地不明
2	須恵器 小型短頸 蓋	(14.0) (3.1) -	ロクロ成形。口縁部ヨコナデ、 自然釉(浅黄色)付着。内面ナ デ。残存率1/8以下	須恵器B群	外:5Y7/4 浅黄 内:M4/ 灰 やや硬質	産地不明
3	須恵器 甕	(2.3) -	ロクロ成形。口縁部外面に波状 文を施す。残存率1/8以下	須恵器A群	外:N2/0 黒 内:N3/0 暗灰 やや硬質	産地不明
4	土師器 甕	(3.8) 6.1	体部外面回転ヘラケズリ。底部 ナデ。内面ナデ。残存率3/4	土師器B群	内:10Y5/4 に近い黄褐 外:7.5Y6/6 橙 一部赤味 を帯びる 内外黒斑	

第6号竪穴建物跡 (SI106) (第13図)

位置: 調査2区、SD04の南側に位置する。

規模・形状: 東西壁幅7.2m、南北壁幅3.6m。長方形状を呈する。なお現状でカマドは確認されなかった。

重複関係: S107と重複する。プラン確認の結果、S107より古いと判断した。なお、北西でS109に近接するものの重複関係はなかった。

出土遺物: 実測個体なし。非実測個体としては土師器破片約30点、須恵器甕小破片1点が出土している。

[備考] 細片のため実測図化しなかったが、須恵器坏身模倣の土師器坏口縁部小片(器面処理なし)が出土している。

時期 出土土器と遺構重複関係からみて6~7世紀頃と推定したい。

第7号竪穴建物跡 (S107) (第13図)

位置：調査2区、SD04の南側に位置する。

規模・形状：東西壁幅幅2.2m、南北壁幅幅2.4m。方形状を呈する。なおカマドは竪穴の東壁中央部で確認した(壁からカマド煙道先端までの長さは0.6m程である)。

重複関係：S106と重複する。平面プラン確認の結果、S106より新しいと判断した。

出土遺物：；実測個体なし。非実測個体としては土師器破片約30点、須恵器小破片5点が出土している。

〔備考〕細片のため実測図化しなかったが、ロクロ土師器坏(内面黒色処理、ヘラミガキ)の小片が出土している。

時期 出土土器と遺構重複関係からみて9世紀頃と推定したい。

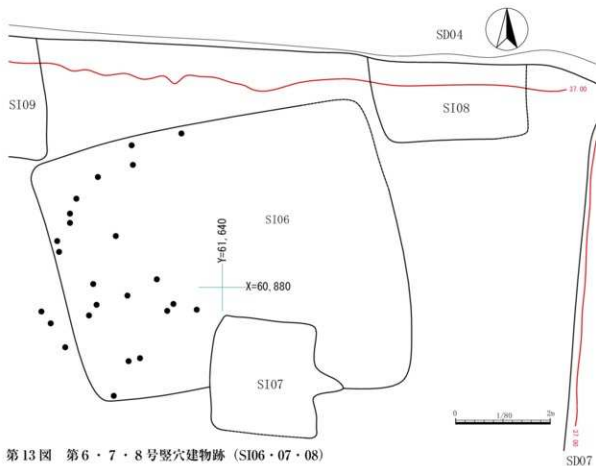
第8号竪穴建物跡 (S108) (第13図)

位置：調査2区、SD04の南側に位置する。

規模・形状：東西壁幅幅3.4m、南北壁幅幅1.6m以上。方形状を呈する。

重複関係：竪穴建物跡の南端が確認された(残り3/4はSD04によって切られる)。

出土遺物 なし。 時期 特定できず。



第13図 第6・7・8号竪穴建物跡 (S106・07・08)

第11号竪穴建物跡 (SI11) (第14図)

位置 調査1区、SD02の東側に位置する。

規模・形状:竪穴建物跡の南西端が確認された(残り3/4以上は調査区外に展開)。東西壁幅1.8m以上、南北壁幅3.8m以上。重複関係:なし

出土遺物:SI-11・1～3を実測・図化した(第14図)。なお、非実測個体としては土師器破片約27点、須恵器破片2点が出土している。

[備考]SI-2・3は、口縁端部を直立的に積み上げ受口状にする常総系甕(体部外面へラケズリ調整)である。大賀2013分類・整形③、器形C類[8世紀末～9世紀代]、吉田1998分類・3～4類[9世紀第2～3四半期]、樫村1998編年・6～7期[9世紀前半～後半]に比定できよう。

時期:出土遺物からみて9世紀前～中葉頃と考えられる。

第9表 第11号竪穴建物跡 (SI11) 出土遺物観察表

SI11						
No.	器種	大きさ	特徴	胎土	色調・焼成	備考
1	須恵器 坪	(0.9) 8.0	ロクロ成形。底部外面回転ヘラケズリ。残存率1/8以下	須恵器A群	10B06/1 青灰 やや硬質	産地不明
2	土師器 小型甕	(14.6) (7.9)	口縁端部を直立的に積み上げる。口縁部ヨコナゲ。体部外面ナゲ。内面ナゲ。残存率1/4	土師器C群	外:5YR5/6 橙 被熱痕 内:10YR8/4 淡黄緑 黒斑 やや硬質	常総系土師器甕
3	土師器 甕	20.4 (24.4)	口縁部ヨコナゲ。体部外面ナゲ。内面ナゲ。完周。	土師器C群	7.5YR5/8 明褐 黒斑 やや硬質	

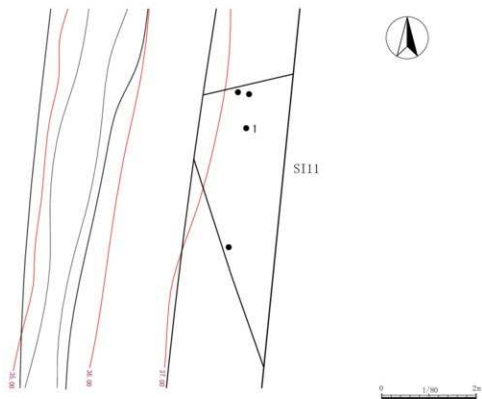


第11号竪穴建物跡掘出状況(南東から)

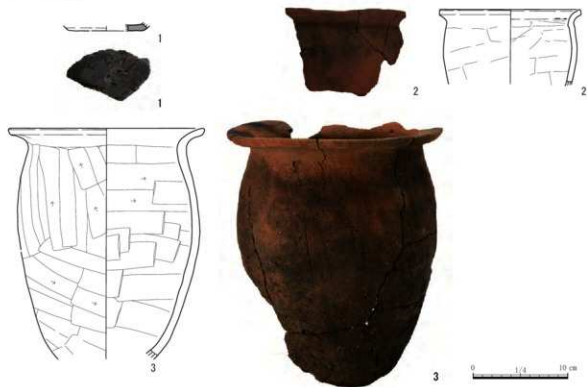
参考・引用文献

- 樫村宣行 1998 「常総型甕」編年小考—茨城県南部を中心として—『列島の考古学—渡辺誠先生還暦記念論集—』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会
- 吉田 哲 1998 「第4章 まとめ」『八木岡1遺跡』栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
- 津野 仁ほか 2004 「三森山麓窯跡群の須恵器生産(II)」『栃木県考古学会誌』第25集。栃木県考古学会
- 池田敏宏 2007 「IV. まとめ 2. 古墳時代後期～平安時代」『古館遺跡・三反田遺跡』栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 大賀 健・大賀さつき 2013 「第5章 まとめ 第1節 叩き手法を用いる「常総型甕」についての一考察」『茨城県土浦市 下坂田埜古墳群・下坂田埜古墳群』土浦市教育委員会
- 藤野一之 2019 『古墳時代の須恵器と地域社会』六一書房

SI11 平面图



SI11 出土遺物



第14图 第11号竖穴建物跡 (SI11)

第3節 中世の遺構・遺物

1. 堀跡

堀跡の名称は2019年に今回の調査区周縁調査された際のものに継承した。すなわち北東端に検出された1号堀跡(SD01)は調査区内北端を東西に延び、北西部にある巨大な2号堀跡(SD02)は東に向かい直角に南に折れ、南西部の3号堀跡(SD03)、東中央部から東西に延びる4号堀跡(SD04)がある。ただし、2004年試掘調査の際に存在が明らかとなっている南中央部の堀はSD05と略称して調査を開始したが、調査区内において2号堀跡と結合したため、本編では2号堀跡として取り扱うこととする。

覆土については本来ならば1遺構ごとに各断面において共通する土層に同一番号を付与し、統一を図るべきところであるが、以下の問題が生じてきた。

① 広大な平面積と深さ、一遺構に係る調査期間に幅があるという遺構の性格上、比較検討が実際的に不可能である。





② 同じような理由から、同一と思われる土壌の夾雑物混入度にかかなりの差異が生じている。

③ 周辺の地層から同じ高さに相当する土壌の混入物に差異が生じてきている。


以上のことを考慮し、本調査においては1断面ごとに土層番号を完結することとした。

整理作業の過程に至り図面と写真を比較しながら、土壌の基本色調と夾雑物混入度および共通する性状を加味して、堆積状況に共通性が認められると思われる土層に彩色したのが、本書に示した断面図である。

彩色土壌（堀の堆積過程を示す土層）

-  黒褐色：黒色土とロームブロックを多く含む比較的薄く硬い層。（埋め土A）
-  褐色：暗褐色土とロームブロックを含む部厚いや粘性に富む層。（埋め土B）
-  黄色：灰黄褐色土中にロームブロックを多く含む比較的硬い層。（埋め土C）
-  橙色：黒褐色土に多量のロームブロックを含む層。（埋め土D）

以上4種の土壌はロームブロックを含む共通性があり、短期間に埋め戻しが行なわれた際に形成された土層と判断した。

-  濃紺色：オリーブがかった黒褐色基調の極めて粘性に富み、小ロームブロックやや多量・細砂粒多量に含む土壌で、泥湿地にみられる腐植土に類似する。基本的には堀の最下層を構成する。（泥質土）

スクリーントーン（後世の造成と攪乱）

- 10%：鈍い黄褐色基調の礫や砂を大量に含む。縮まりあるが粘性ほとんどなし。
明治期工場建設に伴う造成基盤。（基盤）
- 20%：黄褐色土と黒色土の互層を成し、乾燥時には硬く縮まる。
工場建設の基礎固めか。（基礎）
- 30%：大礫を多く伴う現代の攪乱坑。（攪乱）

1号堀跡 (SD01)

本調査区北端に東西に延びる堀跡で、AG 10～35Gr.に亘って延長106.0mを検出した。主軸方向はほぼ東西一直線である。断面形は斜度45°を保ち底面は平坦となる箱堀(一部最下面においてわずかに箱葉研状を呈す)に相当する。断面観察は5か所で行ったが、現検出面(ローム上面)における各諸元(堀幅:底幅:深さ:標高と土層の特徴)は東端のA.secから以下のとおりである。

A.sec 堀幅:2.9m 底幅:0.65m 深さ:1.60m 標高:35.0m

土層:最下面は一段と深く掘り込まれ、黒褐色土主体の流入土上面に泥湿土が形成される(標高35.3m相当)。泥湿土直上に埋め土Dが部厚く堆積する。

B.sec 堀幅:2.7m 底幅:0.60m 深さ:1.55m 標高:34.9m

土層:他でみられた泥湿土は不明瞭である。

C.sec 堀幅:3.0m 底幅:0.60m 深さ:1.75m 標高:35.7m

土層:黒褐色土主体自然流入土上面に泥湿土が形成される(標高36.1m)。泥湿土直上に埋め土Dが部厚く堆積する。

D.sec 堀幅:2.8m 底幅:0.90m 深さ:1.60m 標高:35.7m

土層:最下面は一段と深く掘り込まれ、最下層に泥湿土がみられる(標高35.6m)。周辺からは堀面の崩落土の流入がみられる程度である。

E.sec 堀幅:1m 底幅:1m 深さ:1.20m 標高:35.4m

土層:2号堀跡との新旧を確認するため、斜めに横切るような断面観察を行った。堀底の一部にはやはり泥湿土がみられ、2か所にある埋め土Aの存在からみて2号堀跡より新しい時期まで機能していた可能性がある。

(遺構の特徴) 磁北に合せてほぼ東西に走る、幅10尺・深さ概ね6尺の箱堀である。同じく規模・形状の類似した4号堀跡とは55m(芯々間)の間隔を有す。泥湿土面が2枚みられることから、改修再利用の可能性もあるが、極めて短期間であったように思われる。底面は西に向かってやや傾斜する。北端を並走する溝(SD01-2)は近代産業遺跡の所産と考えられる。

(遺物出土状況) 陶器・土師質土器など出土した。SD01・4は東端部の堀底に密着して、他のかわりも堀底または堀壁面に接していた。本遺構廃絶時に極めて近い時期のものであろう。

2号堀跡 (SD02・SD05)

本調査開始当初南部中央(SD05に相当)から着工したため、調査経過に従って南半部分より記述する。SD05と仮称したのは第2屈折部から南東部分に当たり、2号堀全体のほぼ半分に相当する。

第1屈折部(O 20Gr.付近)に至る南北延長37.5mおよび第2屈折部(P 9・10Gr.)までの東西延長40.0mをSD05として検出した。主軸方向は南北ではわずかに5°ほど東に振れ、東西でも同じく5°北に振れ屈曲度は90°である。断面形は左右堀面で斜度に差があるようで、底面は鋭い葉研堀を呈する。断面観察は4か所で行ったが、現検出面(ローム上面)における各諸元(堀幅:底幅:深さ:堀底標高・斜度(本城に向かって内側と外側)と土層の特徴)は以下のとおりである。

A. sec 堀幅：7.5 m以上 底幅：不明 深さ：4.8 m以上 標高：32.7 m 斜度：内 52° 外 49°
土層：表土層が部厚く崩落が著しいため断面観察（土層説明）できず。

B. sec 堀幅：8.2 m 底幅：0.30 m 深さ：4.4 m 標高：32.7 m 斜度：内 44° 外 51°
土層：最下層に粘性の強い黒色土が流入し、その後埋め土D・埋め土Bと水平に堆積する。さらに埋め土Cが外側から投げ込まれるように堆積している。上層は部厚い造成基盤で覆われる。

C. sec この断面観察では、①～⑧の外側斜面と1～14がSD05堀本体の土層と判断した。
外側傾斜部からは埋め土C・Dの流れ込みがみられ、その上層に褐色主体のBが全体を覆っていることがわかる。この一部を掘り込んで⑨～⑬がみられ、大半は後世の攪乱である。

出土した遺物や遺構の土層観察から2号堀が埋め立てられた後に4号堀が改めて掘削された可能性を推定したい。

D. sec 堀幅：8.0 m 底幅：0.20 m 深さ：4.1 m 標高：33.8 m 斜度：内 45° 外 43°
土層：この断面では中層にまで及ぶ造成基盤の造作が複雑に行われている。内側には礫を組み上げた基礎がみられ、外側には木杭列がみられる。C. secに表れた攪乱直下の構造（3～13層）もその一部と思われる。

次にSD02とした部分について説明する。

第2屈折部（P9・10Gr.）から第3屈折部（AF10Gr. 付近）に至る南北延長60.5 mおよび第3屈折部以西の東西延長17.5 mをSD02とした。主軸方向は南北でわずかに 5° 東に振れ、東西でも同じく 5° 北に振れ屈曲度はほぼ 90° である。断面形は左右堰面で斜度に差があり、底面は鋭い稜研堀を呈する。断面観察は4か所で行ったが、現検出面（ローム上面）における各諸元（堀幅：底幅：深さ：堀底標高・斜度（本域に向かって内側と外側）と土層の特徴）は以下のとおりである。

A. sec 堀幅：8.0 m 底幅：0.10 m 深さ：3.8 m 標高：32.7 m 斜度：内 49° 外 36°
土層：底面に泥湿土がわずかに堆積し、直上に内側からの流れ込みと思われる埋め土A・C・Dがみられる。造成基盤は下層にまで及び外側には木杭基礎工事の痕跡が明らかである。

B. sec 堀幅：8.8 m 底幅：0.10 m 深さ：3.8 m 標高：33.2 m 斜度：内 45° 外 36°
土層：黒褐色基調の極めて粘性に富み、細砂粒を多量に含む典型的な泥湿土が底面に溜まり、埋め土Bが水平に部厚く堆積する。さらに内側から埋め土C・Dが投げ込まれた状態を示している。造成基盤層と基礎固めの硬質層は厚さ2 mに及ぶ。なお、外側堀肩には黒褐色土(A)とロームブロック主体(C)で版築された埋め戻し部分がみられ、2号堀以前に浅い堀(SD02Aとする)の存在が明らかとなった。

C. sec 堀幅：8.6 m 底幅：0.30 m 深さ：3.4 m 標高：33.3 m 斜度：内 45° 外 35°
土層：典型的な泥湿土が底面に溜まり、内側からの埋め土C・Dが投げ込まれたように堆積する。外側肩部に埋め戻されたSD02Bの痕跡がみられる。

E. sec 堀幅：8.4 m 底幅：0.20 m 深さ：3.75 m 標高：33.7 m 斜度：内 42° 外 40°
土層：底面に泥湿土がわずかに堆積し、直上に外側からの流れ込みと思われる埋め土B・C・Dがみられる。造成基盤は上層に広くみられる。

(遺構の特徴) 磁北わずかに東向きに並行直行3転して走る。幅27～28尺(4.5間強)・深さ12.5～14.5尺(2丈余り)の典型的な葉研堀である。調査区内確認された全長は155.5m(86間以上)。斜度についてみるとSD05部分では明瞭でないが、SD02部分では明らかに内側に急傾斜を設けていることが分かる。

底面一体に厚い泥湿土面がみられることから、かなりの期間泥湿地帯を成していたと思われる。B.sec付近から巨大な“高師小僧”(酸化鉄付着の竹類残骸カ)が検出された。また堀内側から埋め土が投げ込まれていることから、小規模土塁が存在した可能性も否定できない。

堀外側肩部にある浅い堀の痕跡から、SD02Aは幅2.5m以上、深さ1.7m前後、確認全長12mほどが想定される。

(遺物出土状況) 陶磁器・かわらけ・古銭貨など出土した。陶器のうち灰釉小皿類はSD05第1屈折部と第2屈折部外側堀肩に集中していた。またSD02の第3屈折部付近にかわらけのまとまりがある。古銭貨は第2屈折部外側上面からの出土である。

3号堀跡 (SD03)

本調査区西端に東西に延びる堀跡で、S4～7・R4～7Gr.に亘って延長13.0mを検出した。主軸方向はわずかに北向きとなる東西一直線である。断面形は斜度55°を保ち底面は平坦となる箱堀である。断面観察は2か所で行い、現検出面(ローム上面)における各諸元(堀幅:底幅:深さ:標高と土層の特徴)は以下のとおりである。

A.sec 堀幅:3.9m 底幅:1.0m 深さ:2.0m 標高:34.2m

土層:下層に黒色土主体の埋め土Dが、レンズ状に堆積している。他の堀に比較して湧水が著しい。

B.sec 堀幅:3.9m 底幅:0.6m 深さ:2.15m 標高:34.3m

土層:黒色土主体の、いわゆるレンズ状堆積である。湧水が著しい。

(遺構の特徴) 5°ほど北に振れ東西に走る、幅13尺・深さ概ね7尺の箱堀である。主軸の一致する2号堀跡とは4mの間隔(土橋状の施設)を有す。また、6号溝跡がこの空間を走る。

(遺物出土状況) 埋め土中に出土したかわらけの他はほとんどない。

4号堀跡 (SD04)

本調査区中央に東西に延びる堀跡でS20～36Gr.・R20～36Gr.に亘って延長55.0mを検出し、さらに南へ12.2m降って、2号堀跡に至る。主軸方向はほぼ東西一直線である。断面形は斜度平均45°で、中段から急角度となり底面は平坦な埋め土D、箱葉研堀である。断面観察は3か所で行ったが、現検出面(ローム上面)における各諸元(堀幅:底幅:深さ:標高と土層の特徴)は以下のとおりである。

A.sec 堀幅:4.9m 底幅:0.90m 深さ:2.25m 標高:34.75m

土層:最下面は一段と深く掘り込まれ、埋め土Dに覆われる。中層に埋め土C・Dの薄層がレンズ状に堆積し、上面には造成基盤が広くみられる。

B . sec 堀幅：5.0 m 底幅：1.20 m 深さ：2.40 m 標高：35.2 m

土層：最下層に薄く泥湿土がみられるが、部分的である。下層に外側から埋め土Cの流れ込み、上面には造成基盤層がみられる。

C . sec 堀幅—m 底幅：—m 深さ：2.40 m 標高：35.2 m

土層：屈折部の土層観察図である。黒褐色土とロームブロック主体の埋め土Dが最下層を覆い、外側に埋め土Bの薄層が形成される。中層以上に造成基盤が厚くみられる。

（遺構の特徴） 磁北に合せてほぼ東西に走る、幅16.5尺・深さ概ね8尺の箱葉研堀である。同じく規模・形状の類似した1号堀跡とは55mの間隔を有す。底面は東に向かってやや傾斜する。底面が常総粘土層のため、雨水溜まりとなっている。

（遺物出土状況） かわらけなど出土したが、堀底からは破片のみである。

2. 溝跡

6号溝跡 (SD06)

2号堀跡と3号堀跡の間、土橋と思われる空間に、2号堀跡と併行して走る溝跡である。幅：0.4 m 深さ：0.15 m 確認した長さ：16.5 mでさらに北に続く。断面形は「U」字形を呈すが、詳細に観察するならば、東壁面が直立するようである。南端より花瓶SD06・1が出土した。

7号溝跡 (SD07)

4号堀跡に向かって南から流れ込む確認全長12.3mの溝跡である。断面形状は葉研を呈し、傾斜度は70°に達する。幅：22 m 底幅：0.25 m～0.5 m 深さ：2.25 m～2.4 m 底面標高：35.5 m～35.1 m。なお、南への延長はトレンチで確認した結果、少なくとも10mにのぼることが明らかである。

最下層に泥湿土、直上に埋め土Dが、下層から中層にかけて埋め土B・C・Aが順次レンズ状に堆積する。遺物はほとんどない。

8号溝跡 (SD08)

調査区北西端（AG 11Gr.）、1号堀跡と2号堀跡の接する付近に確認された溝跡で、断面観察に留まる。北に向かって直線的に走るようであるが、平面的な調査はできなかった。幅：1.7 m 底幅：0.55 m 深さ：0.72 m 標高36.2 m、傾斜度53°ほどの箱形断面である。遺物はない。

3. 土坑

今回は堀跡を中心とした調査のため、堀跡に関係した中世期土坑のみを対象とした。(遺構番号は堀跡・土坑の組み合わせのまま使用)

SD04SK01

4号堀跡屈折部(R 21Gr.)に位置する。長さ:3.7m 幅:1.4m 深さ:1.9m以上の長方形、垂直に掘り抜かれている。覆土は褐色土主体で軟質である。中層以下に土師質土器皿がまとも出土した。堀跡以前の所産である。

SD04SK02

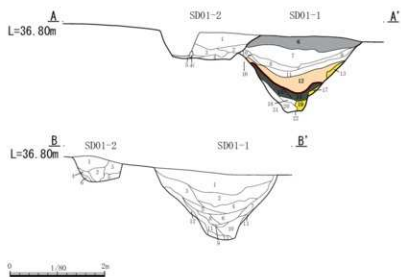
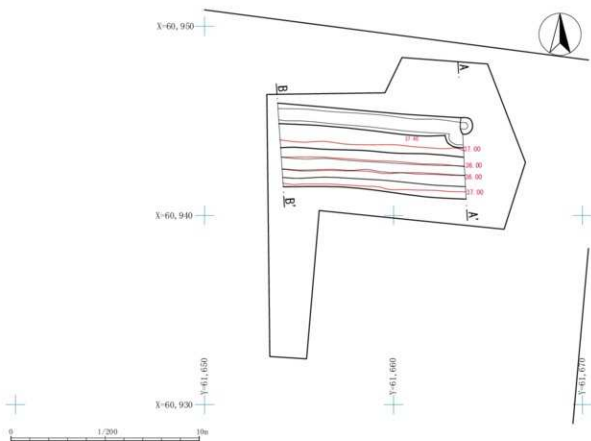
4号堀跡南斜面(S 30Gr.)に位置する。堀の傾斜に合わせて削られていたため全体の形状は不明である。現状では長さ:0.65m 幅:0.4m 深さ:0.45mの楕円形で、垂直に掘り抜かれている。覆土は黒色土主体である。底面に土師質土器皿が折り重なって出土した。堀跡との新旧関係は不明と言わざるを得ない。

SD05SK01

2号堀跡南端部(F 19Gr.)に位置する。径:1.0m 深さ:0.9m、底は平坦、断面は桶状に掘り込まれている。覆土は褐色土主体で堀掘削に伴い埋め戻されたと思われる。貯め井戸の可能性もある。

SD05SK02

2号堀跡南端部(F 20Gr.)に位置する。径:1.0m 深さ:1.2m以上、底まで確認できなかった。断面は桶状に掘り込まれている。覆土は黒色土主体で自然埋没と思われ、井戸の可能性が高い。覆土内から中世前期の陶磁器片が出土した。



第15图 1号堀 (SD01) (1)

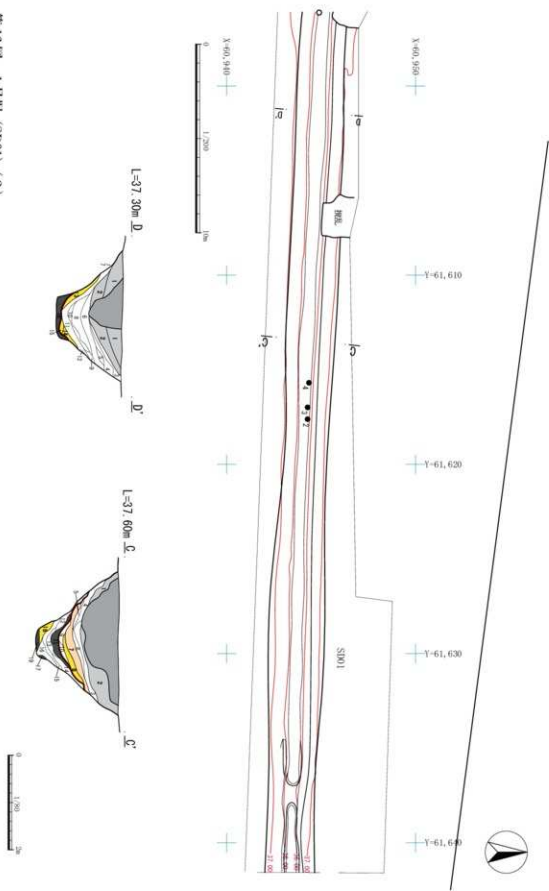


1号堀 (西から)



1号堀 Aセクション (西から)

第16图 1号堀 (SD01) (2)

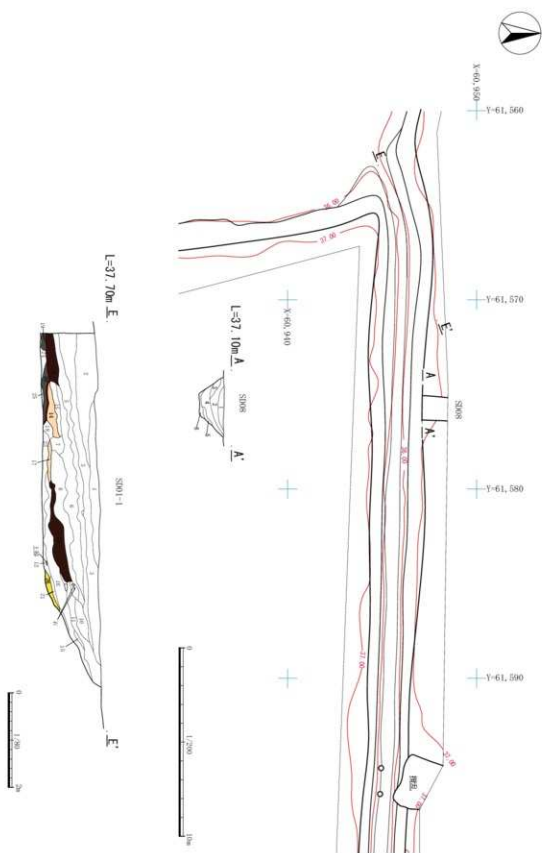




1.1号層 Cセクション (東から)



2.1号層 Dセクション (東から)



第17图 1号堀 (SD01) (3)・8号溝



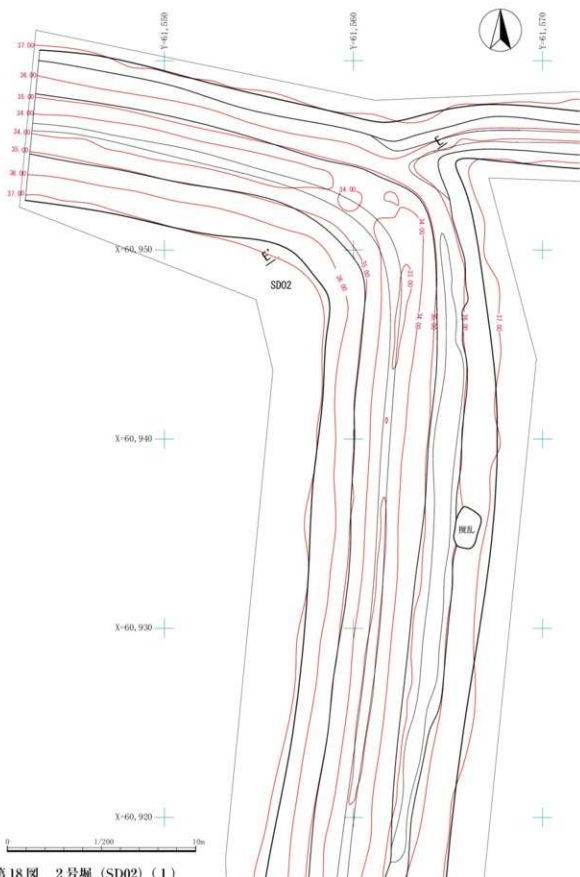
1号塚 Eセクション (北西から)



1号塚出土遺物 (西塚底から)



8号溝検出状況 (南から)





2号堀（南から）



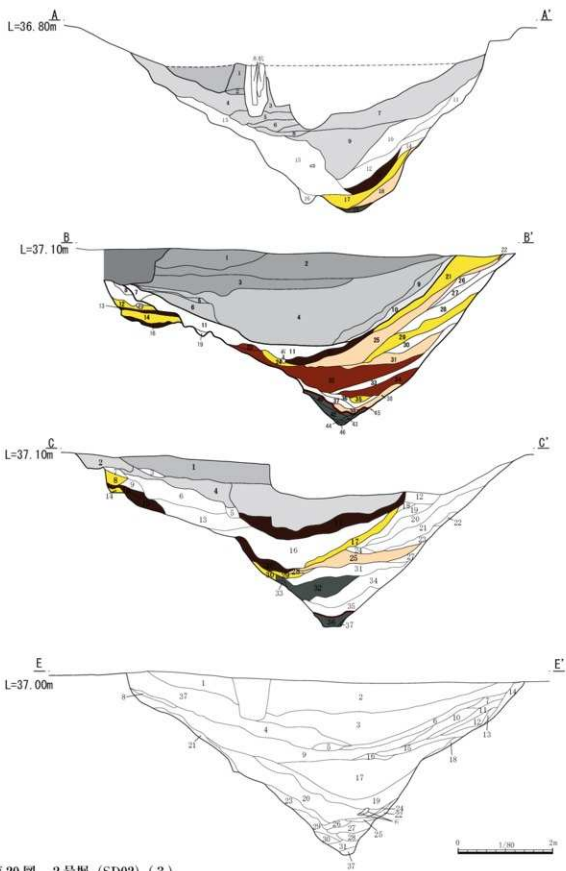
2号堀（堀底北から）



SD02A (北から)



2号堀・SD02 Aセクション (北西から)



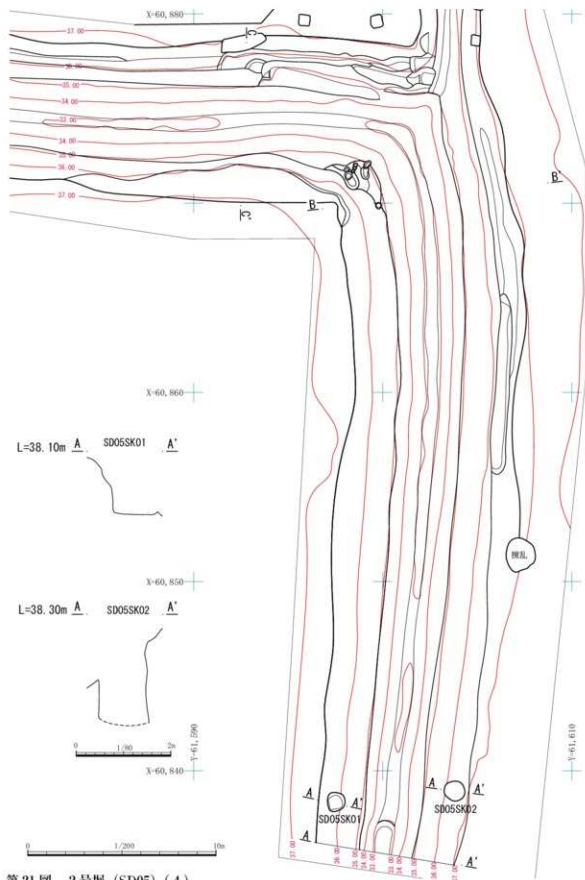
第 20 图 2 号堀 (SD02) (3)



2号堀・SD02 Bセクション（北から）



2号堀・SD02 Cセクション（北から）



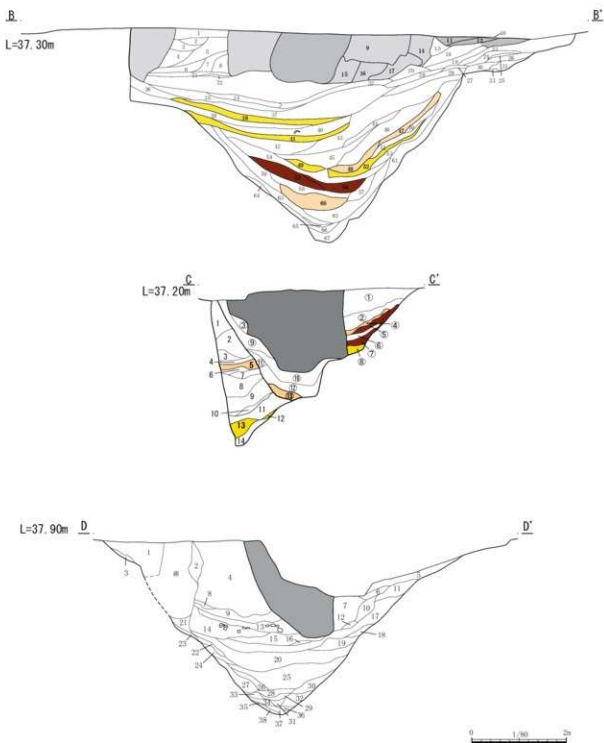
第21图 2号堀 (SD05) (4)



2号堀・SD02 Eセクション (西から)



2号堀・SD05 (南堀底から)



第 22 图 2 号堀 (SD05) (5)



2号堀・S005 Aセクション (北から)



2号堀・S005 Bセクション (南から)



2号堀・SD05 Cセクション（東から）



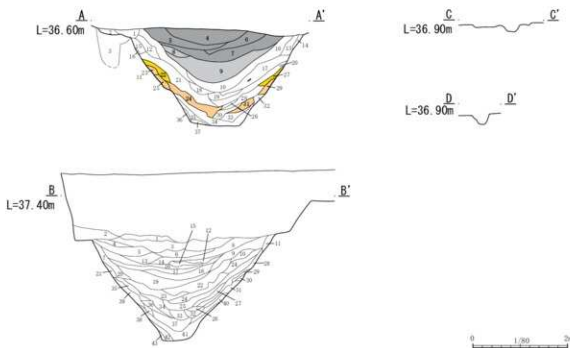
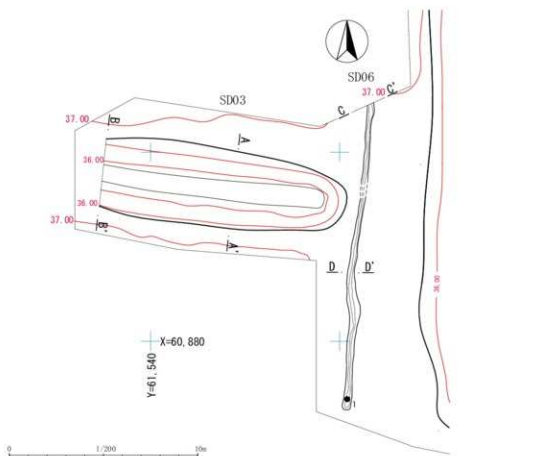
2号堀・SD05 Dセクション 近代産業遺構（東から）



4. SD05SK01 セクション



5. SD05SK02 セクション



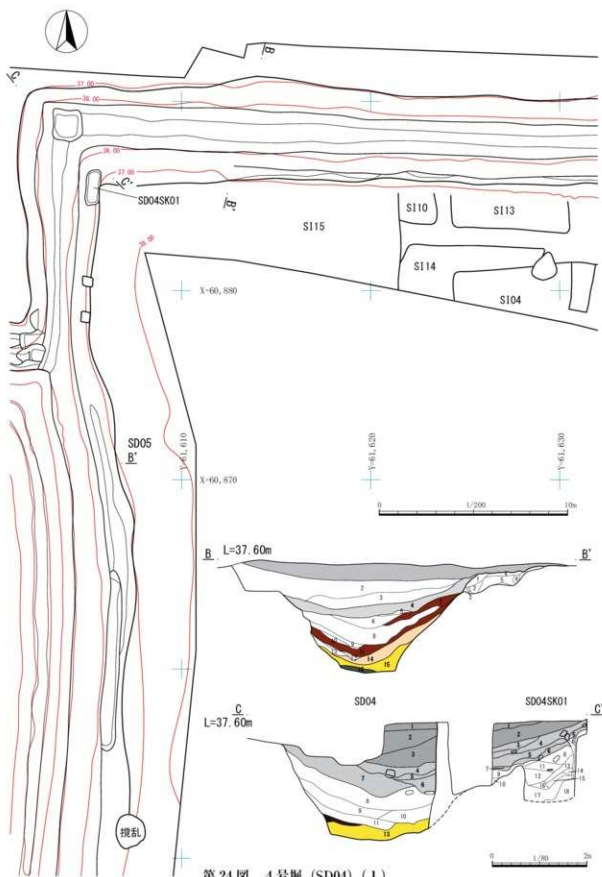
第 23 图 3 号堀・6 号溝 (SD03・SD06)



3号堀（北西から）



6号溝（南東から）



第24图 4号堀 (SD04) (1)



6号溝 Cセクション (南から)



6号溝 遺物出土状況 (北から)



4号堀（西から）



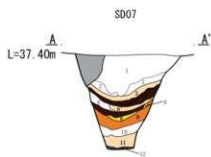
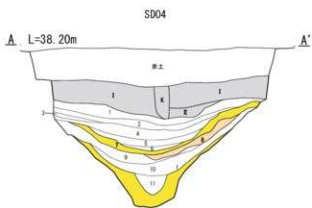
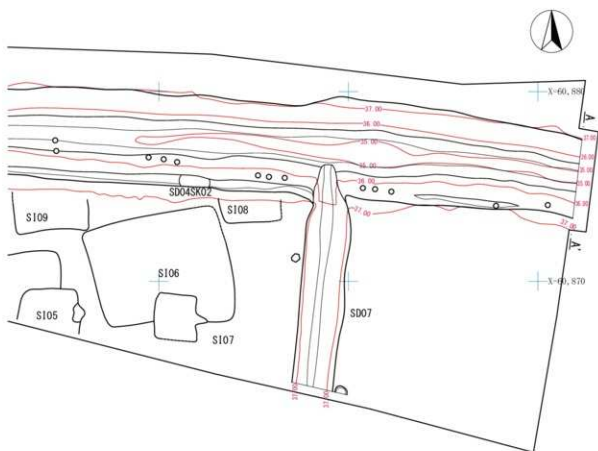
4号堀 Aセクション（西から）



4号堀 Bセクション (東から)



4号堀 Cセクション (南西から)



第 25 图 4 号堀 (SD04) (2) · 7 号堀 (SD07)



SD04SK01 セクション



SD04SK02 セクション



SD04SK02 遺物出土状況



7号溝 Aセクション (南から)



7号溝 Bセクション (北から)



7号溝 検出状況（北から）



調査区全体写真（調査区南上空から）

- 7 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 55% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりあり 炭化物ブロック 5mm しまりあり 粘性やや強い
- 8 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 2～5mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物極微量 しまりあり 粘性あり
- 9 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 2～5mm 7% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりあり 粘性やや強い
- 10 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 2～5mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 小型中型礫を少量含む しまりあり 粘性やや強い
- 11 層 10YR1/1 黒褐色土 ロームブロック 5～10mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 炭化物ブロック 5mm 小型礫を少量含む 雲母をやや含む しまりあり 粘性やや強い
- 12 層 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック 5～10mm 70% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりやや弱い 粘性やや弱い
- 13 層 10YR4/3 ぶい黄褐色土 ロームブロック 2～10mm 80% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 炭化物ブロック 5mm しまり弱い 粘性やや強い
- 14 層 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック 2～10mm 75% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりやや弱い 粘性やや強い
- 15 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 5mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりやや弱い 粘性やや強い
- 16 層 10YR4/3 ぶい黄褐色土 ロームブロック 2～5mm 70% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり弱い 粘性強い
- 17 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 2mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり弱い 粘性強い
- 18 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 90% 粒子 1mm 炭化物なし しまりやや弱い 粘性強い
- 19 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 5～10mm 40% 粒子 1mm 炭化物なし 褐色土ブロックあり しまりやや弱い 粘性強い

SD01 Dセグション

- 1 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 2～5mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 小型礫又は砂粒子を含む しまり強い 粘性やや強い
- 2 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 2～5mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 小型礫又は砂粒子を含む やや大型礫を微量含む しまりやや強い 粘性弱い
- 3 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 2～10mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物極微量 小型礫を微量含む しまりあり 粘性弱い
- 4 層 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック 2～5mm 以上 35 粒子 1mm 以下 炭化物極微量 砂粒子又は小型礫を微量含む しまりあり 粘性弱い
- 5 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 2～10mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性強い
- 6 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 5mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 小型礫又は砂粒子を少量含む しまりあり 粘性弱い
- 7 層 10YR4/4 ぶい黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 90% 粒子 1mm 以下 炭化物極微量 褐色土ブロックあり しまりあり 粘性強い
- 8 層 10YR3/3 黒褐色土 ロームブロック 2～5mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物ブロック極微量 しまりあり 粘性やや弱い
- 9 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 5mm 25% 粒子 1mm 以下 炭化物ブロックあり しまりあり 粘性あり
- 10 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 70% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 褐色土ブロックあり しまりやや弱い 粘性やや強い
- 11 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 75% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりやや弱い 粘性強い
- 12 層 10YR4/4 ぶい黄褐色土 ロームブロック 5mm 95% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性強い
- 13 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2～10mm 80% 粒子 1mm 炭化物なし しまりあり 粘性強い 中型礫を微量含む
- 14 層 10YR4/3 ぶい黄褐色土 ロームブロック 10mm 85% 粒子 1mm 炭化物なし 褐色土ブロックあり しまりやや弱い 粘性やや強い
- 15 層 10YR4/4 ぶい黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 80% 粒子 1mm 炭化物極微量 褐色土ブロックあり しまりやや弱い 粘性強い
- 16 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 3% 粒子 1mm 以下 炭化物極微量 小型礫をやや含む しまりあり 粘性強い

SD01 Eセグション

- 1 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 2～10mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 炭化物ブロック 5mm 小・中型礫を少量含む しまりあり 粘性やや強い 砂粒子をやや含む 粘土をやや含む
- 2 層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック 2～5mm 7% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 小型礫又は砂粒子をやや含む しまりあり 粘性強い
- 3 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 粘土をやや含む 小・中型礫又は砂粒子をやや含む しまりあり 粘性やや強い
- 4 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物 炭化物微量 しまりあり 粘性やや強い
- 5 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 45% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5～10mm 小型礫又は砂粒子をやや含む 中型礫を微量含む しまりなし 粘性やや強い
- 6 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5～10mm 以上 15% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 小型礫又は砂粒子をやや含む しまりあり 粘土を含む 粘性やや強い
- 7 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 60% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりやや弱い 粘性強い
- 8 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック 10mm 45% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 小型礫を微量含む しまりやや弱い 粘性やや強い
- 9 層 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック 2～5mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 中型礫を含む しまりあり 粘性やや強い
- 10 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 2～10mm 25% 粒子 1mm 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 粘性強い しまりあり
- 11 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりやや弱い 粘性あり
- 12 層 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック 2mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 大型礫を含む しまりあり 粘性強い 粘土をやや多く含む
- 13 層 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック 10mm 40% 粒子 1mm 微量含む 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりあり 粘性やや強い
- 14 層 10YR4/3 ぶい黄褐色土 ロームブロック 10mm 70% 粒子 1mm 炭化物なし しまりあり 粘性あり
- 15 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 10mm 60% 粒子 1mm 炭化物微量 しまりあり 粘性あり
- 16 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 80% 粒子 1mm 炭化物微量 しまりあり 粘性強い
- 17 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5mm 75% 粒子 1mm 炭化物 しまりやや弱い 粘性やや強い
- 18 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック 5mm 70% 粒子 1mm 炭化物なし しまりあり 粘性やや弱い
- 19 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりやや強い 粘性やや強い
- 20 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5～10mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりやや弱い 粘性やや強い
- 21 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 95% 粒子 1mm やや大きめの粒子 炭化物なし しまり弱い 粘性あり
- 22 層 10YR3/3 ぶい黄褐色土 ロームブロック 5mm 70% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性強い
- 23 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性強い
- 24 層 10YR4/6 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 80% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりやや弱い 粘性強い

25 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 85% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性強い

26 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック 1mm 75% 粒子 炭化物なし しまりやや弱い 粘性やや強い

SD02 Aセクション

1 層 10YR2/2 灰黄褐色土 ロームブロック 5mm 7% 粒子 1mm 以下 小・中型礫を多量に含む 砂粒子を多量に含む 雲母細片やや目立つ しまり強い 粘性なし

2 層 10YR4/1 褐灰色土 ロームブロック 10mm 25% 粒子 1mm 以下 小・中型礫をやや含む 砂粒子を多量に含む しまり強い 粘性なし 褐色土ブロックあり

3 層 10YR4/3 に近い黄褐色土 ロームブロック 2mm 20% 粒子 1mm 以下 小型礫を多量に含む 中型礫を微量含む 砂粒子を多量に含む しまりあり 粘性あり 雲母細片やや目立つ 炭化物微量

4 層 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック 5～10mm 15% 粒子 1mm 以下 小・中型礫を多量に含む 砂粒子を多量に含む 大型礫を少量含む 炭化物なし しまりあり 粘性やや弱い

5 層 10YR3/7 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 60% 粒子 1mm 以下 小型礫を少量含む 砂粒子を含む 褐色土ブロックを含む 炭化物微量 しまりあり 粘性あり

6 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 13% 粒子 1mm 以下 小・中型礫を少量含む 砂粒子を含む 炭化物あり しまりあり 粘性やや弱い 褐色土ブロック目立つ

7 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 5mm 10% 粒子 1mm 以下 小型礫を多量に含む 砂粒子を多量に含む 中・大型礫を含む 炭化物やや目立つ 炭化物ブロック 10mm 程度の物を含む しまりやや弱い 粘性やや弱い

8 層 10YR4/3 に近い黄褐色土 ロームブロック 10mm 50% 粒子 1mm 以下 砂粒子をやや含む 中・大型礫を含む 炭化物物微量 しまりあり 粘性あり

9 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2～5mm 10% 粒子 1mm 以下 小型礫を多量に含む 砂粒子を多量に含む 中型礫をやや多量に含む 炭化物を多量に含む 炭化物ブロック 10mm 程度のものあり しまりあり 粘性あり 雲母細片やや目立つ

10 層 10YR2/2 灰黄褐色土 ロームブロック 2～5mm 10% 粒子 1mm 以下 小型礫を多量に含む 砂粒子を多量に含む 中型礫を少量含む 炭化物をやや多量に含む 炭化物ブロック 5～10mm 程度のものあり しまりあり 粘性やや強い

11 層 10YR2/2 灰黄褐色土 ロームブロック 10mm 45% 粒子 1mm 以下 小型礫を微量含む 炭化物物微量 しまりあり 粘性あり

12 層 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック 10mm 30% 粒子 1mm 以下 小型礫を微量に含む 炭化物少量含む 炭化物ブロック 2mm しまりあり 粘性あり

13 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2～10mm 40% 粒子 1mm 以下 小型礫又は砂粒子を少量含む しまりやや弱い 粘性あり 褐色土ブロックをやや含む 炭化物極微量あり

14 層 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック 2～5mm 60% 粒子 1mm 炭化物なし しまりやや弱い 粘性あり

15 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 20% 粒子 1mm 以下 炭化物やや多量に含む 炭化物ブロック 10mm 以上のものを含む 中・大型礫をやや多量に含む 砂粒子又は小型礫を多量に含む 雲母細片やや目立つ しまりあり 粘性やや強い

16 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 7% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 小型礫を少量含む 砂粒子をやや含む 雲母細片やや目立つ しまりあり 粘性やや強い

17 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 10mm 70% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 褐色土ブロックやや目立つ 小型礫又は砂粒子をやや含む しまりやや弱い 粘性やや強い

18 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 2～10mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物極微量 小型又は砂粒子を少量含む しまりやや弱い 粘性強い 雲母細片やや目立つ

19 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 5% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 小型礫を少量含む しまりあり 粘性強い 雲母細片やや含む

SD02 Bセクション

1 層 10YR4/1 褐灰色土 ロームブロック 5mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物物微量 小礫又は砂粒子をやや含む しまりあり 粘性弱い

2 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5～10mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物やや多量に含む 炭化物ブロック 10mm 以上 褐色土ブロックやや目立つ 小型礫又は砂粒子を多量に含む しまりあり 粘性やや弱い

3 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 2～10mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 小型礫又は砂粒子を多量に含む 中型礫を多量に含む しまりあり 粘性弱い

4 層 10YR4/3 に近い黄褐色土 ロームブロック 2～10mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 小型礫又は砂粒子を非常に多量に含む 中・大型礫を少量含む しまりやや強い 粘性弱い

5 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5mm 40% 粒子 1mm 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 中型礫を微量に含む しまりやや弱い 粘性あり 雲母細片をやや含む 小型礫又は砂粒子をやや含む

6 層 10YR2/2 灰黄褐色土 ロームブロック 5～10mm 45% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2～5mm 中型礫をやや含む 小型礫又は砂粒子をやや含む しまりあり 粘性弱い

7 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりあり 粘性やや弱い

8 層 10YR4/1 褐灰色土 ロームブロック 10mm 以上 60% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりやや弱い 粘性やや弱い

9 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 45% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりやや強い 粘性微

10 層 10YR3/2 灰黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 60% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりあり 粘性強い 砂粒子を多量に含む 小型礫をやや多量に含む 雲母細片やや目立つ 砂粒子は No.4 と同質か?

11 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 40% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 砂粒子又は小型礫を多量に含む 中型礫をやや含む しまりあり 粘性あり

12 層 10YR4/1 褐灰色土 ロームブロック 10mm 以上 55% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 大型礫を含む しまりあり 粘性やや弱い 褐色土ブロックあり

13 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5～10mm 20% 粒子 1mm 炭化物微量 しまりあり 粘性強い

14 層 10YR4/3 に近い黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 80% 粒子 1mm 炭化物なし 小型礫を微量含む しまりやや弱い 粘性あり

15 層 10YR4/6 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 95% 粒子 1mm 以下 炭化なし しまりあり 粘性やや強い

16 層 10YR4/3 に近い黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 45% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりやや弱い 粘性やや弱い

17 層 10YR4/6 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 95% 以上粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性強い

18 層 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 95% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性あり

19 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりあり 粘性あり 雲母細片やや目立つ

20 層 10YR5/8 黄褐色土 ロームブロック 10mm 95% 以上粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性弱い

- 21 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 50% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 以上あり 粘性微
- 22 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 80% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 炭化物ブロック 2mm 以上ありや弱い 粘性微 小型礫を少量含む
- 23 層 10YR5/4 に近い黄褐色土 ロームブロック 5mm 85% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりや弱い 粘性弱い
- 24 層 10YR3/2 暗褐色土 ロームブロック 10mm 以上 65% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりあり 粘性あり
- 25 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 70% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりあり 粘性やや弱い
- 26 層 10YR3/2 暗褐色土 ロームブロック 5～10mm 40% 粒子 1mm 以下 砂粒子又は小型礫を微量含む しまりあり 粘性あり 炭化物極微量
- 27 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 5～10mm 70% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 褐色土ブロック 小型礫又は砂粒子をやや含む 大型礫を微量含む しまり強い 粘性やや強い
- 28 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2～10mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 以上あり 粘性やや強い 小型礫又は砂粒子をやや含む 大型礫を微量含む
- 29 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 2～10mm 35% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 小型礫又は砂粒子をやや含む 中礫を微量含む 褐色土ブロック少々あり しまりあり 雲母細片やや目立つ
- 30 層 10YR3/2 暗褐色土 ロームブロック 10mm 以上 70% 粒子 1mm 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 小・中礫を少量含む 褐色土ブロックやや目立つ しまりあり 粘性やや強い
- 31 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 75% 粒子 炭化物あり 炭化物ブロックあり 炭化物ブロック 5mm 小型礫を少量含む しまりあり 粘性あり
- 32 層 10YR3/2 暗褐色土 ロームブロック 10mm 以上 40% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 10mm 小型礫又は砂粒子をやや含む 中・大型礫をやや多量に含む 褐色土ブロックあり
- 33 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 65% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 小・中礫を微量含む しまりあり 粘性あり
- 34 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 小型礫を微量含む しまりあり 粘性やや強い
- 35 層 10YR3/2 暗褐色土 ロームブロック 10mm 以上 40% 粒子 1mm 以下 小型礫を含む 褐色土ブロックあり しまりあり 粘性やや強い 粘土をやや含む
- 36 層 2.5Y3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 25% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 小型礫を少量含む しまりあり 粘性あり 粘土をやや含む 泥炭地帯痕跡あり
- 37 層 2.5Y3/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 35% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 小型礫又は砂粒子をやや含む 中礫を少量含む しまりあり 粘性あり 泥炭地帯痕跡あり
- 38 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 2mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 小型礫又は砂粒子を少量含む 中礫を少量含む しまりあり 粘性やや強い
- 39 層 2.5YR3/1 黒褐色土 ロームブロック 2～10mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 砂粒子をやや含む しまりあり 粘性あり 泥炭地帯痕跡あり
- 40 層 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック 10mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 小型礫微量 しまりあり 粘性やや強い 褐色土ブロック目立つ 泥炭地帯痕跡あり
- 41 層 2.5YR4/1 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 70% 粒子 1mm 炭化物極微量 砂粒子をやや多量に含む しまりあり 粘性 泥炭地帯痕跡あり
- 42 層 2.5Y3/2 暗オリーブ褐色土 ロームブロック 2mm2% 粒子 1mm 以下 砂粒子または小型礫を少量含む 炭化物微量 しまりあり 粘性やや強い 雲母細片やや目立つ 泥炭地帯の跡がわずかに確認できる
- 43 層 2.5Y3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm3% 粒子 1mm 以下 砂粒子をやや多量に含む しまりあり 粘性やや強い 炭化物なし 泥炭地帯の痕跡あり 雲母細片やや目立つ
- 44 層 2.5Y3/2 黒褐色土 ロームブロック 2～10mm7% 粒子 1mm 以下 砂粒子を多量に含む しまりあり 粘性やや強い 炭化物なし 泥炭地帯の痕跡あり 雲母細片やや目立つ
- 45 層 10YR4/1 褐色土 ロームブロック 2mm10% 粒子 1mm 以下 砂粒子を多量に含む しまりあり 粘性あり 炭化物なし 雲母細片やや目立つ
- 46 層 10YR5/1 褐色土 ロームブロック 2mm10% 粒子 1mm 以下 砂粒子を多量に含む しまりやや弱い 粘性強い 炭化物なし 雲母細片やや目立つ

SD02 Cセクション

- 1 層 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック 2mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm
- 2 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 小型礫又は砂粒子をやや含む 大型礫を少量含む
- 3 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性
- 4 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 2mm 45% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 小型礫又は砂粒子をやや含む 大型礫を少量含む しまりあり 粘性弱い
- 5 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 小型礫を微量含む 砂粒子をやや含む しまり強い 粘性微
- 6 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5～10mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 10mm 小・中・大型礫をやや含む 砂粒子を多量に含む しまり強い 粘性微
- 7 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 小型礫を少量含む しまり強い 粘性弱い
- 8 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック 5mm 70% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 褐色土ブロックあり しまりやや弱い 粘性弱い
- 9 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 5～10mm 45% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm しまり強い 粘性弱い
- 10 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 2～10mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 褐色土ブロックやや目立つ しまりやや弱い 粘性微
- 11 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 45% 粒子 1mm 炭化物あり しまり強い 粘性なし 大型礫をやや含む 小・中礫をやや多量に含む 砂粒子又は小型礫をやや多量に含む
- 12 層 10YR4/1 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 40% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりやや強い 粘性やや弱い 小型礫又は砂粒子をやや含む 中礫を少量含む
- 13 層 10YR4/3 に近い黄褐色土 ロームブロック 10mm 45% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりやや強い 粘性やや弱い 小・中礫を多量に含む 砂粒子又は小型礫を多量に含む
- 14 層 10YR4/3 に近い黄褐色土 ロームブロック 10mm 70% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性やや弱い
- 15 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5～10mm 45% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 小型礫を少量含む 中・大型礫を微量含む
- 16 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 35% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 10mm 以上 砂粒子又は小型礫を多量に含む 中・大型礫をやや含む しまり強い 粘性やや弱い
- 17 層 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 70% 粒子 1mm 以下 炭化物極微量 砂粒子又は小型礫を少量含む しまりやや強い 粘性や

			や弱い
18 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 40% 粒子 1mm 以下 炭化物極微量 砂粒子又は小型礫を微量含む	しまりあり 粘性やや弱い
19 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 2 ～ 10mm 35% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 砂粒子又は小型礫をやや少量含む	中型礫を微量含む しまりやや強い 粘性弱い
20 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 5mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 砂粒子又は小型礫をやや多量に含む	中 型礫を少量含む しまりあり 粘性あり
21 層	10YR4/1 褐色土	ロームブロック 5 ～ 10mm 35% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 砂粒子又は小型礫をやや多量に含む	中 型礫を少量含む
22 層	2.5YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2 ～ 10mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm しまりあり 粘性あり	
23 層	10YR4/1 褐色土	ロームブロック 5mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm しまりあり 粘性あり	
24 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 褐色土ブロック目立つ	砂粒子又は小型礫を少量含む しまりあり 粘性あり
25 層	10YR4/1 褐色土	ロームブロック 2 ～ 10mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物ややあり しまりあり 炭化物ブロック 2mm 大型礫を少量含む	小型礫又は砂粒子をやや含む 粘性あり
26 層	10YR4/1 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 65% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 中・大型礫を少量含む	小型礫又は砂粒子を少量含む しまりあり 粘性あり
27 層	10YR4/1 褐色土	ロームブロック 5 ～ 10mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物ややあり 炭化物ブロック 2mm 砂粒子をやや含む	小型礫を微量含む しまりあり 粘性あり
28 層	10YR4/1 褐色土	ロームブロック 5mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 小型礫を少量含む	しまりあり 粘性あり
29 層	10YR4/1 褐色土	ロームブロック 2mm 7% 粒子 1mm 以下 炭化物なし	砂粒子をやや多量に含む しまりあり 粘性やや強い
30 層	10YR3/1 黒褐色土	ロームブロック 5mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりあり 粘性やや強い	
31 層	10YR4/1 褐色土	ロームブロック 2mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりあり 粘性やや強い	中・大型礫を少量含む
32 層	10YR4/1 褐色土	ロームブロック 5mm 5% 粒子 1mm 以下 炭化物ややあり 炭化物ブロック 5mm 小型礫又は砂粒子をやや含む	しまりあり 粘性やや強い
33 層	10YR4/1 褐色土	ロームブロック 2mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 中型礫を含む	
34 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 5mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 大型礫を微量含む	小型礫又は砂粒子をやや含む しまりあり 粘性やや強い
35 層	10YR3/1 黒褐色土	ロームブロック 5mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 大型礫を微量含む	小型礫又は砂粒子をやや多量に含む しまりあり 粘性あり
36 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 中・大型礫をやや含む	砂粒子又は小型礫をやや多量に含む しまりやや弱い 粘性やや強い
37 層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック 2mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物なし	小型礫又は砂粒子を多量に含む 中・大型礫をやや多量に含む しまりやや弱い 粘性あり
SD02 Eセグション			
1 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 3% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 小型礫をやや含む	しまり強い 粘性微
2 層	10YR4/3 暗褐色土	ロームブロック 2mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2 ～ 5mm 小型礫又は砂粒子をやや含む	しまり強い 粘性やや強い
3 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 10mm 45% 粒子 1mm 以下 炭化物やや含む	炭化物ブロック 2 ～ 5mm 小型礫又は砂粒子をやや含む しまり強い 粘性やや弱い
4 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 2 ～ 10mm 以上 40% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 小型礫又は砂粒子を含む	しまりやや強い 粘性あり
5 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 2 ～ 5mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物あり	小・中型礫を微量含む しまり強い 粘性あり
6 層	10YR4/3 に近い黄褐色土	ロームブロック 10mm 70% 粒子 炭化物極微量	しまりあり 粘性やや弱い
7 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 5mm 60% 粒子 1mm 以下 しまりあり	粘性やや弱い
8 層	10YR4/3 に近い黄褐色土	ロームブロック 10mm 70% 粒子 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm しまり強い	粘性あり
9 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 10mm 以上 40% 粒子 炭化物あり 炭化物ブロック 2 ～ 5mm 小型礫又は砂粒子を多量に含む	中 型礫を少量含む 粘性あり
10 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 10mm 以上 60% 粒子 炭化物微量	しまりあり 粘性あり
11 層	10YR4/3 に近い黄褐色土	ロームブロック 10mm 以上 75% 粒子 1mm 以下 しまりやや弱い	粘性やや弱い
12 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 55% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 粘性あり	雲母細片や目立つ
13 層	10YR5/4 に近い黄褐色土	ロームブロック 10mm 以上 95% 以上粒子 1mm しまりあり	粘性あり
14 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 80% 粒子 1mm 以下 しまり強い	粘性あり
15 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 10mm 以上 80% 粒子 1mm 以下 炭化物なし	しまりあり 粘性あり
16 層	10YR4/3 に近い黄褐色土	ロームブロック 10mm 以上 45% 粒子 1mm 以下 炭化物なし	しまりあり 粘性やや弱い
17 層	10YR4/2 黒褐色土	ロームブロック 2 ～ 10mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2 ～ 5mm 中・大型礫をやや多量に含む	しまりあり 粘性やや弱い
18 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 90% 粒子 1mm 以下 しまりやや弱い	粘性やや強い
19 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2 ～ 5mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 小・中・大型礫をやや多量に含む	しまりあり 粘性強い 雲母細片や目立つ 粘土をやや多く含む
20 層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック 2 ～ 10mm 45% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 小・中型礫をやや少量含む	大型礫を微量含む しまりあり 粘性やや強い 雲母細片や目立つ
21 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 5mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物なし	しまりやや強い 粘性あり
22 層	10YR4/3 に近い黄褐色土	ロームブロック 2mm 70% 粒子 1mm 炭化物微量	小型礫をやや含む 砂粒子をやや多量に含む しまりあり 粘性やや強い
23 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 10mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物なし	しまりあり 粘性強い
24 層	10YR4/3 に近い黄褐色土	ロームブロック 2mm 7% 粒子 1mm 炭化物なし	しまりあり 粘性やや強い
25 層	10YR5/3 に近い黄褐色土	ロームブロック 2mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物微量	しまりあり 粘性強い 小型礫を含む

- 26 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2～10mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 炭化物ブロック 5mm しまりあり 粘性あり
 27 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5mm 炭化物微量 小型礫又は砂粒子をやや含む しまりあり 粘性やや強い
 28 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 10mm 炭化物なし 小型礫又は砂粒子をやや多量に含む しまりあり 粘性あり
 29 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 85% 粒子 1mm 炭化物微量 しまりやや弱い 粘性あり 雲母細片やや目立つ
 30 層 10YR3/3 ぶい黄褐色土 ロームブロック 10mm 炭化物なし 褐色土ブロック目立つ しまりあり 粘性あり
 31 層 10YR4/6 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 90% ローム粒子 1mm 炭化物微量 しまり弱い 粘性弱い
 32 層 10YR4/3 ぶい黄褐色土 ロームブロック 2mm 3% 粒子 1mm 炭化物なし しまり弱い 粘性あり
 地山 5YR6/6 明赤褐色土 ロームブロック 2mm 3% 粒子 1mm 炭化物なし しまりあり 粘性なし 小型礫を含む

SD03 A セクション

- 1 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 5mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりやや弱い 粘性あり
 2 層 10YR3/2 暗褐色土 ロームブロック 2mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりあり 粘性やや強い 粘土をやや含む 雲母細片やや含む
 3 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm しまりやや弱い 粘性やや強い
 4 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 10% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりあり 粘性あり 砂粒子又は小型礫をやや少量含む 褐色土ブロックやや目立つ
 5 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 小型礫をやや少量含む しまりあり 粘性あり 褐色土ブロックやや目立つ 雲母細片やや含む
 6 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 5mm 7% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 褐色土ブロック目立つ しまり弱い 粘性やや強い
 7 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2～5mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm しまりあり 粘性あり 小型礫を少量含む しまりあり 粘性あり
 8 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 炭化物ブロック 砂粒子をやや含む 小型礫を多量に含む 雲母細片やや含む しまりあり 粘性あり
 9 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 5～10mm 35% 粒子 1mm 炭化物あり 炭化物 5mm 砂粒子又は小型礫を多量に含む 中型礫をやや含む しまりあり 粘性あり 雲母細片やや多量を含む
 10 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 2～10mm 15% 粒子 1mm 炭化物あり 炭化物 5mm しまりあり 粘性強い 褐色土ブロックやや目立つ
 11 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 2～5mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 小型礫を少量含む しまりあり 粘性強い
 12 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 小・中型礫を少量含む しまり強い 粘性強い
 13 層 10YR2/1 黒色土 ロームブロック 2mm 3% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまり弱い 粘性弱い
 14 層 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック 5mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり弱い 粘性弱い
 15 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりやや弱い 粘性強い
 16 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 95% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性やや強い
 17 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 5～10mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまり弱い 粘性やや強い 雲母細片少々目立つ 中型礫を少量含む
 18 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5mm 65% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性あり 小・中型礫を少量含む
 19 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 褐色土ブロック目立つ 小型礫をやや少量含む しまりやや弱い 粘性強い
 20 層 10YR3/2 暗褐色土 ロームブロック 10mm 70% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり弱い 粘性あり
 21 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり弱い 粘性弱い やや大型礫を少量含む 小型礫を少量含む 褐色土ブロック目立つ
 22 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 70% 粒子 1mm 炭化物なし しまりやや弱い 粘性あり
 23 層 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 90% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりやや弱い 粘性やや強い
 24 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 60% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりやや弱い 粘性やや強い 褐色土ブロック目立つ
 25 層 10YR4/6 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 95% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性強い
 26 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり弱い 粘性あり
 27 層 10YR4/3 ぶい黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 75% 粒子 1mm しまり弱い 粘性弱い
 28 層 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 65% 粒子 1mm 以下 しまりやや弱い 粘性やや強い 炭化物なし 褐色土ブロック少々目立つ
- 29 層 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 90% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりやや弱い 粘性強い
 30 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 75% 粒子 1mm 炭化物なし しまり弱い 粘性強い
 31 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロックなし 95% 以上粒子 1mm 炭化物なし しまり弱い 粘性強い 褐色土ブロック少々目立つ
 32 層 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 95% 以上粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり弱い 粘性強い
 33 層 10YR4/6 褐色土 ロームブロックなし 95% 粒子 1mm 炭化物なし しまり弱い 粘性強い
 34 層 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック 5mm 85% 粒子 1mm 炭化物なし しまり弱い 粘性強い
 35 層 10YR4/1 褐色土 ロームブロック 10mm 以上 70% 粒子 1mm 炭化物なし 褐色土ブロック目立つ しまり弱い 粘性強い
 36 層 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック 5mm 90% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり弱い 粘性強い
 37 層 10YR4/3 ぶい黄褐色土 ロームブロック 5mm 85% 粒子 1mm 炭化物あり しまり弱い 粘性強い

SD03 B セクション

- 1 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5mm 5% 粒子 1mm 炭化物あり炭化物ブロック 2mm 砂粒子又は小型礫をやや多量に含む しまりあり 粘性強い 雲母細片やや目立つ
 2 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 5mm 7% 粒子 1mm 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 砂粒子又は小型礫を少量含む しまりやや弱い 粘性あり
 3 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 60% 粒子 1mm 以下 炭化物ややあり 炭化物ブロック 10mm 以上 砂粒子又は小型礫をやや多量に含む しまりあり 粘性やや弱い 雲母細片を多量に含む
 4 層 10YR4/3 ぶい黄褐色土 ロームブロック 10mm 以上 70% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりあり 粘性やや強い 雲母細片少々目立つ 砂粒子をやや含む
 5 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 10mm 以上 55% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 砂粒子を少量含む しまりあり 粘性あり

6層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 5～10mm 80% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 小型礫を少量含む 中型礫を微量含む しまりあり 粘性あり
7層	10YR5/6 黒褐色土	ロームブロック 10mm 95% 以上粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性強い
8層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2～5mm しまりやや強い 粘性あり
9層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック 2～10mm 以上 43% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm しまりやや強い 粘性あり 小型礫又は砂粒子を少量含む
10層	10YR1/1 黒褐色土	ロームブロック 2mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 小型礫を少量含む しまりあり 粘性あり
11層	10YR1/1 褐灰色土	ロームブロック 10mm 70% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりあり 粘性やや弱い
12層	10YR1/6 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 95% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり強い 粘性やや弱い
13層	10YR1/6 褐色土	ロームブロック 10mm 80% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 褐色土ブロックあり しまり強い 粘性やや弱い
14層	10YR1/6 褐色土	ロームブロック 10mm 90% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性やや弱い
15層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 2～5mm 5% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 小型礫又は砂粒子を少量含む しまり強い 粘性弱い
16層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 30% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 砂粒子又は小型礫を微量含む しまりやや強い 粘性やや弱い
17層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 70% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 砂粒子又は小型礫を少量含む しまりあり 粘性あり 褐色土ブロック少々あり
18層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物やや多い 炭化物ブロック 5mm 以上 砂粒子又は小型礫をやや含む 大型礫を微量含む しまりあり 粘性あり
19層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 2～5mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 小型礫を微量少量含む しまりあり 粘性やや強い
20層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 25% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりあり 粘性やや強い 雲母細片や目立つ
21層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 5mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 褐色土ブロックやや目立つ しまりあり 粘性やや強い
22層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 25% 粒子 1mm 以下 炭化物やや多量 炭化物ブロック 10mm しまりあり 粘性あり
23層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物やや目立つ 炭化物ブロック 10mm 小・中型礫少量含む しまりあり 粘性やや強い
24層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 5mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりやや弱い 粘性あり 大型礫を微量含む
25層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりあり 粘性やや強い
26層	10YR1/6 褐色土	ロームブロック 2mm 95% 以上粒子 1mm 以下 炭化物なし 褐色土ブロックやや目立つ しまり弱い 粘性弱い
27層	10YR1/1 褐灰色土	ロームブロック 10mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりやや弱い 粘性やや弱い
28層	10YR1/1 褐灰色土	ロームブロック 10mm 以上 75% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 褐色土ブロックやや目立つ しまり弱い 粘性弱い
29層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック 5mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり弱い 粘性あり
30層	10YR1/6 褐色土	ロームブロック 5mm 80% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり弱い 粘性あり
31層	10YR1/6 褐色土	ロームブロック 5～10mm 85% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり弱い 粘性やや強い
32層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 80% 粒子 1mm 炭化物なし 褐色土ブロック少々あり しまり弱い 粘性あり
33層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまり弱い 粘性強い
34層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物
35層	10YR3/1 黒褐色土	ロームブロック 5mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりあり 粘性やや強い
36層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 5mm 45% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりやや弱い 粘性やや弱い
37層	10YR3/1 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 70% 粒子 1mm 炭化物あり 炭化物ブロック 10mm しまり弱い 粘性強い 大型礫少量あり
38層	10YR5/6 黒褐色土	ロームブロック 10mm 95% 以上粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりやや弱い 粘性強い
39層	10YR1/1 褐灰色土	ロームブロック 10mm 以上 75% 粒子 1mm 炭化物なし しまりやや弱い 粘性強い
40層	10YR1/6 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 95% 以上粒子 1mm 炭化物微量 しまり弱い 粘性強い
41層	10YR1/4 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 80% 粒子 1mm 炭化物なし しまり弱い 粘性強い
42層	10YR3/1 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 50% 粒子 1mm 炭化物なし 褐色土ブロック目立つ しまり弱い 粘性強い
43層	10YR1/4 褐色土	ロームブロック 10mm 80% 粒子 1mm 炭化物なし しまり弱い 粘性強い

SD04 A セクション

1層	標準土層 I	
2層	標準土層 II	
3層	10YR2/3 黒褐色土	ロームブロック若干 しまりややあり 粘性ややあり
4層	10YR3/2 暗褐色土	ロームブロック 5% しまりややあり 粘性ややあり
5層	10YR6/4 にぶい黄褐色土	灰白色粒子 ロームブロック小塊 50% しまりややあり 粘性ややあり
6層	10YR3/3 暗褐色土	褐色粒子 5% 含む しまりややあり 粘性ややあり
7層	10YR3/4 暗褐色土	褐色粒子 5% 含む しまり弱い 粘性なし
8層	10YR6/3 にぶい黄褐色土	灰白色粒子 30% しまりあり 粘性弱い
9層	10YR3/1 黒褐色土	褐色土粒子 5% しまりあり 粘性ややあり
10層	10YR4/4 褐色土	黄褐色土粒子 30% しまりやや弱い 粘性ややあり
11層	10YR4/2 灰黄褐色土	
12層	10YR3/4 暗褐色土	褐色粒子 5% 含む しまり弱い 粘性ややあり

SD04 B セクション

1層	10YR6/4 鈍黄褐色土	山砂 10%、しまりあり、粘性全くなし
2層	10YR7/3 鈍黄褐色土	山砂 30%、しまりあり、粘性全くなし
3層	10YR7/2 鈍黄褐色土	山砂大量、しまりあり、粘性なし
4層	10YR7/1 鈍黄褐色土	山砂大量、しまりあり、粘性なし
5層	10YR6/6 明黄褐色土	ロームブロック 80%、固くしまる、粘性なし
6層	10YR5/3 鈍黄褐色土	しまりなし、粘性なし
7層	10YR4/2 灰黄褐色土	ローム粒子 10%、しまりあり、粘性なし

8層	10YR3/2 黒褐色土	しまりなし、粘性なし
9層	10YR2/1 黒色土	ローム粒子2%、しまりなし、粘性なし
10層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック20%、しまりあり、粘性なし
11層	10YR4/2 灰黄褐色土	ローム粒子10%、しまりなし、粘性なし
12層	10YR2/2 黒褐色土	ローム粒子2%、しまりなし、粘性なし
13層	10YR3/2 黒褐色土	しまりなし、粘性なし
14層	10YR3/2 鈍黄褐色土	ロームブロック40%、しまりあり、粘性あり
15層	10YR5/4 鈍黄褐色土	ロームブロック70%、しまりあり、粘性あり
16層	2.5Y2/4 黒色土層植土	軟弱、強粘性

SD04 Cセクション

SD04

1層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック5～10mm 70% 粒子 1mm 炭化物あり 炭化物ブロック2～3mmあり しまり微 粘性あり
2層	10YR6/4 褐色土	ロームブロック10mm以上 90% 粒子 1mm 炭化物あり 炭化物ブロック1～2mmあり しまり微 粘性あり
3層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック5～10mm 80% 粒子 1mm以下 炭化物微量 炭化物ブロック2mm しまり微 粘性あり
4層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック2～10mm 13% 粒子 1mm以下 炭化物微量 炭化物ブロック2mm しまり微 粘性あり
5層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック1mm 3% 粒子 1mm以下 炭化物微量 炭化物ブロック2mm しまりあり 粘性微
6層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック1mm 5% 粒子 1mm以下 炭化物微量 炭化物ブロック5mm しまりあり 粘性微
7層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック10mm以上 50% 粒子 1mm 炭化物あり 炭化物ブロック5mm しまりあり 粘性微
8層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック10mm以上 15% 粒子 1mm以下 炭化物あり 炭化物ブロック5mm しまりあり 粘性微
9層	10YR2/3 黒褐色土	ロームブロック10mm以上 20% 粒子 1mm以下 炭化物微量 しまりあり 粘性微
10層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック1～2mm 5% 粒子 1mm以下 炭化物微量 しまりあり 粘性微
11層	10YR3/1 黒褐色土	ロームブロック10mm以上 30% 粒子 1mm以下 炭化物微量 炭化物ブロック2mm しまりあり 粘性微
12層	10YR4/4 暗褐色土	ロームブロック2～5mm 90% 粒子 1mm 炭化物なし しまりあり 粘性微
1層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック2mm 95% 粒子 1mm しまり微 粘性微

SD04 SD01

1層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック1～5mm 20% 粒子 1mm 炭化物なし しまり微 粘性あり
2層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック2～10mm 25% 粒子 1mm 炭化物なし しまり微 粘性あり
3層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック1～2mm 20% 粒子 1mm以下 炭化物なし しまり微 粘性あり
4層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック2～5mm 40% 粒子 1mm以下 炭化物なし しまり 粘性あり
5層	10YR3/2 黄褐色土	ロームブロック1～2mm 20% 粒子 1mm以下 炭化物微量 しまり微 粘性あり
6層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック2～5mm 25% 粒子 1mm以下 炭化物微量 しまり微 粘性あり
7層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック2～5mm 30% 粒子 1mm以下 炭化物微量 しまり微 粘性あり
8層	10YR3/5 暗褐色土	ロームブロック1～2mm 25% 粒子 1mm以下 炭化物微量 しまり微 粘性あり
9層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック2～5mm 25% 粒子 1mm以下 炭化物微量 しまり微 粘性あり
10層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック2～5mm 40% 粒子 1mm以下 炭化物あり しまりあり 粘性あり
11層	10YR2/3 黒褐色土	ロームブロック2～5mm 7% 粒子 1mm以下 炭化物微量 しまり微 粘性あり
12層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック2～5mm 5% 粒子 1mm以下 炭化物微量 しまり微 粘性あり
13層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック10mm以上 25% 粒子 1mm以下 炭化物微量 しまり微 粘性あり
14層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック2～5mm 10% 粒子 1mm以下 炭化物微量 しまり微 粘性あり
15層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック5～10mm 30% 粒子 1mm以下 炭化物微量 しまり微 粘性あり
16層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック2～5mm 5% 粒子 1mm以下 炭化物なし しまり微 粘性あり
17層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック5～10mm 10% 粒子 1mm以下 炭化物なし しまり微 粘性あり
18層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック10mm以上 90% 粒子 1mm 炭化物なし しまり微 粘性あり

SD05 Bセクション

1層	10YR3/2 黒褐色土	ローム粒子1mm以下 少量 炭化物あり 炭化物ブロック5mm 礫を含む 砂粒を含む しまりあり 粘性微
2層	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒子1mm以下 極微量 炭化物極微量 しまりあり 粘性なし
3層	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒子1mm 極微量 炭化物 極微量 しまりあり 粘性なし
4層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック1mm ローム粒子1mm以下 炭化物あり 炭化物ブロック5mm しまりあり 粘性微
5層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック1mm ローム粒子1mm以下 炭化物あり 炭化物ブロック5mm しまりあり 粘性微
6層	10YR2/3 黒褐色土	ロームブロック1mm ローム粒子1mm以下 炭化物あり 炭化物ブロック2mm しまりあり 粘性微
7層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック1～2mm ローム粒子1mm以下 炭化物なし しまりあり 粘性微
8層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック1～2mm 10% ローム粒子1mm以下 炭化物なし しまりあり 粘性微
9層	10YR4/2 灰黄褐色土	ローム粒子1mm以下 炭化物ブロック5mm 小・中・大型礫を多量に含む 砂粒を多量に含む しまりあり 粘性微
10層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 粒子なし 礫を含む 砂粒を含む しまりあり 粘性微
11層	10YR3/2 黒褐色土	ローム粒子1mm以下 2% 炭化物微量 礫を少量含む 砂粒を少量含む しまりあり 粘性微
12層	10YR3/2 黒褐色土	ローム粒子1mm以下 極微量 炭化物なし 砂粒・礫を少量含む しまりあり 粘性微
13層	10YR4/4 褐色土	ローム粒子1mm以下 極微量 炭化物なし 礫を極微量含む しまりあり 粘性微
14層	10YR3/2 黒褐色土	ローム粒子1mm以下 極微量 炭化物なし 砂粒を含む 礫を微量含む しまりあり 粘性微
15層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック2mm 10% 粒子 1mm以下 炭化物ブロック2mm 極微量 しまりあり 粘性微量 礫を少量含む
16層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック1～2mm 7% ローム粒子1mm以下 炭化物極微量 しまりあり 粘性微
17層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック2mm 3% ローム粒子1mm以下 炭化物あり 炭化物ブロック5mm 礫を極少量含む しまりあり 粘性微
18層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック2mm 7% ローム粒子1mm以下 炭化物あり 炭化物ブロック5mm しまりあり 粘性微
19層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック2mm 10% ローム粒子1mm以下 炭化物微量 しまりあり しまりあり 粘性微
20層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック1～2mm 13% ローム粒子1mm以下 炭化物なし 礫を極少量含む しまりあり しまりあり 粘性微
21層	10YR2/3 黒褐色土	ロームブロック1～2mm 7% ローム粒子1mm以下 炭化物極微量 しまりあり 粘性あり

22 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 1～2mm 3% ローム粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性あり
23 層	10YR2/3 黒褐色土	ロームブロック 5mm 20% ローム粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性微 小・中・大型礫を多量に含む 砂粒を含む
24 層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 2～5mm 23% ローム粒子 1mm 以下 炭化物微 しまりあり 粘性微
25 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 2mm 30% ローム粒子 1mm 以下 炭化物微 しまりあり 粘性微
26 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 10mm 以上 40% ローム粒子 1mm 以下 炭化物なし 褐色土ブロックあり しまりあり 粘性微
27 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 2mm 5% ローム粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性微
28 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 1～2mm 40% ローム粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性微
29 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 5～10mm 50% ローム粒子 1mm 以下 炭化物微 しまりあり 粘性微
30 層	10YR4/6 褐色土	ロームブロック 5～10mm 60% ローム粒子 1mm 以下 炭化物微 しまりあり 粘性微
31 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 5～10mm 45% ローム粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性あり
32 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 1～2mm 7% ローム粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性微
33 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 10mm 以上 粒子 1mm 80% 炭化物なし しまりあり 粘性微
34 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 1～2mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性あり
35 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 2～5mm 25% 粒子 1mm 以下 炭化物微 炭化物ブロック 2mm しまり微 粘性あり
36 層	※注釈無し	
37 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 2～10mm 以上 50% 粒子 1mm 以下 炭化物微 炭化物ブロック 1mm しまり微 粘性あり
38 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 5～10mm 以上 60% 粒子 1mm 以下 炭化物微 炭化物ブロック 1mm しまり微 粘性あり
39 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 65% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
40 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 5～10mm 70% 粒子 1mm 炭化物微 しまりあり 粘性あり
41 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 75% 粒子 1mm 炭化物あり しまり微 粘性あり
42 層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	ロームブロック 10mm 以上 10% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
43 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 25% 粒子 1mm 以下 炭化物微 炭化物ブロック 2mm しまり微 粘性あり
44 層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	ロームブロック 5～10mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
45 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 40% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
46 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 45% 粒子 1mm 以下 炭化物微 炭ブロック 2mm しまり微 粘性あり
47 層	10YR3/2 灰黄褐色土	ロームブロック 5～10mm 以上 55% 粒子 1mm 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm しまり微 粘性あり
48 層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	ロームブロック 10mm 以上 40% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2～5mm しまり微 粘性あり
49 層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 35% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
50 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 5～10mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物微 炭化物ブロック 2mm しまり微 粘性あり
51 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 5～10mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
52 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 60% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
53 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 50% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
54 層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	ロームブロック 2～10mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
55 層	10YR3/3 にぶい黄褐色土	ロームブロック 2～5mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり微 粘性あり
56 層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック 2～5mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
57 層	2.5YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 7% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
58 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 10mm 以上 30% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
59 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 5～10mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
60 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 5～10mm 3% 粒子 1mm 以下 炭化物微 炭化物ブロック 5mm 砂粒・小・中型礫を多量に含む しまり微 粘性あり
61 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 10mm 以上 25% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性あり
62 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 5mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物微 炭化物ブロック 5mm 砂粒を少量含む しまり微 粘性あり
63 層	10YR2/3 黒褐色土	ロームブロック 2mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物微 中型礫を少量含む しまり微 粘性あり
64 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 5～10mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまり微 粘性微 砂粒を含む
65 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 50% 粒子 1mm 炭化物なし 褐色土ブロック少量あり しまり極微 粘性あり 砂粒を含む
66 層	10YR3/3 にぶい黄褐色土	ロームブロック 2～5mm 45% 粒子 1mm 炭化物なし 砂粒を多量に含む しまり微 粘性あり
67 層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 粒子 1mm 炭化物なし 砂粒を多量に含む しまり微 粘性

SD5 Cセクション

SD4

1 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 2mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物ブロック 2mm しまりや強い 粘性微 粘性微 小型礫を少量含む
2 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 2mm 13% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりや強い 粘性微 小・中型礫をやや含む
3 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 2～5mm 43% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりあり 粘性微 小型礫を含む
4 層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック 2mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまりあり 粘性微
5 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2～5mm 35% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまりあり 粘性微
6 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物微 しまりあり 粘性微 小型礫微量を含む
7 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 2～5mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 1～2mm 小型礫を少量含む しまりあり 粘性や強い
8 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 2～10mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 小型礫を含む しまりあり 粘性や強い
9 層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック 2～5mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 中・大型礫を含む しまり
10 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 5mm 20% 粒子 1mm 炭化物なし 砂粒を含む 小型礫を含む しまりや強い 粘性や強い
11 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 2～5mm 35% 粒子 1mm 炭化物微 炭化物ブロック 2mm 砂粒をやや多量に含む 小型礫をやや多量に含む しまりあり 粘性や強い
12 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 90% 粒子 1mm 炭化物なし しまりあり 粘性強い
13 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 5～10mm 以上 30% 粒子 1mm 炭化物微 しまりあり 粘性強い 小型礫をやや含む 砂粒をやや含む

14 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 5～10mm 以上 20% 粒子 1mm 炭化物なし しまりあり 粘性強い
SD05		
1 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 2～10mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 砂粒子を少量含む しまりあり 粘性極微
2 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 2～5mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 炭化物ブロック 2～5mm 小型礫微量 褐色土ブロックあり しまりあり 粘性極微
3 層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック 1mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 炭化物ブロック 2mm 砂粒子を含む 小型礫を少々含む しまりあり 粘性極微
4 層	10YR3/3 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 50% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり弱い 粘性微
5 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 70% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまり弱い 粘性ややあり
6 層	10YR3/2 暗褐色土	ロームブロック 2～10mm 45% 粒子 1mm 以下 褐色土ブロックあり しまりあり 粘性ありやや強い
7 層	10YR4/6 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 80% 粒子 1mm 炭化物なし 炭化物なし しまりやや弱い 粘性あり 中礫を微量含む
8 層	10YR4/4 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 75% 粒子 1mm 炭化物なし しまりあり
9 層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック 1～2mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物微 炭化物ブロックあり 5mm しまりあり やや強い 粘性微 小型礫を多量に含む
10 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 1～2mm 5% 粒子 1mm 以下 炭化物極微 しまりあり 粘性極微 小型礫を微量含む
11 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 1～2mm 7% 粒子 1mm 以下 炭化物極微 しまりあり 粘性極微 小型礫を微量含む
12 層	10YR4/3 に近い黄褐色土	ロームブロック 1～2mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 1～2mm しまりあり 粘性あり 小型礫を微量含む
13 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2～5mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 炭化物ブロック 2mm 褐色土ブロックあり しまりあり 粘性あり
SD05 D セクション		
1 層	10YR2/3 黒褐色土	ロームブロック 5mm 40% 粒子 炭化物微量 小型礫を少量含む しまり強い 粘性微
2 層	10YR2/3 黒褐色土	ロームブロック 2mm 15% 粒子 1mm 炭化物なし 大型礫をやや多量に含む 中礫を含む 砂粒子又は少量含む しまり強い 粘性なし
3 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 2～10mm 以上 40% 粒子 1mm 炭化物あり 炭化物 2mm 中礫を少量含む 砂粒子又は小型礫を少量含む
4 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 2～10mm 以上 40% 粒子 1mm 炭化物あり 2mm 中・大型礫を少量含む 砂粒子又は小型礫を含む しまりやや強い 粘性微
5 層	10YR4/3 に近い黄褐色土	ロームブロック 10mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 小型礫を少量含む しまりあり 粘性なし
6 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 5mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 小型又は砂粒子をやや含む しまり強い 粘性なし
7 層	10YR3/3 に近い黄褐色土	ロームブロック 5mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5～10mm 小型礫をやや含む しまりやや強い 粘性微
8 層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック 2mm 35% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまりあり 粘性やや強い
9 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 5mm 40% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 しまり弱い 粘性弱い
10 層	10YR3/4 暗褐色土	ロームブロック 10mm 以上 70% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm しまりやや強い 粘性弱い
11 層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック 10mm 60% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 小型礫を少量含む しまり強い 粘性弱い
12 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 5mm 80% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm しまりあり 粘性弱い
13 層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック 5mm 30% 粒子 炭化物微量 粘性あり しまりあり 小型礫を少量含む
14 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 5mm 35% 粒子 1mm 以下 炭化物やや多い 炭化物ブロック 10mm 以上もあり 小型礫をやや多量に含む 中・大型礫をやや多量に含む しまりあり 粘性やや強い
15 層	10YR3/3 暗褐色土	ロームブロック 5～10mm 50% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 小型礫又は砂粒子をやや多量に含む 中礫を少量含む
16 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 5mm 30% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりあり 粘性あり
17 層	10YR2/3 黒褐色土	ロームブロック 5mm 50% 炭化物なし 小型礫又は砂粒子をやや多量に含む 中・大型礫をやや含む しまりあり 粘性あり
18 層	2.5Y 暗灰黄色土	ロームブロック 2mm 30% 炭化物なし 小型礫を少量含む しまり強い 粘性微
19 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 10mm 45% 炭化物微量 砂粒子又は小型礫をやや多量に含む しまり強い 粘性やや弱い
20 層	10YR2/3 黒褐色土	ロームブロック 2～10mm 20% 炭化物あり 炭化物ブロック 5mm 砂粒子又は小型礫をやや多量に含む しまりあり 粘性あり 雲母細片や目立つ
21 層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 15% 炭化物なし 小型礫を少量含む しまりあり 粘性やや強い
22 層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 2mm 25% 炭化物微量 炭化物ブロック 5mm 褐色土ブロックやや目立つ しまりあり 粘性強い
23 層	10YR1/1 褐色土	ロームブロック 10mm 70% 炭化物微量 しまりあり 粘性強い
24 層	10YR1/1 黒褐色土	ロームブロック 10mm 以上 65% 炭化物微量 しまりあり 粘性やや強い
25 層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 5mm 15% 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm しまりあり 粘性あり 大型礫をやや含む 中礫をやや多量に含む 砂粒子又は小型礫をやや多量に含む
26 層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 5mm 20% 炭化物微量 しまりあり 粘性やや弱い
27 層	10YR1/1 褐色土	ロームブロック 10mm 65% 炭化物微量 炭化物ブロック 5mm しまりあり 粘性あり 褐色土ブロック
28 層	10YR2/2 黒褐色土	ロームブロック 5mm 7% 炭化物微量 小型礫をやや少量に含む しまりあり 粘性あり
29 層	10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック 10mm 10% 炭化物微量 しまりあり 粘性あり
30 層	10YR1/1 褐色土	ロームブロック 5～10mm 45% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 褐色土ブロックやや目立つ しまりあり 粘性強い
31 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 2mm 5% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 小型礫を少量含む しまりあり 粘性あり 砂粒子をやや少量含む 雲母細片や目立つ
32 層	10YR4/1 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 80% 粒子 1mm 炭化物なし 中礫を少量含む しまりやや弱い 粘性強い 褐色土ブロックやや目立つ
33 層	10YR4/6 褐色土	ロームブロック 10mm 以上 90% 粒子 1mm 以下 炭化物なし しまりやや弱い 粘性あり
34 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 10mm 15% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 砂粒子又は小型礫を多量に含む しまりあり 粘性やや弱い
35 層	10YR4/2 灰黄褐色土	ロームブロック 5mm 5% 粒子 1mm 以下 炭化物微量 砂粒子を多量に含む 小型礫をやや多量に含む しまりやや弱い 粘性やや強い

- 36 層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 10% 粒子 1mm 以下 炭化物あり 炭化物ブロック 2mm 砂粒子をやや少量含む しまりあり 粘性あり
- 37 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 10mm 70% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 褐色土ブロックをやや目立つ しまりあり 粘性強い 雲母細片多量を含む 小型礫をやや多量を含む
- 38 層 10YR1/3 近い黄褐色土 ロームブロック 2mm 20% 粒子 1mm 以下 炭化物なし 砂粒子を多量を含む しまりあり 粘性やや弱い、SD07 A・Bセクション
- 1 層 10YR2/1 黒砂質土 しまりあり 粘性なし
- 2 層 10YR2/2 黒硬質土 ローム粒子 5% しまりあり 粘性なし
- 3 層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子 8% しまりあり 粘性なし
- 3' 層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子 2%
- 4 層 10YR1.7/1 真黒色土 ローム粒子若干 しまりあり 粘性ややあり わずかに腐食
- 5 層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子 5% しまりなし 粘性なし
- 5' 層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒子ほぼなし やや砂質
- 6 層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子 5% しまりなし 粘性なし
- 6' 層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子ロームブロック 12% しまりなし 粘性なし
- 7 層 10YR2/1 黒色土 ローム (A_{gk}) 粒子 2% しまりあり 粘性あり
- 7' 層 10YR2/1 黒色土 ローム粒子 (A_{gk}) 7%
- 8 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック しまりあり 粘性ややあり
- 8' 層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック 7%
- 9 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ローム (A_{gk}) 粒子 15% 下層に多い しまりあり 粘性あり
- 10 層 10YR2/1 黒色土 ローム粒子 2% しまりあり 粘性あり
- 10' 層 10YR2/1 黒色土 黄褐色土との縞模様成す
- 11 層 10YR2/2 黒褐色土 しまり強い 粘性強い
- 12 層 10YR1.7/1 真黒色土 わずかに腐食 しまりあり 粘性強い
- SD08 Aセクション
- 1 層 10YR5/4 近い黄褐色土 ロームブロック 2mm 10% 未満粒子 1mm 以下 小型礫 中量を含む しまり弱い 粘性なし
- 2 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 5mm 20% 粒子 1mm 小型礫微量を含む しまり強い 粘性なし
- 3 層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック 10mm 40% 粒子 1mm 小型礫微量を含む しまり強い 粘性なし
- 4 層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック 2mm 10% 未満粒子 1mm 以下 小型礫極微量を含む しまり強い 粘性ややあり
- 5 層 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック 粒子 1～5mm 黒褐色土を多量を含む しまり弱い 粘性あり
- 6 層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子 1～5mm 極多量 小型礫微量を含む しまりあり 粘性ややあり

第10表 堀・溝出土遺物観察表(1)

1号堀 (SD01)						
No.	品種	大きさ	特徴	胎土	色調・構成	備考
1	貿易磁器 込付皿 (陶胎染付)	- (3.7)	- 外面波状文は型起こし。内 面には植物文または幾何学文。 残存率 1/12 以下	磁器 A 群	軸: 藍色 素地: 淡褐色 硬質	津洲窯系製品
2	貿易磁器 褐色釉陶器窓	- (4.1)	- ロクロ成形。体部外面に褐色 釉を施す。残存率 1/12 以下	陶器 A 群	軸: 褐色 素地: 灰褐色 硬質	
3	陶器 (大塚) 緑灰釉丸皿	(106.0) 26.0 59.0	- ロクロ成形。ほぼ全面に緑 灰釉を施す。底部外面に輪 ト字痕残る。	陶器 B 群	軸: 緑灰色 素地: 灰黄色 硬質	瀬戸・美濃製品 大塚 1～2 段階
4	陶器 (大塚) 天目茶碗	122.0 66.0 44.0	- ロクロ成形。内面～体部外 面中心は鉄線(茶褐色釉)。 体部外面下位～底部は素地。 削り出し高台(内反状)。完 形。	陶器 B 群	軸: 茶褐色 素地: 淡黄色 硬質	美濃窯製品 大塚 3 段階
5	陶器 (密置) 山系陶系 片口鉢	- (4.1)	- ロクロ成形。口縁部～内面 に鉄線を施す(ハクス塗)。残 存率 1/12 以下。	陶器 C 群・黒 色釉粒	軸: 暗オリーブ灰色 素地: 暗灰褐色 硬質	尾張型山系碗 4～6 型式
6	瓦質火鉢 (在地産)	- (6.3)	- 内外面ロクロコナデ。口縁部 外面に 2 条の隆帯を帯る。 隆帯区画内にスタンプ文(雷 門)を施す。残存率 1/12 以下。	瓦質土器 A 群	外: 10YR6/1 褐色 内: 10YR6/2 灰黄褐 硬質	立石聖志氏・奈良火鉢分類表Ⅴの模倣品
7	瓦質土器 内耳鍋	- (4.6)	- 口縁部ヨココナデ。内耳接合 部分に指頭印痕残る。残存 率 1/8 以下	瓦質土器 C 群・ 黒色輝石(角 閃石?)	内: 7.5YR5/2 灰白 外: 7.5YR7/1 明褐色	
8	かわらけ 大皿	143.0 36.0 61.0	- ロクロ成形。底部外面回転 糸切り後、一方向ナデ。ほ ぼ完成(口縁部一部欠損)。	かわらけ B 群・ 金色雲母、赤 色粒子	内: 7.5YR7/4 に近い橙 外: 7.5YR7/3 に近い橙	
9	かわらけ 皿	110.0 34.0 60.0	- ロクロ成形。底部外面ナデ。	かわらけ B 群・ 金色雲母	内: 7.5YR8/4 淡黄橙 外: 7.5YR8/3 淡黄橙	ほぼ全面にタール(油煙)付着
10	かわらけ 皿	(106.0) (34.0) (54.0)	- ロクロ成形。底部外面糸切 り未調整。	かわらけ B 群・ 金色雲母	内: 7.5YR8/4 淡黄橙 外: 7.5YR8/3 淡黄橙	内面にタール(油煙)付着

第11表 堀・溝出土遺物観察表(2)

No.	器種	大きさ	特徴	胎土	色調・焼成	備考
11	かわらけ 皿	(12.1) (3.7) 6.1	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り未調整。残存率4/5。	かわらけB群 金色雲母、赤 色粒子	内:SYR6/6 橙 外:SYR7/6 橙 やや硬質	内面に煤汚れ付着
12	かわらけ 皿	11.6 3.6 6.2	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り未調整。残存率4/5。	かわらけB群 金色雲母、赤 色粒子	内:SYR8/4 淡橙 外:7.SYR8/4 淡黄橙	
13	かわらけ 皿	11.5 3.9 5.3	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り未調整。残存率4/5。	かわらけB群 金色雲母、赤 色粒子	内:7.SYR6/3 に近い橙 外:7.SYR7/3 に近い橙	外面に油煙(タール)、煤汚れ付着
14	かわらけ 皿	(11.0) (2.9) 5.4	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り未調整。残存率3/4。	かわらけB群 金色雲母、赤 色粒子	内:7.SYR6/3 に近い橙 外:7.SYR6/4 に近い橙	
15	かわらけ 小皿	7.1 2.2 4.1	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り未調整。ほぼ完形(口 縁部1/6欠損)。	かわらけB群 金色雲母	内:SYR7/3 に近い橙 外:SYR7/4 に近い橙	
16	かわらけ 小皿	(7.0) 2.0 4.3	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り後ナデ。完形(口縁 部一部欠損)。	かわらけB群 金色雲母	内:7.SYR7/3 に近い橙 外:7.SYR7/2 明焼灰	
17	かわらけ 小皿	7.2 2.1 4.8	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り見調整。完形。	かわらけB群 金色雲母	内:7.SYR7/3 に近い橙 外:7.SYR7/2 明焼灰	口縁部に油煙(タール)付着
18	かわらけ 小皿	7.2 1.8 4.9	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り後ナデ。完形(口縁 部一部欠損)。	かわらけB群 金色雲母、赤 色粒子	内:7.SYR7/3 に近い橙 外:7.SYR7/4 に近い橙 やや硬質	
19	かわらけ 小皿	6.5 2.3 4.3	ロクロ成形。底部外面一方 向ナデ。残存率3/4。	かわらけB群 金色雲母	内:7.SYR7/3 に近い橙 外:7.SYR7/4 に近い橙 やや硬質	
20	かわらけ 小皿	(7.0) 1.7 4.0	ロクロ成形。底部外面ナデ。 ほぼ完形。(口縁部一部欠 損)。	かわらけB群 金色雲母	内:7.SYR7/4 に近い橙 外:7.SYR7/3 に近い橙 やや硬質	
21	かわらけ 小皿	(7.0) (2.1) 5.1	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り未調整。残存率1/2。	かわらけB群 金色雲母、赤 色粒子	外:7.SYR6/3 に近い橙 内:7.SYR6/4 に近い橙	
22	かわらけ 小皿	6.4 1.6 4.5	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り後ナデ。完形	かわらけB群 金色雲母	内:7.SYR7/4 に近い橙 外:7.SYR7/3 に近い橙 やや硬質	
2号層(SD02A)						
1	陶器(古瀬戸) 鉄輪蓋煎瓶	- (4.7)	ロクロ成形。外面に鉄輪を 施す。内面に降灰が認めら れる。残存1/12以下。	陶器B群	軸:茶褐色 素地:暗灰色	古瀬戸中期～後期
2	陶器(大窯) 緑灰釉皿	(10.0) 3.2 5.8	ロクロ成形。内外面に緑灰 釉を施す。底部外面に輪ト チ痕残る。	陶器B群	軸:灰オリーブ色 素地:灰白色 硬質	瀬戸・美濃産。大窯第1～2段階
3	陶器(大窯) 緑灰釉皿	- (1.4) 6.2	ロクロ成形。内外面に緑灰 釉を施す。底部外面に輪ト チ痕残る。内面見込欠面に 印花文(菊花文)を施す。	陶器B群	軸:灰オリーブ色 素地:灰白色 硬質	瀬戸・美濃産。大窯第1～2段階
4	かわらけ 皿	(8.0) 3.2 (4.8)	ロクロ成形。外面底部回転 糸切り後ナデ。残存率1/2。	かわらけB群 金色雲母、黒 色粒子	内:7.SYR7/6 橙 外:7.SYR7/4 に近い橙 やや軟質	
5	かわらけ 皿	12.0 3.4 6.0	ロクロ成形。外面底部回転 糸切り後ナデ。ほぼ完形。(口 縁部一部欠損)。	かわらけB群 金色雲母、赤 色粒子	内:10YR6/3 に近い黄橙 外:10YR6/4 に近い黄橙 やや軟質	
6	かわらけ 皿	(11.8) 3.4 (5.6)	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り未調整。残存率1/4。	かわらけB群 黒色粒子、赤 色粒子	内:7.SYR7/3 に近い橙 外:7.SYR7/2 明焼灰 やや軟質	
7	かわらけ 小皿	(7.9) 2.2 4.0	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り後ナデ。木目状圧 痕。残存率1/4。	かわらけB群 黒色粒子、赤 色粒子、輝石	内:SYR7/4 に近い橙 外:SYR7/3 に近い橙 やや軟質	
8	かわらけ 小皿	(8.6) 2.2 (4.8)	ロクロ成形。外面底部回転 糸切りナデ。残存率1/3。	かわらけB群 金色雲母、黒 色粒子	内:7.SYR7/4 に近い橙 外:7.SYR7/3 に近い橙 軟質	
9	かわらけ 小皿	7.6 2.4 4.9	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り後一方方向ナデ。完形。	かわらけB群 金色雲母、赤 色粒子	内:SYR6/6 橙 外:SYR7/6 橙 やや軟質	口縁部の一部にタール(油煙)付着
10	かわらけ 小皿	8.3 2.4 5.4	ロクロ成形。外面底部回転 糸切り後ナデ。完形。	かわらけC群 白色小礫、金 色雲母	内:7.SYR6/4 に近い橙 外:7.SYR6/3 に近い橙 軟質	口縁端部を意図的に打ち欠く

第12表 堀・溝出土遺物観察表(3)

No.	品種	大きさ	特徴	胎土	色調・構成	備考
11	かわらけ 小皿	8.0 2.4 5.0	ロクロ成形。外面底部回転 糸切り後ナダ。残存率1/2。	かわらけB群・ 金色雲母、赤 色粒子	内：7.5YR8/4 浅黄緑 外：7.5YR7/6 橙 やや軟質	口縁部を意図的に打ち欠く
12	かわらけ小皿 唐明土器	(8.2) (2.3) (5.4)	ロクロ成形。外面回転糸切 り未調整。残存率2/3。	かわらけB群・ 金色雲母、赤 色粒子	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR7/4 に近い橙 やや軟質	口縁部の一部にタール(油煙)付着
13	かわらけ皿	(10.8) (2.9) (5.8)	ロクロ成形。外面回転糸切 り未調整。残存率1/3。	かわらけB群・ 金色雲母、赤 色粒子	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR7/4 に近い橙 やや軟質	口縁部の一部にタール(油煙)付着
14	瓦質土器 内耳鍋	- (2.8) -	口縁部ココナダ。体部外面 ナダ。内面ナダ。残存率 1/12以下。	瓦質土器B群・ 黒色粒子	内：5YR7/4 に近い橙 外：5YR3/2 暗赤褐 やや軟質	
15	古銭	-	直径2.2cm。北宋銭「熙寧 元寶」(初鋳は1068年)			
16	古銭	-	直径1.7cm。北宋銭「祥? 符元寶」(初鋳は1068年)			
2号堀 (SD02B)						
1	質基磁器 1 染付(青花) 皿	- (2.4) 6.2	内外面とも草花文を描く。 高台~底部外面は素地。高 台部先端(鬚付き)はヘラ ケズリ。残存率1/6。	磁器A群	釉：鉄藍色 素地：淡灰黄色 硬質	
2	瓦質土器 火鉢・火舎類	- (9.3)	肩部外面丁寧なヘラミガキ。 体部外面ナダ後ヘラミガキ。 内面ナダ。残存率1/12。	瓦質土器B群	外：10Y4/1 灰 内：10Y5/1 灰	在地産火鉢
3	瓦質土器 鉢類	(17.9) (8.2) (15.8)	ロクロ成形。内外面とも丁 寧なナダ。残存率1/8	瓦質土器B群・ 黒色粒子、輝 石	内：M/0 灰 外：N5/0 灰	
4	瓦質土器 盛り鉢	(18.0) 9.9 (11.8)	口縁部ココナダ。内面5~6 条を1組とする盛り目を施 す。外面ナダ。残存率1/4	瓦質土器C群・ 黒色微砂	内：10YR5/1 褐灰 外：10YR7/4 に近い黄褐 やや硬質	在地産盛り鉢
5	瓦質土器 盛り鉢	- (6.6)	ロクロ成形。内面6~8条 を1組とする盛り目を施す。 外面ヘラケズリ。残存率 1/12以下。	瓦質土器C群	外：2.5Y5/1 黄灰 内：2.5Y5/1 黄灰 やや硬質	在地産盛り鉢
6	瓦質土器 盛り鉢	(1.1) -	内面底部に5条1組とする 盛り目を施す。残存率1/12 以下。	瓦質土器C群	外：10YR4/1 褐灰 内：10YR4/1 褐灰 やや硬質	在地産盛り鉢
7	瓦質土器 内耳鍋	- (6.2)	口縁部ココナダ。内耳接合 部分に指頭痕が残る。口縁 部内外面に僅・煮炊き痕残 る。残存率1/12以下。	瓦質土器C群・ 黒色微砂	内：5YR6/6 橙 外：5YR6/4 に近い橙 やや硬質	
8	瓦質土器 内耳鍋	(37.0) (14.2)	口縁部ココナダ。体部外面 ナダ。内面ヘラナダ。口縁 部外面や内面に僅・コゲ痕。 残存率1/8。	瓦質土器C群・ 長石粒、金色 雲母細粒	内：5YR5/6 明赤褐 外：5YR5/8 明赤褐 やや硬質	
9	かわらけ 皿	11.0 3.6 6.0	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り後ナダ。完形。	かわらけB群・ 金色雲母	内：5YR6/6 橙 外：5YR7/6 橙 やや軟質	器胆の荒れ目立つ。全体的に煤目ゴレ付着。口縁部にタール(油煙)付着
10	かわらけ 皿	11.0 3.1 4.5	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り未調整。ほぼ完形(口 縁部一部欠損)。	かわらけB群・ 金色雲母、赤 色粒子	内：2.5YR6/6 橙 外：5YR6/6 橙 やや軟質	
11	かわらけ 皿	11.6 3.5 4.4	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り未調整。ほぼ完形(口 縁部一部欠損)。	かわらけA群	内：7.5YR7/3 に近い橙 外：7.5YR8/3 浅黄緑 やや硬質	
12	かわらけ 皿	(10.9) 3.2 5.1	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り未調整。残存率2/3。	かわらけB群・ 金色雲母、赤 色粒子	内：2.5YR6/6 橙 外：5YR6/6 橙	
13	かわらけ 皿	10.2 3.7 5.9	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り後ナダ。完形。	かわらけB群・ 金色雲母、赤 色粒子	内：7.5YR7/4 に近い橙 外：7.5YR7/3 に近い橙 やや軟質	
14	かわらけ 皿	11.5 3.3 5.8	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り後ナダ。完形(口縁 部一部欠損)。	かわらけB群・ 金色雲母、黒 色粒子	内：5YR7/4 に近い橙 外：5YR7/3 に近い橙 やや軟質	
15	かわらけ 皿	(13.3) 3.2 (4.5)	ロクロ成形。外面底部糸切 り未調整。残存率1/2	かわらけB群・ 白色粒子	外：5YR7/8 橙 内：5YR7/6 橙 やや軟質	
16	かわらけ 皿	12.2 3.4 5.2	ロクロ成形。底部外面、多 方向ナダ。残存率2/3。	かわらけC群・ 長石粒、金色 雲母細粒	内：7.5YR6/3 に近い橙 外：7.5YR6/4 に近い橙	

第13表 堀・溝出土遺物観察表(4)

No.	器種	大きさ	特徴	胎土	色調・焼成	備考
17	かわらけ皿	(11.8) 3.8 5.4	ロクロ成形。外面回転糸切り未調整。残存率3/4。	かわらけ	内：7.5YR7/4にぶい橙 外：7.5YR7/3にぶい橙	内外面にタール(油煙)・煤ヨゴレ付着
18	かわらけ皿	(7.7) 2.2 (4.1)	ロクロ成形。底部外面ナズ。残存率1/2。	かわらけC群・赤色粒、輝石	外：7.5YR7/3にぶい橙 内：7.5YR7/4にぶい橙 やや軟質	
19	かわらけ小皿	7.2 1.9 3.6	ロクロ成形。底部外面回転糸切り後ナズ。完形。	かわらけC群・金色雲母、赤色粒子	外：5YR6/6橙 内：5YR7/6橙	
20	かわらけ小皿	7.6 2.1 3.9	ロクロ成形。底部外面回転糸切り後ナズ。完形(口縁部一部欠損)。	かわらけB群	内：5YR8/4淡橙 外：5YR8/3淡橙 やや軟質	口縁部にタール(油煙)付着。体部に煤ヨゴレ付着
21	かわらけ皿	(7.3) 2.2 (4.0)	ロクロ成形。底部外面ナズ。残存率1/2。	かわらけC群・輝石	外：7.5YR7/4にぶい橙 内：7.5YR8/4淡黄橙 やや軟質	
22	かわらけ小皿	6.5 2.1 3.6	ロクロ成形。外面底部回転糸切り後ナズ。完形。	かわらけB群	内：10YR8/3橙 外：10YR8/2灰白 やや軟質	
23	かわらけ小皿	7.5 1.9 4.7	ロクロ成形。外面回転糸切り後ナズ。ほぼ完形(外面一部欠損)。	かわらけB群・金色雲母、赤色粒子	内：7.5YR6/4にぶい橙 外：7.5YR7/4にぶい橙 やや軟質	
24	かわらけ小皿	(6.1) 1.7 (5.0)	ロクロ成形。外面底部回転糸切り後ナズ。残存率1/2以下。	かわらけB分・金色雲母	内：7.5YR7/4にぶい橙 外：5YR8/3淡黄橙 やや軟質	
25	かわらけ小皿	(6.2) (4.7) (3.1)	ロクロ成形。底部外面回転糸切り未調整。	かわらけ	外：5YR5/3にぶい赤褐 内：5YR6/3にぶい橙 やや軟質	口縁の一部にタール(油煙)付着
26	かわらけ小皿	(6.3) 2.1 (3.5)	ロクロ成形。外面底部回転糸切り後ナズ。残存率1/2。	かわらけC群・黒色粒子	内：5YR6/4にぶい橙 外：5YR6/6橙 やや軟質	
27	かわらけ小皿	(6.5) 2.1 (4.0)	ロクロ成形。外面底部回転糸切り後ナズ。残存率2/3。	かわらけC群・金色雲母、赤色粒子	内：5YR7/3にぶい橙 外：5YR7/4にぶい橙 やや軟質	
28	かわらけ皿	<1.6> (5.2)	ロクロ成形。底部外面回転糸切り未調整。底部完形。	かわらけA群	外：7.5M5/2灰赤 内：7.5M6/2灰赤	内外面にスラッグ(鉄滓)付着
2号層(SD05)						
1	貿易磁器 青磁 酒合蓋	(4.2)	ロクロ成形。内外面に緑灰色釉を施す。また体部外面に織文を施す	陶器A群	釉：緑灰色 素地：灰白色 硬質	龍泉窯系青磁
2	貿易磁器 青白磁 椀子(楕円)	(3.5)	ロクロ成形。外面に渦巻文を施す。残存率1/12以下	陶器A群	釉：明青灰色 素地：灰白色 硬質	
3	貿易磁器 青磁 蓮花皿	(16.0) (2.5)	型製し成形。内外面に緑灰色釉を施す。	陶器A群	釉：緑灰色 素地：暗灰色 硬質	
4	貿易磁器 白磁皿	(15.0) 3.3	口縁部は隆反り。高台部は断面三角形を呈す。ほぼ全面に乳白色釉を施す(高台部は接地面のみ露胎)。残存率1/8。	磁器A群	釉：乳白色 素地：灰白色	森田勉分類・白磁E-2類
5	貿易磁器 白磁皿	(2.8) 6.8	高台部は断面台地上を呈す。ほぼ全面に乳白色釉を施す(高台部は接地面のみ露胎)。残存率1/2。	磁器A群	釉：乳白色 素地：灰白色 硬質	森田勉分類・白磁E-2類
6	貿易磁器 染付椀	(13.8) (2.7)	ロクロ成形。口縁部断面は直立気味。顔面は草花文。内面は二条線を薄く施す。残存率1/8。	磁器A群	染付：紫色 硬質	小野正敏分類・染付椀E群
7	陶器(大冨) 天目茶碗	(3.4)	ロクロ成形。内外面に鉄釉を施す。残存率1/12以下。	陶器B群	釉：茶褐色 素地：淡黄灰色 硬質	瀬戸・美濃窯産 大冨1～2段階か
8	陶器(大冨) 緑灰釉丸皿	(2.1)	ロクロ成形。外面に緑灰色釉を施す。残存率1/8以下。	陶器B群	釉：オリーブ色 素地：灰白色 硬質	瀬戸・美濃窯産 大冨段階
9	陶器(大冨) 緑灰釉丸皿	(1.3) 6.4	ロクロ成形。外面に緑灰色釉を施す。削り込み高台。底部外面に輪トテ痕残る。残存率2/3。	陶器B群	釉：オリーブ色 素地：灰白色 硬質	大冨1～2段階 (皿内面に印花文なし)

第14表 堀・溝出土遺物観察表(5)

No.	品種	大きさ	特徴	胎土	色調・構成	備考
10	陶器(大塚) 緑灰釉丸皿	10.2, 2.4 5.8	ロクロ成形。ほぼ全面に緑灰釉を施す(底部のみ素地)。底部外面回転ヘラズリ。削り出し高台。残存率2/3	陶器B群・黒色顔料	釉:緑灰色 素地:灰黄色 硬質	瀬戸・美濃窯産 大塚2段階後半
11	陶器(大塚) 緑灰釉碗皿	10.0, 2.6 5.4	ロクロ成形。全面に緑灰釉を施す。皿部内面に印花文(菊花)。底部外面に輪トチ痕残る。削り出し高台。残存率2/3	陶器B群・黒色顔料	釉:淡い緑灰色 素地:灰黄色 硬質	瀬戸・美濃窯産 大塚1段階後半～2段階
12	陶器(大塚) 緑灰釉丸瓶	- (4.3), 6.4	ロクロ成形。ほぼ全面に緑灰釉を施す。底部外面に輪トチ痕残る。削り出し高台。残存率3/4	陶器B群	釉:緑灰色 素地:灰黄色	瀬戸・美濃窯産 大塚1～2段階
13	陶器(大塚) 灰釉折縁皿	(11.0), (2.1)	ロクロ成形。内外面に灰釉を施す。皿部内面にソギギを施す。残存率1/8以下。	陶器B群	釉:灰オリーブ色 素地:にぶい黄褐色	美濃窯産 大塚4段階
14	陶器(大塚) 志野丸皿	(12.0), 2.2 (7.4)	ロクロ成形。内外面に乳白色釉を施す。体部外面下位の一部～底部は素地。削り出し高台。残存率1/4	陶器B群	釉:乳白色 素地:淡黄色	美濃窯産 大塚4段階後半～末
15	磁器 青磁小碗 (半筒形)	(8.0), (5.2)	口縁先端を山形状に輪まみ上げる。内外面に緑灰釉を施す。	磁器A群	内:7.5GY5/1緑灰 外:7.5GY5/1緑灰 硬質	国内産青磁(産地不明)17～19c頃
16	磁器 青磁香炉	(18.0), (6.3)	ロクロ成形。外面～口縁部内面に緑灰釉を施すを施す。残存率1/5。	磁器A群	釉:緑灰色 素地:灰白色 硬質	肥前波佐見系 肥前皿田窯
17	陶器(古瀬戸) 瓶子	- (7.9)	ロクロ成形。外面に灰釉を施す。瀬戸窯分型短頸II類に相当。残存率1/8以下	陶器B群	釉:灰オリーブ色 素地:灰色 硬質	瀬戸窯産。古瀬戸中期
18	陶器(古瀬戸) 鉄釉煮飯瓶	- (7.2)	ロクロ成形。外面に鉄釉(茶褐色)を施す。残存率1/8以下	陶器B群	釉:茶褐色 素地:緑灰色 硬質	瀬戸窯産。古瀬戸中期～後期
19	美濃系陶器 煮飯瓶	- (5.2)	成形時にへら掻きにより文様が施されている(破片のたゞ文様全集は不明)。残存率は1/12以下。	陶器E群+長石	内:2.5Y4/1黄灰 外:10YR5/2灰黄褐 や硬質	美濃窯または常滑窯の製品。へら掻き文様文様(12c後半～13c前半)
20	陶器 片口鉢 (常滑製品)	- (5.3)	口縁部は山形状を呈す。内外面ナゲ。自然釉付着。残存率1/12以下。	陶器E群	内:5YR4/3にぶい赤褐 外:5YR3/3暗赤褐 硬質	常滑窯製品(菅原政隆) 常滑5型式以前か
21	陶器 片口鉢 (常滑製品)	- (9.5)	口縁先端を平皿(ただし先端部は三角形に腫み上げる)に成形する。内外面ナゲ。内面自然釉付着。残存率1/12以下。	陶器E群+長石	内:10R4/2灰赤 外:5YR5/1にぶい赤褐 硬質	常滑窯5～8型式 内面上位に押印文(格子状)を施す
22	陶器 壺 (常滑製品)	- (9.5)	粘土練づくり成形外面本口状工具によるナゲ。自然釉付着。内面ナゲ。所々に指面痕残る。残存率1/12以下。	陶器E群+長石	内:10YR4/1褐灰 外:5YR3/2暗赤褐 硬質	常滑窯製品(菅原政隆)
23	陶器 壺類 (常滑製品)	- (6.2), (13.6)	粘土練づくり成形。体部下位の内外面に自然釉付着。底部外面はナゲ。残存率1/8。	粘土E群+長石	内:2.5Y5/1黄灰 外:10R3/3暗赤褐 硬質	常滑窯製品(菅原政隆)
24	陶器 壺 (常滑製品)	- (8.9)	粘土練づくり成形。断面N字状口縁の退化形態(口縁部隆帯が下方に5cm程度下。前面の厚みは3cmに達する)。内面ナゲ。残存率1/12以下。	陶器E群+長石、石英	内:7.5R3/2暗赤褐 外:7.5R4/1暗赤褐 硬質	常滑窯製品(菅原政隆) 常滑窯9～10型式
25	陶器 壺 (常滑製品)	- (7.9)	粘土練づくり成形。断面N字口縁の退化形態(口縁部隆帯が下方に4～5mm程度下。前面の厚み2.7cm)。内面ナゲ。残存率1/12以下。	陶器E群+長石	内:暗赤褐色 外:暗赤褐色 硬質	常滑窯製品(菅原政隆) 常滑窯9～10型式
26	瓦質土器 火鉢	(42.0), (11.6)	ロクロ成形。口縁部外面に2本の隆帯を貼る。区画内は横二重差に花菱。区画外は下向きのスタンプ文を施す。内外面丁寧なナゲ。内面被熱痕。	瓦質土器A群	内:5Y6/1灰 外:5Y5/1灰	大和産(奈良火鉢VI類)と思われる

第15表 堀・溝出土遺物観察表(6)

No.	品類	大きさ	特徴	胎土	色調・構成	備考
27	灰質土器 内耳罐	(28.4) (5.8)	口縁部ヨコナデ。体部内外面ナデ。残存率1/8以下	灰質土器B群	内:7.5YR2/4 灰褐色 外:7.5YR7/4 に近い やや軟質	
28	古銭	-	直径2.2cm。北宋銭「開寧元寶」(初鑄は1068年)			
29	古銭	-	直径2.2cm。北宋銭「皇宋通寶」(初鑄は1039年)			
30	古銭	-	直径2.2cm。北宋銭「皇宋通寶」(初鑄は1039年)			
31	かわらけ 皿	- (2.8) 6.7	ロク口成形。底部外面回転糸切り未調整。残存率3/4。	かわらけC群 金色雲母	内:7.5YR7/3 に近い 外:7.5YR7/4 に近い やや軟質	底部内外面にタール(油煙)ヨコレ付着
32	かわらけ 皿	(11.4) 3.1 4.8	ロク口成形。底部外面回転糸切り未調整。底部完端。口縁部1/4。	かわらけB群 金色雲母、赤色粒子	内:7.5YR7/4 に近い 外:7.5YR8/4 浅黄褐色やや軟質	
33	かわらけ 皿	(10.8) 3.4 5.9	ロク口成形。底部外面回転糸切り後未調整。残存率1/3	かわらけB群 黒色粒子、赤色粒子	内:7.5YR6/6 褐色 外:7.5YR7/6 褐色	
34	かわらけ 皿	10.2 2.6 5.6	ロク口成形。底部外面回転糸切り後ナデ。残存率3/4。	かわらけB群 黒石、赤色粒子(石英)	外:7.5YR7/4 に近い 内:7.5YR7/6 褐色	口縁部にタール(油煙)付着
35	かわらけ 皿	112 32 30	ロク口成形。底部外面回転糸切り後未調整。残存率3/4	かわらけB群 黒色粒子	外:7.5YR8/6 浅黄褐色 内:7.5YR8/6 浅黄褐色やや軟質	
36	かわらけ 小皿	6.3 1.7 4.7	ロク口成形。底部外面回転糸切り後未調整。完形	かわらけB群 黒色粒子、黒石	外:7.5YR8/6 浅黄褐色 内:7.5YR8/6 浅黄褐色やや軟質	口縁部にタール(油煙)付着
37	かわらけ 小皿	6.9 2.0 4.5	ロク口成形。底部外面回転糸切り後未調整。完形	かわらけB群 黒色粒子、白色粒子	内:7.5YR5/4 に近い 外:7.5YR6/4 に近い やや軟質	
38	かわらけ 小皿	6.2 2.1 3.8	ロク口成形。底部外面回転糸切り後未調整。残存率3/4	かわらけB群 黒色粒子、黒石	内:7.5YR7/4 に近い 外:7.5YR7/4 に近い やや軟質	
39	かわらけ 小皿	7.0 1.9 5.0	ロク口成形。底部外面回転糸切り後ナデ。残存率3/4	かわらけB群 黒色粒子、白色粒子	外:7.5YR8/6 浅黄褐色 内:7.5YR8/6 浅黄褐色やや軟質	口縁部にタール(油煙)付着
40	かわらけ 小皿	6.8 1.8 4.0	ロク口成形。底部外面回転糸切り後ナデ。残存率1/2	かわらけB群 黒色粒子	外:7.5YR8/6 浅黄褐色 内:7.5YR8/6 浅黄褐色やや軟質	
41	かわらけ 小皿	(7.0) 1.9 4.2	ロク口成形。底部外面回転糸切り後ナデ。残存率2/3	かわらけB群 黒色粒子、白色粒子	外:7.5YR8/6 浅黄褐色 内:7.5YR8/6 浅黄褐色やや軟質	
42	かわらけ 小皿	(7.9) 2.0 (6.0)	ロク口成形。底部外面回転糸切り後ナデ。残存率1/3	かわらけB群 金色雲母、黒色粒子	外:7.5YR8/6 黄褐色 内:7.5YR8/6 黄褐色やや軟質	
43	砥石	-	残存長14.2cm。最大幅7.9cm。厚み3.3cm。ほぼ全面を砥石として使用している。		灰色	
44	石製品 板碑(断片)	-	残存長12.1cm。最大幅18.9cm。緑泥片製であることから武藏型板碑断片(基部、台石)の可能性有り		緑灰色	表面及び内側面に丁寧な調整痕(ミカガキ)が施される。板碑転用後か。なお表面は片状構造を利用した制敵痕と成形痕が残る
3号塚 (SB03)						
1	かわらけ 皿	7.8 2.1 4.2	ロク口成形。底部外面回転糸切り未調整。完形	かわらけB群 金色雲母、白色小粒	内:5YR7/4 に近い 外:5YR7/3 に近い やや軟質	口縁部の一部にタール(油煙)付着。
2	かわらけ 皿	(2.5) 5.8	ロク口成形。底部外面回転糸切り未調整。底部完端	かわらけB群 白色粒子	内:5YR8/4 浅黄褐色 外:5YR8/4 浅黄褐色やや軟質	
3	かわらけ 小皿	- (1.4) (5.8)	ロク口成形。底部外面回転糸切り後ナデ。残存率1/4。	かわらけB群 白色粒子	内:7.5YR7/4 に近い 外:7.5YR7/4 に近い やや硬質	
4号塚 (SB04)						
1	陶器(大型) 緑灰軸折縁皿	- (3.0) -	ロク口成形。口縁部内外面に緑灰軸を施す。残存率1/8以下。	陶器B群	軸:緑灰色 素地:灰色 硬質	瀬戸・美濃系製品 大雲3段階
2	陶器(古瀬戸) 皿類	(2.4) 11.2	ロク口成形。内外面に灰軸を施す。体部外面下端一部外面は素地。残存率1/4。	陶器B群	軸:淡緑色 素地:淡黄色 硬質	瀬戸窯産。古瀬戸後期様式

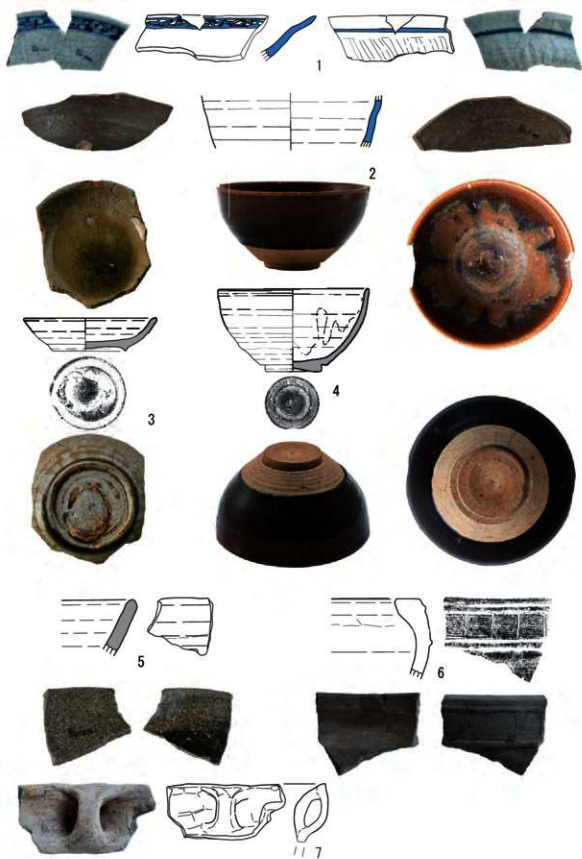
第16表 堀・溝出土遺物観察表(7)

No.	品種	大きさ	特徴	胎土	色調・構成	備考
3	須恵系陶器皿	(18.0) (3.6)	ロクロ成形。天井部外面へラウズリ。口縁部外面へラミダギ状。残存率1/4。	灰質土器C群 白色小礫	内：5Y6/1 灰 外：5Y5/1 灰 やや軟質	経筒外容器の蓋に類似する
4	灰質土器 火鉢	(3.3)	口縁部が内側に水平に折れ曲がる。口縁部外面に突帯が回り、その間に印文を押し付ける。残存率1/8以下。	灰質土器C群 白色小礫、黒石	内：7.5YR5/3 に近い 外：10YR6/1 焼灰 やや軟質	立石聖志氏・奈良火鉢分類表Ⅵを模倣した在地製品
5	灰質土器 内耳鍋	(6.9)	口縁部ヨコナデ。内弁接合部分に指頭痕残る。残存率1/8以下。	灰質土器C群 黑色輝石	内：7.5YR5/4 に近い 外：7.5YR3/1 黒地 やや軟質	
SD45801						
1	かわらけ 皿	3.0 7.0	ロクロ成形。底部外面回転糸切り後緩いナデ。ほぼ完形(口縁部欠損)。	かわらけB群 金色雲母、黒色粒子	外：7.5YR7/3 に近い 内：7.5YR7/4 に近い やや軟質	口縁部を意図的に打ち欠く
2	かわらけ 皿	(3.4) 6.8	ロクロ成形。底部外面回転糸切り未調整。残存率2/3。	かわらけB群 金色雲母	内：7.5YR7/4 に近い 外：7.5YR7/3 に近い やや軟質	
3	かわらけ 皿	(3.0) 6.7	ロクロ成形。底部外面回転糸切り未調整。残存率2/3。	かわらけB群 金色雲母、黒色粒子	外：7.5YR7/4 に近い 内：7.5YR7/3 に近い やや軟質	
4	かわらけ 皿	(3.0) (7.0)	ロクロ成形。底部外面回転糸切り未調整。残存率1/3。	かわらけB群 金色雲母、白色小礫	内：7.5YR7/4 に近い 外：7.5YR7/3 に近い やや軟質	
5	かわらけ 皿	(3.0) 7.4	ロクロ成形。底部外面回転糸切り後ナデ残存率1/2。	かわらけB群 金色雲母	内：7.5YR7/4 に近い 外：7.5YR7/3 に近い やや軟質	
6	かわらけ 皿	(11.7) 2.7 7.0	ロクロ成形。底部外面回転糸切り後緩いナデ。残存率2/3。	かわらけB群 金色雲母、黒色輝石	内：7.5YR7/4 に近い 外：7.5YR7/3 に近い やや軟質	
7	かわらけ 皿	(3.3) 5.6	ロクロ成形。底部外面回転糸切り後ナデ。底部完形。	かわらけB群 金色雲母	内：7.5YR7/4 に近い 外：7.5YR7/3 に近い やや軟質	口縁部を意図的に打ち欠く
8	かわらけ 皿	(2.6) 5.6	ロクロ成形。底部外面回転糸切り後ナデ。底部完形。	かわらけB群 金色雲母	内：7.5YR7/4 に近い 外：7.5YR7/3 に近い やや軟質	口縁部を意図的に打ち欠く
9	かわらけ 皿	(2.5) 5.3	ロクロ成形。底部外面回転糸切り後ナデ。底部完形。	かわらけB群 金色雲母	内：7.5YR7/4 に近い 外：7.5YR7/3 に近い やや軟質	口縁部を意図的に打ち欠く
SD45802						
1	かわらけ 皿	(192) 48 74	ロクロ成形。外面底部回転糸切り後ナデ。残存率2/3。	かわらけB群 黒色粒子	内：10YR8/2 灰白 外：10YR8/1 灰白 やや軟質	
2	かわらけ 皿	(15.5) 3.8 5.8	ロクロ成形。外面底部回転糸切り後ナデ。残存率2/3。	かわらけB群 黒色粒子	外：2.5Y6/1 黄灰 内：2.5Y7/1 灰白 やや軟質	底部にスノコ状痕残る
3	かわらけ 皿	15.9 3.8 5.5	ロクロ成形。外面底部回転糸切り後ナデ。ほぼ完形(口縁部一部欠損)。	かわらけB群 黒色粒子	内：10YR8/2 灰白 外：10YR8/1 灰白 やや軟質	底部回転糸切りス付着
4	かわらけ 皿	12.6 3.5 5.0	ロクロ成形。外面底部回転糸切りナデ。完形。	かわらけB群 黒色粒子	内：10YR8/3 浅黄橙 外：10YR8/2 灰白 やや軟質	口縁部にタール(油煙)付着。底部にスノコ状痕残る
5	かわらけ 皿	12.8 2.9 4.7	ロクロ成形。外面底部回転糸切り後ナデ。完形。	かわらけB群 黒色粒子	内：10YR8/2 灰白 外：10YR8/1 灰白 やや軟質	
6	かわらけ 皿	13.1 3.1 4.5	ロクロ成形。外面底部回転糸切り後ナデ。完形。	かわらけB群 黒色粒子	内：10YR7/1 灰白 外：10YR6/1 焼灰 やや軟質	
7	かわらけ 皿	13.6 3.5 5.1	ロクロ成形。外面底部回転糸切り後ナデ。完形。	かわらけB群 黒色粒子	内：10YR8/2 灰白 外：10YR8/3 浅黄橙 やや軟質	
8	かわらけ 皿	12.3 3.1 3.9	ロクロ成形。外面底部回転糸切り後ナデ。完形。	かわらけB群 黒色粒子	内：10YR8/3 浅黄橙 外：10YR8/2 灰白 やや軟質	
9	かわらけ 皿	13.2 3.0 7.4	ロクロ成形。外面底部回転糸切り後ナデ。完形。	かわらけB群 黒色粒子	内：10YR8/3 浅黄橙 外：10YR8/2 灰白 やや軟質	
10	かわらけ 皿	13.9 3.1 7.5	ロクロ成形。外面底部回転糸切り未調整。完形。	かわらけB群 金色雲母、黒色粒子	内：7.5YR7/4 に近い 外：7.5YR7/3 に近い やや軟質	

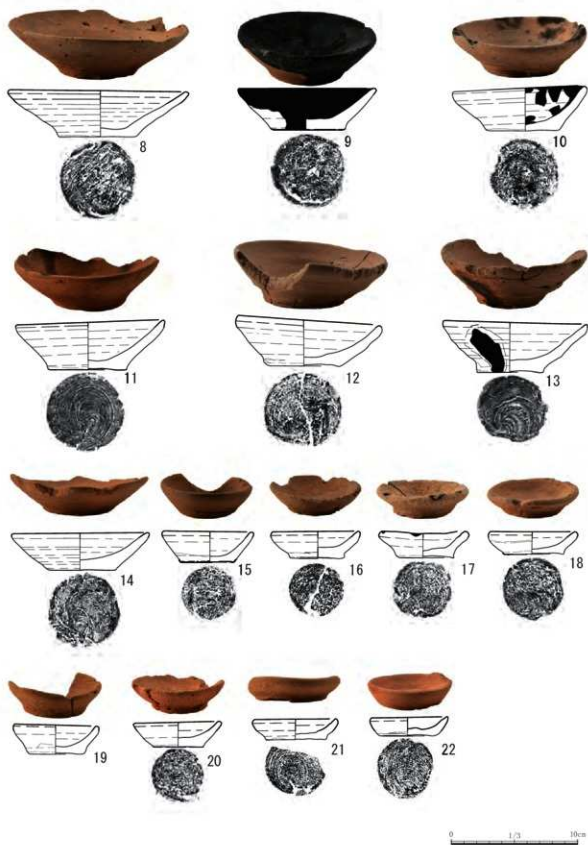
第17表 堀・溝出土遺物観察表(8)

No.	品種	大きさ	特徴	胎土	色調・構成	備考
11	かわらけ皿	13.6 3.0 7.2	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り後ナデ。ほぼ完形(口 縁部一部欠損)。	かわらけB群・ 金色雲母、黒 色粒子、輝石	内：2.5YR6/3にぶい黄 外：2.5YR7/3 浅黄 やや軟質	
12	かわらけ皿	12.8 3.0 7.2	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り未調整。ほぼ完形(口 縁部一部欠損)。	かわらけB群・ 金色雲母、赤 色粒子	内：7.5YR6/4にぶい・橙 外：7.5YR6/3にぶい・橙 やや軟質	
13	かわらけ	12.4 2.8 7.0	ロクロ成形。外面底部回転 糸切り未調整。ほぼ完形(口 縁部一部欠損)。	かわらけB群・ 金色雲母、黒 色粒子	内：10YR7/4にぶい・黄橙 外：10YR7/3にぶい・黄橙	
14	かわらけ皿	12.9 3.0 7.5	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り未調整。完形。	かわらけB群・ 金色雲母、赤 色粒子	内：7.5YR7/4にぶい・橙 外：7.5YR6/4にぶい・橙 やや軟質	
15	かわらけ小皿	88 18 34	ロクロ成形。外面底部回転 糸切り未調整。ほぼ完形(口 縁部一部欠損)。	かわらけB群・ 黒色粒子、白 色粒子	内：10YR7/3にぶい・黄橙 外：10YR7/4にぶい・黄橙 やや軟質	
16	かわらけ小皿	8.8 2.0 4.4	ロクロ成形底部外面回転糸 切り後緩いナデ。完形。	かわらけB群・ 黒色粒子、白 色粒子	内：10YR7/3にぶい・黄橙 外：10YR7/4にぶい・黄橙 やや軟質	
17	かわらけ小皿	8.7 1.9 6.0	ロクロ成形。外面底部回転 糸切り後ナデ。残存率2/3。	かわらけB群・ 金色雲母	内：10YR7/3にぶい・黄橙 外：10YR7/3にぶい・黄橙	
18	かわらけ小皿	8.5 1.8 3.8	ロクロ成形。外面底部回転 糸切り後ナデ。残存率2/3。	かわらけB群・ 黒色粒子、輝 石	内：10YR8/2 灰白 外：10YR8/3 浅黄橙 やや軟質	
19	かわらけ小皿	8.3 1.8 5.5	ロクロ成形。底部外面回転 糸切り未調整。残存率3/4。	かわらけB群・ 金色雲母	内：10YR3/1 黒褐 外：10YR4/1 黒灰	口縁部にタール(油煙)付着

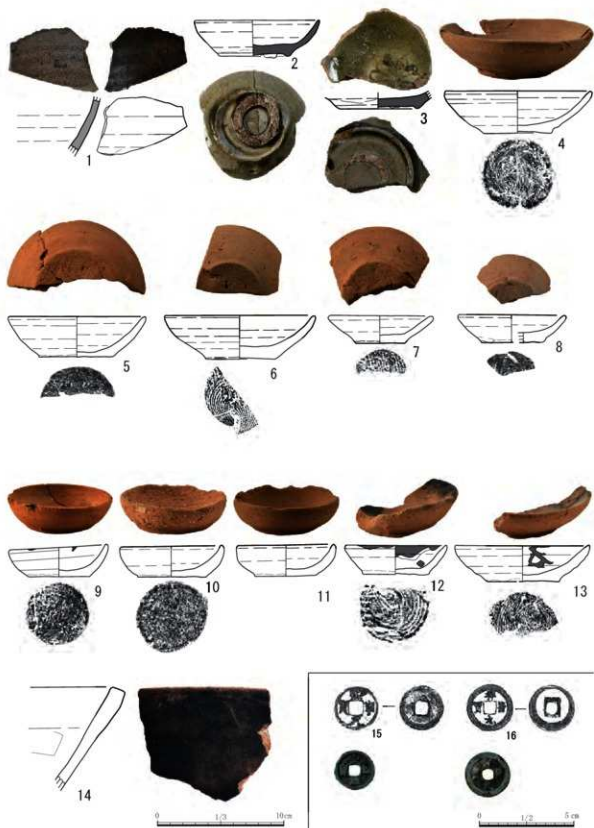
6号溝 (SD06)						
1	陶器(古瀬戸) 灰輸花瓶	3.6 (7.9)	口縁部～体部外面中に灰 軸を施す。口縁部はツバ 状に外反する。残存率1/2	胎土B群	軸：灰オリーブ 素地：灰色 硬質	古瀬戸中田期～後田期
7号溝 (SD07)						
1	かわらけ皿	- (1.9) (7.5)	ロクロ成形。底部回転糸切 り後ナデ。残存1/4。	かわらけB群・ 金色雲母	内：5YR7/4にぶい・橙 外：5YR7/3にぶい・橙 やや軟質	
2	かわらけ皿	- (1.4) (5.8)	ロクロ成形。底部回転糸切 り未調整。残存率1/4。	かわらけB群・ 金色雲母	内：7.5YR6/4にぶい・橙 外：7.5YR7/3にぶい・橙 やや軟質	
3	瓦質土器 火鉢	- (5.7)	口縁部丁寧なナデ。口縁下 端にスタンプ文を施す。残 存率1/8以下。	瓦質土器B群・ 雲母粒子	内：7.5YR7/3にぶい・橙 外：7.5YR7/3にぶい・橙 硬質	立石聖志氏・奈良火鉢分類浅鉢Ⅲを模倣 した在地製品



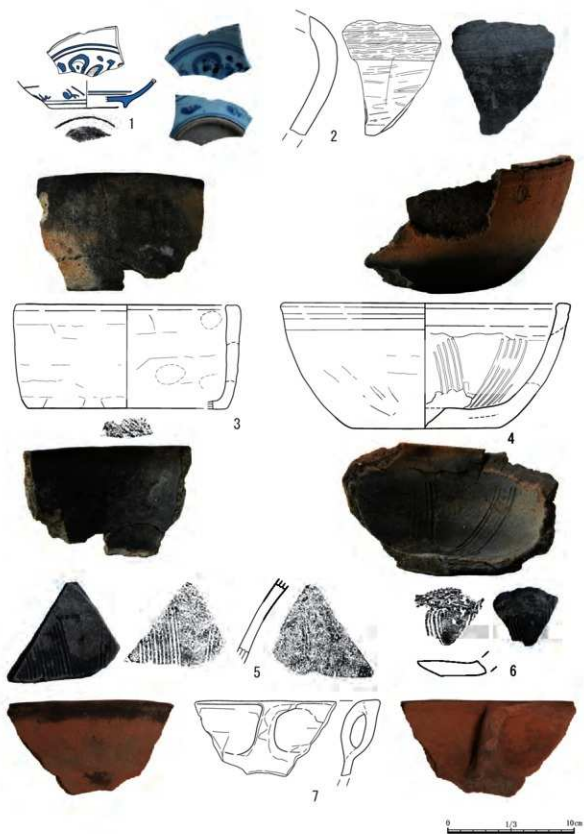
第 27 图 1 号堀 (SD01) 出土遺物 (1)



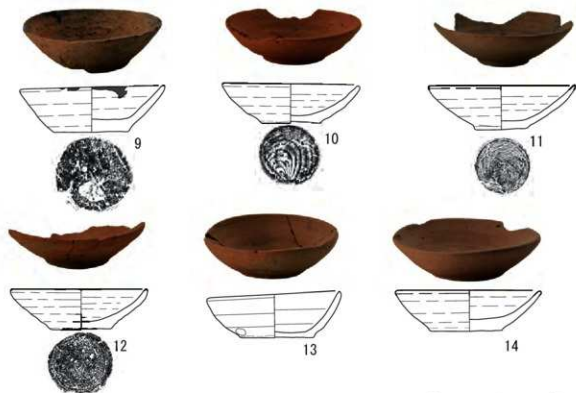
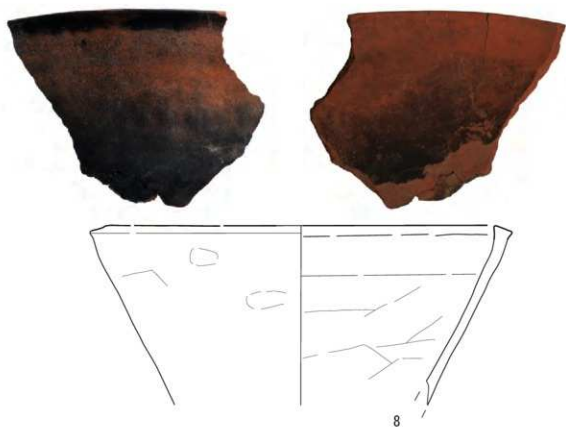
第 28 图 1 号堀 (SD01) 出土遺物 (2)



第 29 图 2 号堀 (SD02A) 出土遺物



第30图 2号堀 (SD02B) 出土遺物 (1)



第31图 2号窟(SD02B)出土遗物(2)

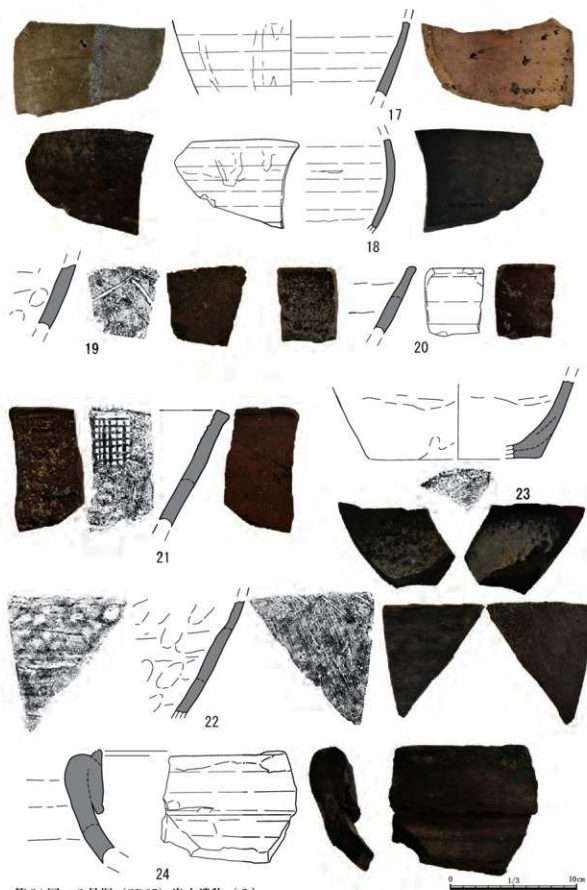




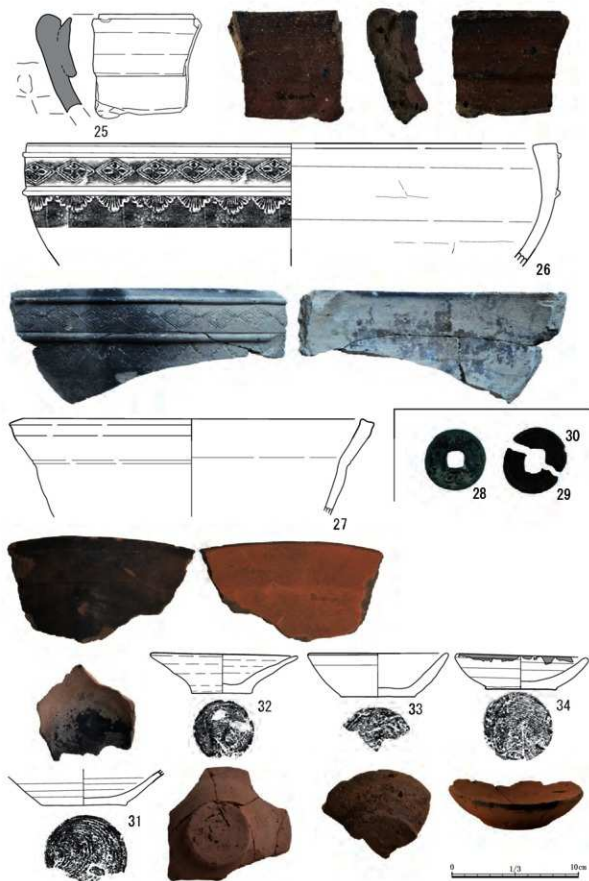
第32图 2号堀 (SD02B) 出土遺物 (3)



第 33 图 2 号窟 (SD05) 出土遗物 (1)



第34图 2号堀 (SD05) 出土遺物 (2)

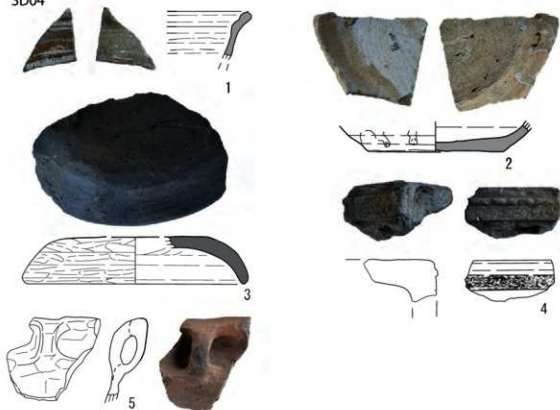


第35图 2号堀 (SD05) 出土遺物 (3)

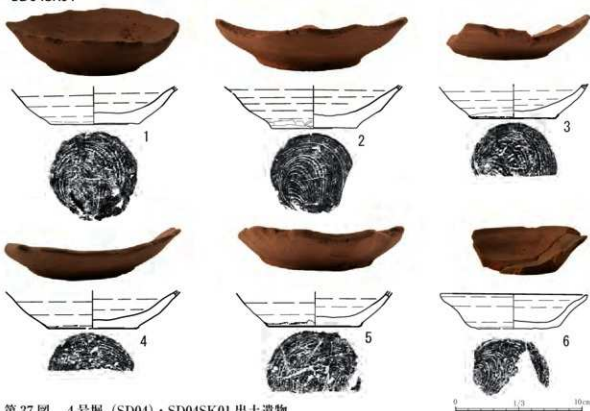


第36图 2号堀 (SD05) 出土遺物 (4)

SD04

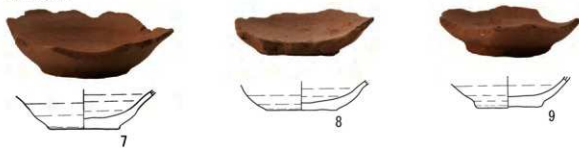


SD04SK01

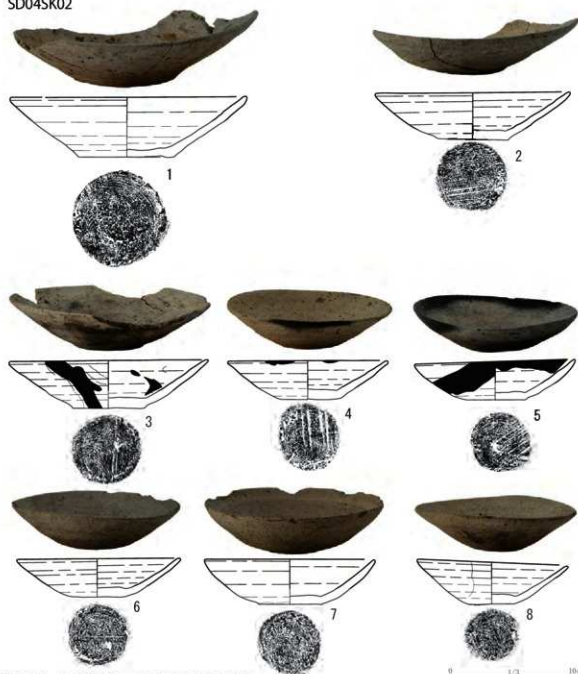


第37图 4号堀 (SD04)・SD04SK01 出土遺物

SD04SK01



SD04SK02

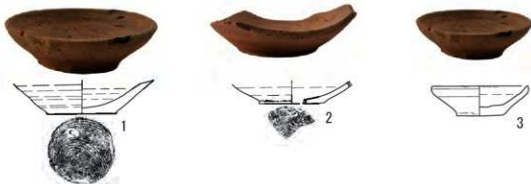


第 38 図 SD04SK01・SD04SK02 出土遺物

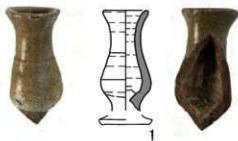


第 39 図 SD04SK02 出土遺物

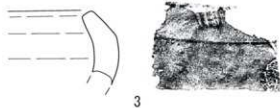
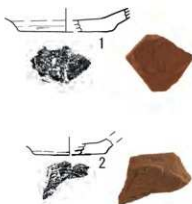
SD03



SD06



SD07



第41图 3号堀 (SD03)・6号溝・7号溝 (SD06・07) 出土遺物

第4節 近代産業遺跡 - 大蔵省専売局太田製造所跡地 - について

1898(明治31)年に“葉煙草”専売を開始した政府は大蔵省内に専売局を設置した。1907(明治37)年には全国に収納所を置き、5か所の製造所を稼働させる。「水府煙草」として有名であった久慈郡太田町にも収納所が置かれ、以来戦後に至って専売公社・日本たばこ産業を通して、金砂郷の“そば”と“葉たばこ”連作生産が盛んとなる。

今回は2017(平成29)年に日本たばこ産業株式会社から寄贈された工場跡地に発掘調査の手が入ることとなったため、最小限ではあるが、往時の痕跡を記録しておくことにした。

最初の造成に伴う基盤整備は山砂を主体として南半部に広く行われていることが、2号堀跡・4号堀跡の断面観察から見て取れ、堀内では深さ2mにまで及ぶ箇所もある。さらにところによっては基礎固めのための転圧が行なわれていた。

① 2号堀跡(SD05東西堀)の南壁際には礫石積の跡(朱色トーン)が15余mに亘って続く。その規模は堀壁中段から高さ2m以上に及ぶ。また北壁際には丸太杭列が20mほどみられる。杭は焼いたのちコーラル塗布され、転圧された基礎に穴を穿ち据えられていることがわかる。

② 4号堀跡の分岐点付近(P・Q 19・20・21Gr.)には、東西に長い建物の跡がみられる。現況では礎石が2列にわたって堀を跨いで並ぶ。

③ 4号堀跡南壁に並行して(R 29～35Gr.)10数本のコンクリート製電柱列である。

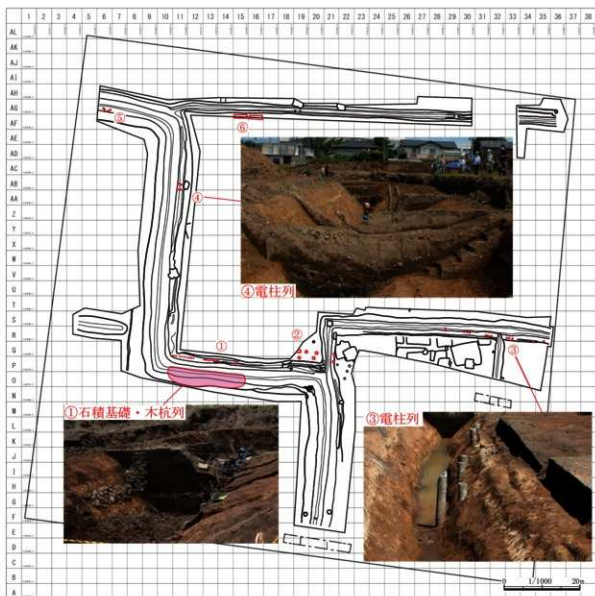
④・⑤ 2号堀跡北部2か所(AB 11・AG 6Gr.)に4本のコンクリート製電柱で構成された一面がある。

⑥ 1号堀跡南側(AF 14・15Gr.)付近にはコンクリート製の荷解き場プラットホームが放置され、旧職員によると1号堀跡に沿って倉庫への運搬路が整備されていたとのことである。(注1)

江戸時代には長らく畑地とされていたこの土地も、明治に至り住宅地として開発販売されたとの記事(注2)もみられる。その後国有化され煙草専売の一翼をになってきた歴史の一端が明らかになった。とはいえ、主目的である太田城堀跡調査から、一部を拾い集めて紡ぎ直ただけである。今後近代産業遺跡の重要性が高まる中、より精度の高い成果を追求していきたいと考える。

注1 長年勤務されていた 藤崎 明氏には聞き取り調査などお世話になりました。

2 市教育員会 山口 憲一氏からお伺いした。



第 41 図 検出された専売公社遺構

第5節 遺構外出土遺物

第18表 旧石器時代出土遺物観察表

No.	器種	部位・残存	重さ	器形の特徴	整形・文様の特徴	色調	時期	備考
1	尖頭器	完形	2.7	—	—	—	旧石器時代終末期～縄文草創期	チャートか、槌刀、石槍の可能性も有

第19表 縄文時代出土遺物観察表

No.	器種	部位・残存	重さ	器形の特徴	整形・文様の特徴	胎土			色調	時期	備考
						白色粒	黒色粒	赤色粒			
2	深鉢	胴部片	23.8	直線的に開く。	内外面共にアナダク風の貝殻模文様が施文される。	○	○	○	内面：7.5YR4/1 焼灰 外面：7.5YR4/1 焼灰	芋山式カ	
3	深鉢	胴部片	16.4	やや内湾する。	底部にコンパス文が観察される。以下胴部は、無筋しが施文。	○	○	◎	内面：10YR7/3 にぶい黄橙 外面：10YR7/3 にぶい黄橙	関山2式	胎土小磯混入
4	深鉢	胴部片	20.3	やや内湾する。	器面には太い無筋しが波状に施文される。	○	○	◎	内面：5YR4/3 にぶい赤褐 外面：5YR4/4 にぶい赤褐	黒高式	
5	深鉢	口縁部片	14.6	縁やかに外反して開く。	外面胴部にLR 縄文が同軸に施文される。	○	○	◎	内面：10YR2/1 黒 外面：7.5YR6/6 橙	黒高式古段階	胎土小磯混入
6	深鉢	胴部片	32.4	上端部でわずかに屈曲して開く。	外面胴部にLR 縄文が同軸に施文される。	○	○	○	内面：10YR6/3 にぶい黄橙 外面：10YR3/1 黒褐	黒高式古段階	
7	深鉢	胴部片	37.6	やや内湾する。	RLと無筋しの縄文が羽状に施文される。	○	○	○	内面：7.5YR5/4 にぶい褐 外面：10YR1/7/黒	黒高式	胎土小磯混入
8	深鉢	胴部片	21.9	やや内湾する。	器面にLR 縄文が施文される。	○	○	○	内面：10YR6/4 にぶい黄橙 外面：10YR6/4 にぶい黄橙	黒高式	
9	深鉢	胴部片	47.3	わずかに外反する。	上半部は無文で、下半は無筋しが施文される。	○	○	○	内面：10YR7/4 にぶい黄橙 外面：10YR7/4 にぶい黄橙	黒高式	
10	深鉢	口縁部片	20.6	やや外反気味に開く。	並行沈線状に爪形の刺突を加え、ユニオンジャック文様が描かれる。地紋は無い。	○	○	○	内面：7.56/4 にぶい橙 外面：10YR6/4 にぶい黄橙	黒高2式	
11	深鉢	胴部片	16.1	直線的に開く。	単部1の擦糸を地文とし、平行沈線による弧線文が2段描かれる。	○	○	○	内面：10YR5/3 にぶい黄褐 外面：10YR6/4 にぶい黄褐	浮島1a式	
12	深鉢	胴部片	12.8	直線的に開く。	短沈線により平行沈線が描かれる。地紋無し。	○	○	○	内面：10YR4/2 灰黄褐 外面：10YR4/2 灰黄褐	浮島2式	
13	深鉢	口縁部片	69.9	大波状口縁。外反して開く。	半截竹管により幅広い変形爪形文を多段に描く。地紋無し。	○	○	○	内面：7.5YR5/4 にぶい褐 外面：7.5YR4/2 灰褐	浮島3式～興津式	胎土砂礫混入
14	深鉢	胴部片	31.6	直線的に開く。	幅広い半截竹管により変形爪形文を描き、中間に刺突列が並ぶ。下半は並行短沈線により、弧状の文様が描かれる。	○	○	○	内面：7.5YR6/4 にぶい橙 外面：7.5YR6/4 にぶい橙	浮島3式～興津式	
15	深鉢	胴部片	21.1	直線的に開く。	胴下半部に輪積みの痕跡を残し、RL 縄文を施文する。	○	○	○	内面：5YR4/4 にぶい赤褐 外面：5YR4/3 にぶい赤褐	雙ヶ森式カ	
16	深鉢	口縁部片	10.6	口縁は外反し肥厚する。	口唇部に斜方向のアナダク風の貝殻模線による刻みを有し、胴上半にも同様の刺突が施される。	◎	△	○	内面：5YR4/4 にぶい赤褐 外面：5YR5/4 にぶい赤褐	興津式	胎土小磯混入
17	深鉢	胴部片	13.5	直線的に開く。	縦方向に沈線が描かれ、並行して刺突列が並ぶ。	○	○	○	内面：5YR6/6 橙 外面：10YR6/4 にぶい黄橙	興津式	胎土小磯混入
18	深鉢	胴部片	26.2	外反して開く。	無筋のしが同軸に施文される。	○	○	○	内面：7.5YR5/4 にぶい褐 外面：7.5YR5/4 にぶい褐	菓高台式	胎土砂礫多量混入
19	深鉢	胴部片	10.5	やや内湾する。	磨り消し懸垂文が垂下し、区内には縦方向にLR 縄文が同軸に施文される。	○	○	○	内面：7.5YR6/4 にぶい橙 外面：7.5YR6/4 にぶい橙	加賀利E3	
20	深鉢	胴部片	18.4	ほぼ直立する。	斜方向の沈線が3本1単位で描かれる。	○	○	○	内面：7.5YR6/6 橙 外面：7.5YR6/6 橙	加賀利E3	胎土小磯混入 縄文後期の形式の可能性も有
21	石匙	完形	2.7	—	—	—	—	—	—	中期	チャート
22	凹石・原石	完形	382.9	—	—	—	—	—	—	中期	花崗岩カ

第20表 弥生時代出土遺物観察表(1)

No.	品種	部位 残存	長さ	口徑 底径 底径	器形の特徴	彫形・文様の特徴	加土		色調	時期	備考
							白色 赤色 黒色 粘	底目			
23	土	口縁部	7.1	—	内湾する。	4本1単位の彫方による波状文がやや粗雑に施される。	○	○	内面：10984/1 黒灰 外面：10987/3に55-黄緑	土台1式	
24	土	口縁部	3.2	—	直線的に開く。	口縁部にキズミを有し、口辺直下に横方向の波状文が施される。	○	○	内面：10987/4に55-黄緑 外面：2, 5984/1 黒灰	土台1式	
25	土	口辺直下	14.8	—	大きく外反して開く。	口縁は欠損するが、口縁部に横方向の彫筋文が施される。胴部には3単位の押圧捺線が施される。	○	○	内面：10985/2 灰黄緑 外面：10983/1 黒灰	土台1式	
26	土	胴部	15.3	—	外反して開く。	3単位の押圧捺線が施される。	○	○	内面：10987/3 黄緑 外面：10987/3 黄緑	土台1式	
27	土	胴部片	31.7	—	やや外反気味に開く。	口縁は欠損するが、口縁部に横方向の彫筋文が施される。胴部には4単位の押圧捺線が施される。	○	○	内面：に55-黄緑 外面：灰黄緑	土台1式	
28	土	胴部片	13.6	—	大きく内湾する。	キズミを有する押圧捺線が3単位施される。	○	○	内面：2, 5986/1 黒灰 外面：2, 5986/2 灰白	不明	
29	土	胴部片	31.0	—	やや外反して開く。	6本1単位とする彫方によって縦方向のストリット区画を設け、内部に同工具による横方向の波状文を充填させている。	○	○	内面：2, 5987/2 灰黄 外面：2, 5987/2 灰黄	土台1式	
30	土	胴部片	21.9	—	やや外反気味に内湾する。	6本1単位とする彫方によって縦方向のストリット区画を設け、内部に同工具による横方向の波状文が充填される区画と、無文の区画が交互に施される。	○	○	内面：— 外面：10985/2 灰黄緑	土台1式	
31	土	胴部片	11.7	—	緩やかに内湾。	6本1単位とする彫方によって縦方向のストリット区画を設け、内部に同工具による横方向の波状文を充填させている。	○	○	内面：10986/3に55-黄緑 外面：10984/1 黒灰	土台1式	粘土小線器人
32	土	胴部片	10.8	—	緩やかに内湾。	6本1単位とする彫方によって縦方向のストリット区画を設け、内部に同工具による横方向の波状文が充填される区画と、無文の区画が交互に施される。	○	○	内面：2, 597/3 灰黄 外面：2, 597/3 灰黄	土台1式	
33	土	胴部片	10.9	—	やや内湾。	6本1単位とする彫方によって縦方向のストリット区画を設け、内部に同工具による横方向の波状文を充填される。	○	○	内面：2, 597/2 灰黄 外面：2, 597/2 灰黄	土台1式	
34	土	胴部片	7.3	—	内湾する。	7本1単位とする彫方によって縦方向のストリット区画を設け、下部には彫筋文が施される。	○	○	内面：10984/1 黒灰 外面：10986/4に55-黄緑	土台1式	
35	土	胴部片	7.4	—	内湾する。	胴部下部には6本1単位の彫方による彫筋文が施される。以下胴部は附加条第2種18-1の彫文が施される。	○	○	内面：2, 597/4 灰黄 外面：2, 597/4 灰黄	土台1式	
36	土	胴部へ胴部片	10.3	—	緩やかに内湾する。	胴部は磨り済んだ後3本1単位の彫方により彫筋文の文様が施される。胴部は彫筋文が施される。	○	○	内面：10987/4に55-黄緑 外面：10987/4に55-黄緑	不明、東中器人	
37	土	胴部片	19.7	—	内湾する。	胴部は磨り済んだ後3本1単位の彫方により、横方向の平行線が施される。	○	○	内面：10986/2に55-黄緑 外面：10987/4に55-黄緑	不明、東中器人	粘土赤色粘子有り
38	土	胴部片	23.9	—	内湾する。	8〜7本1単位の彫方により横方向の波状文が施される。	○	○	内面：10986/4に55-黄緑 外面：10986/4に55-黄緑	土台1式	
39	土	胴部片	11.9	—	ほぼ直立する。	附加条第2種18-1が施文される。	○	○	内面：10986/3に55-黄緑 外面：10984/1 黒灰	不明	
40	土	胴部片	30.8	—	直線的に開く。	附加条第2種18-1が回転方向を変え、羽状を構成させる。	○	○	内面：2, 5987/3に55-黄緑 外面：10987/4に55-黄緑	土台1式	粘土管針有り
41	土	胴部片	29.1	—	直線的に開く。	附加条第2種18-1が回転方向を変え、羽状を構成させる。	○	○	内面：10987/4に55-黄緑 外面：10987/4に55-黄緑	土台1式	
42	土	胴部片	13.0	—	直線的に開く。	附加条第2種18-1が回転方向を変え、羽状を構成させる。	○	○	内面：2, 5986/3に55-黄緑 外面：10986/4に55-黄緑	土台1式	
43	土	胴部片	26.4	—	やや内湾する。	附加条第2種18-1が回転方向を変え、羽状を構成させる。	○	○	内面：10983/1 黒灰 外面：10986/2 灰黄緑	土台1式	
44	土	胴部片	25.8	—	やや内湾する。	附加条第2種18-1が回転方向を変え、羽状を構成させる。	○	○	内面：10987/4に55-黄緑 外面：10987/4に55-黄緑	土台1式	
45	土	胴部片	15.7	—	やや内湾する。	附加条第2種18-1が回転方向を変え、羽状を構成させる。	○	○	内面：10987/4に55-黄緑 外面：10987/4に55-黄緑	土台1式	粘土管針有り
46	土	胴部片	16.0	—	やや内湾する。	附加条第2種18-1が施文。	○	○	内面：10987/3に55-黄緑 外面：10987/3に55-黄緑	土台1式	
47	土	胴部片	13.9	—	やや内湾する。	附加条第2種18-1が回転方向を変え、羽状を構成させる。	○	○	内面：10986/2 灰黄緑 外面：10986/2 灰黄緑	土台1式	
48	土	胴部片	21.2	—	やや内湾する。	附加条第2種18-1が回転方向を少し変え、一部羽状を形成する。	○	○	内面：— 外面：10987/3に55-黄緑	土台1式	粘土赤色粘子有り
49	土	胴部片	15.6	—	やや内湾する。	附加条第2種18-1が施文。	○	○	内面：10986/2 灰黄緑 外面：10984/2 灰黄緑	土台1式	
50	土	胴部片	17.2	—	やや内湾する。	附加条第1種18-1が施文。	○	○	内面：2, 5987/4に55-黄緑 外面：2, 5987/4に55-黄緑	土台1式	
51	土	胴部片	22.2	—	やや内湾する。	附加条第1種18-1が施文。	○	○	内面：2, 5986/4に55-黄緑 外面：2, 5984/1 黒灰	土台1式	
52	土	胴部片	42.7	φ3.8 (11.0)	外反して開く。 底部は直線的。	附加条第2種18-1が施文される。	○	○	内面：10987/4に55-黄緑 外面：10987/4に55-黄緑	土台1式	粘土砂線器人
53	土	胴部片	21.8	φ2.0 (9.9)	底部は平底で、胴部は外反して開く。	底部は砂目。胴部は附加条第2種18-1が施文。	○	○	内面：10987/3に55-黄緑 外面：10986/3に55-黄緑	土台1式	
54	土	胴部片	33.1	φ2.8 (14.0)	底部は平底で、胴部は外反して開く。	底部は砂目。胴部は附加条第2種18-1が施文。	○	○	内面：2, 597/3 灰黄 外面：10982/1 黒	土台1式	

第21表 弥生時代出土遺物観察表(2)

No.	器種	部位 残存	重さ	口径 底径	器形の特徴	彫形・文様の特徴	胎土		色調	時期	備考
							白色 胎	黒色 胎			
55	甗	底部分	16.3	φ2.3 (底.0)	—	底部は平底で、 胴部は流線的に 開く。	底部は布目。底部は附加条第2種LR-8 が羽状施文。	○	○	内面：10YR7/3 に近い黄緑 外面：10YR3/1 黒灰	十王台1式 底部粘土
56	甗	底部分	10.2	—	—	底部が布目。胴部は附加条第2種LR-1 が施文。	○	○	内面：10YR5/3 に近い黄緑 外面：10YR5/3 に近い黄緑	十王台1式	
57	甗	底部分	88.8	φ3.0 7.5	—	底部は平底で、 胴部は外反流線に 開く。	底部は布目。胴部は附加条第2種LR-8 が施文。	○	○	内面：10YR8/4 浅黄緑 外面：10YR3/1 黒灰	十王台1式
58	甗	底部分	23.4	—	—	胴部は附加条第2種LR-4 が施文。底部は 砂目。	○	○	内面：10YR1/1 黒灰 外面：10YR6/3 に近い黄緑	十王台1式	
59	甗	底部分	67.4	φ2.3 (11.0)	—	底部は平底で、 胴部は流線的に 開く。	底部に木葉痕が施され、胴部は附加条第1 種LR-4 が施文される。	○	○	内面：5YR6/6 橙 外面：10YR6/3 に近い黄緑	上稲古式 粘土赤色粒子 有り

第22表 古代出土遺物観察表(1)

No.	器種	大きさ	特徴	胎土	色調・焼成	備考
60	土師器 甗 口縁部	(16.8) (3.5)	口縁部ヨコナデ。体部外面ハケメ、 内面ハケメ。ナデ。	土師器A群	10YR6/4 に近い黄緑 やや硬質	調査2区出土。古墳時代前期
61	土師器 甗 口縁部	(17.0) (4.9)	口縁部ヨコナデ。体部外面ハケメ、 内面ハケメ。ナデ。	土師器A群	10YR6/4 に近い黄緑 やや硬質	調査2区出土。古墳時代前期
62	土師器 甗 底部	(2.3) 8.2	体部外面ヘラケズリ。内面・底部 ナデ。底部完周	土師器B群	外面：5YR6/4 に近い橙 内面：2.5 Y 8/2 灰白 硬質	調査2区出土。古墳時代前期
63	土師器 甗 底部	(2.7) 4.3	体部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 底部完周	土師器B群	内外：5YR6/8 橙 断面：7.5YR7/3 に近い橙 硬質	S005 覆土混入。古墳時代前期か
64	土師器 手づくね 土器	(5.6) 3.3 (5.5)	外面ヘラケズリ。内面木口状工具 によるナデ。底部ナデ	土師器A群	5YR6/6 橙 やや硬質	調査4区出土。古墳時代前期か
65	土師器 小壺 底部分	5.7 3.0	体部外面ナデ。ヘラケズリ。内面 ナデ。完周(脚端部は欠損)	土師器B群	内外：10YR8/4 浅黄緑 やや硬質	調査2区出土。古墳時代前期
66	土師器 小壺 底部分	(1.8) 3.3	体部外面ヘラケズリ。内面ナデ。 底部完周	土師器B群	外面～断面：2.5Y4/1 黄灰 内面：2.5YR2/2 灰白 良好	S005 覆土混入。古墳時代前期
67	土師器 壺	(11.0) (11.2)	口縁部ヨコナデ。体部外面ナデ。 ヘラミガキ。内面ナデ。	土師器B群	内外：2.5YR4/6 赤褐 良好	S004 覆土混入。古墳時代前期か
68	土師器 器台 脚部	(4.5)	脚部外面ヘラミガキ。内面ナデ。 完周(脚端部は欠損)	土師器B群	外：7.5YR/1 灰白 硬質	調査2区出土。古墳時代前期
69	土師器 器台 脚部	(5.7)	脚部外面ヘラミガキ。内面ナデ。 完周(脚端部は欠損)	土師器B群	10YR7/4 に近い黄緑 やや硬質	調査2区出土。古墳時代前期
70	土師器 柱状器台 脚部	(8.8)	脚部外面ナデ。ヘラケズリ。内面 ナデ。完周(脚端部は欠損)	土師器A群	10YR7/4 に近い黄緑 やや硬質	調査2区出土。古墳時代前期
71	土師器 柱状器台 脚部	(7.0)	脚部外面ヘラミガキ。内面ナデ。 完周(脚端部は欠損)	土師器A群	7.5YR7/4 に近い橙	S004 覆土混入。古墳時代前期
72	土師器 高坏 脚部	(9.4)	脚部外面ヘラミガキ。内面ナデ。 完周(脚端部は欠損)	土師器A群	外：10YR8/3 浅黄緑 内：5YR4/8 赤褐 やや硬質	S005 覆土混入。古墳時代前～中期
73	土師器 半球形坏	9.6 3.5	口縁部ヨコナデ。体部外面ヘラケ ズリ。内面ヘラミガキ。内外面赤 彩。完周	土師器A群、 細砂粒	赤彩の下は10YR8/1 灰白 やや硬質	S401 覆土混入。6世紀前～中葉頃
74	土師器 半球形坏	(12.0) 4.4	口縁部ヨコナデ。体部外面ヘラケ ズリ。内面ヘラミガキ。残存率 1/4	土師器B群	10R5/8 赤 やや軟質	S004 覆土混入。6世紀前～中葉頃
75	土師器 外反坏	(14.8) (4.0)	口縁部ヨコナデ。体部外面ヘラケ ズリ。内面ヘラミガキ。内外面赤 彩。残存率1/3	土師器A群、 細砂粒	10YR8/2 灰白 やや軟質	S001 覆土混入。6世紀前～中葉頃
76	土師器 外反坏	(16.0) 4.1	口縁部ヨコナデ。体部外面ヘラケ ズリ。内面ヘラミガキ。内外面黒 色処理。残存率1/4	土師器B群、 小磯	内外：黒色 やや軟質	S004 覆土混入。6世紀前～中葉頃

第23表 古代出土遺物観察表(2)

No.	器種	大きさ	特徴	粘土	色調・焼成	備考
77	土師器蓋 須恵器蓋 模印坯	11.4 (3.8) -	口縁部ヨコナデ。体部外面へラケズリ。内面へラミガキ。残存率1/4	土師器A群、 砂粒	5YR6/8 橙 やや軟質	S001 覆土混入。6世紀前～中葉頃
78	土師器 半球形杯	(14.4) 5.0 -	口縁部ヨコナデ。体部外面へラケズリ。内面へラミガキ。漆仕上げ。残存率1/4	土師器B群、 白色粒	内：内黒 外～断面：2.5Y6/3にぶい 黄 やや軟質	調査2区出土。6世紀中～後葉頃
79	土師器 半球形杯	(15.2) (4.1) -	口縁部ヨコナデ。体部外面へラケズリ。内面へラミガキ。漆仕上げ。残存率1/4	土師器B群、 白色粒、小礫	2.5Y4/4 オリーブ褐 断面：2.5Y2/1 黒 やや硬質	調査2区出土。7世紀前～中葉頃
80	土師器 半球形杯	(7.8) (4.6) -	口縁部ヨコナデ。体部外面へラケズリ。内面へラミガキ。残存率1/4	土師器B群、 赤色粒、長石	内：10YR6/2 灰黄褐 外：10YR7/3 にぶい黄橙 やや硬質	S006 覆土混入。7世紀前～中葉頃
81	土師器 外反鉢	(23.8) -	口縁部ヨコナデ。体部外面へラケズリ。内面へラミガキ。内外面黒色処理。残存率1/4	土師器A群	内：2.5Y7/3 浅黄 外：2.5Y7/3 浅黄 やや硬質	S005 覆土混入。6世紀中～後葉頃
82	ロクロ土 師器 半球形杯	13.2 4.1 6.3	ロクロ成形。内面へラミガキ。黒色処理。底部外面回転へ切り後、ナデ。残存率1/2	土師器C群	内：7.5YR2/1 黒 外：7.5YR7/4 にぶい橙 やや硬質	調査区表層。9世紀後葉～10世紀前葉頃
83	ロクロ土 師器 高台付壺	(17.2) 3.8 (11.8)	ロクロ成形。内外面へラミガキ。底部外面ナデ。残存率1/5	土師器A群	内：7.5YR6/4 にぶい橙 外：7.5YR2/8 浅黄橙 やや硬質	S002 覆土混入。9～10世紀
84	ロクロ土 師器 外反鉢	(1.5) (5.7)	ロクロ成形。底部外面回転赤切り未調整。底部完周	土師器A群	5YR8/3 浅橙 やや硬質	S005 覆土混入。9～10世紀
85	ロクロ土 師器 高台付杯	(2.7) -	ロクロ成形。底部外面回転赤切り旋回跡ナデ。高台陥り付。底部完周	土師器A群	内：7.5YR7/4 にぶい橙 外：7.5YR2/8 浅黄橙 やや硬質	S002 覆土混入。9～10世紀
86	ロクロ土 師器 高台付杯	(2.2) (7.0)	ロクロ成形。底部外面ナデ。外面黒色処理。底部完周	土師器B群	内：2.5Y7/2 灰黄 外：2.5Y3/1 黒 やや硬質	S002 覆土混入。9～10世紀
87	ロクロ土 師器 高台付杯	(2.0) (6.4)	ロクロ成形。内面へラミガキ。黒色処理。底部外面ナデ。残存率1/2	土師器B群	10YR8/1 灰白 硬質	S005 覆土混入。9～10世紀
88	土師器 鉢	(16.6) (7.2) -	口縁部ヨコナデ。体部外面へラケズリ。ナデ。内面ナデ。残存率1/4	土師器D群、 砂粒	5YR7/4 にぶい橙 やや軟質	S002 覆土混入。6～7世紀
89	土師器 常緑系壺	(18.2) (4.3) -	口縁部を直立的に積み上げる。口縁部ヨコナデ。体部外面ナデ。内面ナデ。残存率1/6	土師器B群	内：7.5YR7/6 橙 外：7.5YR8/4 浅黄橙 やや硬質	調査2区出土。9世紀中葉
90	土師器 壺	(24.5) (7.8) -	口縁部を短く外方に積み出す。口縁部ヨコナデ。体部外面ナデ。内面ナデ。残存率1/6	土師器C群、 砂粒	内：7.5YR6/4 にぶい橙 外：7.5YR8/4 浅黄橙 やや硬質	S002 覆土混入。9～10世紀
91	土師器 壺	(25.5) (13.5) -	口縁部ヨコナデ。体部外面へラケズリ。内面ナデ。残存率1/4	土師器D群、 砂粒、小礫	7.5YR8/4 浅黄橙 やや軟質	調査4区出土
92	土師器 甌	(5.4) (9.8) -	体部外面へラケズリ。内面へラミガキ。残存率1/6	土師器B群、 白色粒子	10YR6/4 にぶい橙 やや軟質	調査2区出土
93	土師器 壺	(6.8) 7.3	体部外面へラケズリ。内面へラナデ。残存率1/6	土師器B群、 輝石	2.5YR4/8 赤褐 やや軟質	S005 覆土混入
94	土製品 羽口	-	上端径5.2cm。下端径6.5cm。孔径2.2cm。残存高5.8cm	土師器D群、 砂粒多い	2.5YR4/6 赤褐 やや軟質	調査3区出土
95	鉄製品 鉄滓	-	最大幅3.8cm。厚み2.2cm	-	5YR6/3 にぶい橙	調査3区出土
96	須恵器 器台	- (4.2) -	ロクロ成形。外面に二条の沈線文。細かな柳葉き波状文を施す。残存率1/12以下	須恵器A群、 白色細粒	内：N4/ 灰 外：N5/2 灰 やや硬質	調査2区出土。産地不明。5～6世紀
97	須恵器 ハソウ	- (12.4) -	ロクロ成形。細部外面に二条の沈線文。体部の注ぎ口は欠損して痕跡のみ。ほぼ完形	須恵器A群、 白色細粒	N4/ 灰 やや硬質	調査1区出土。産地不明。7世紀
98	須恵器 蓋	- (1.5) -	ロクロ成形。リング状つまみを施す。天井部1/8	須恵器C群、 黒色細粒	N5/ 灰 やや硬質	調査2区出土。新治窯跡産か。8世紀
99	須恵器 蓋	- (4.6) -	ロクロ成形。扁平ボタン状つまみを施す。天井部1/4	須恵器A群、 白色粒子	7.5Y7/2 灰 やや硬質	調査1区出土。木葉下窯跡産か

第24表 古代出土遺物観察表(3)

No.	器種	大きさ	特徴	胎土	色調・焼成	備考
100	須恵器蓋	(4.6)	ロクロ成形。山形ボタン状つまみを施す。天井部1/2	須恵器A群、赤色粒子	10YR8/2 灰白 やや硬質	SD05 覆土混入。産地不明
101	須恵器壺	(4.6)	ロクロ成形。頸部に1条の波状文を2段施す。残存率1/12以下	須恵器A群、白色針状物質	10G5/1 緑灰 やや硬質	SD01 覆土混入。木葉下窯跡産
102	須恵器多口瓶	(2.2)	ロクロ成形。肩部に多口頸の取り付け痕跡あり。残存率1/12以下	須恵器B群	内：10Y7/1 灰白 外：10Y7/2 灰白 やや硬質	調査4区出土。産地不明。8～9世紀頃か
103	須恵器短頸壺	(262)(5.2)	ロクロ成形。口縁部が直立。口縁端部を外方に短く出す。残存率1/12以下	須恵器A群、細粒	SB4/1 暗青灰 やや硬質	SD01 覆土混入。産地不明
104	須恵器壺	(5.1)	ロクロ成形。肩部外面斜行叩き。残存率1/12以下	須恵器A群	N4/ やや硬質	SD05 覆土混入。産地不明
105	須恵器横瓶	-	残存長17.5cm。横幅13.4cm。外面カキメ。内面ナデ。残存率1/12以下	須恵器A群、白色針状物質	内：N5/ 外：N7/暗灰 やや硬質	調査4区出土。木葉下窯跡産か

第25表 中世出土遺物観察表(1)

No.	器種	大きさ	特徴	胎土	色調・焼成	備考
106	陶器(古瀬戸)鉄軸天目茶碗	(5.1)	口縁端部は欠損しているが、すっぽん口状を呈している。体部内外面に鉄軸を施す。体部外面下端鉄軸を施す。残存率1/8以下。	陶器B群	軸：黒褐色 硬質	調査3区出土。古瀬戸後IV期～大塚2段階
107	陶器(大塚)緑灰軸はきみ皿	(1.4)	ロクロ成形。全面に緑灰色軸を施す。削り込み高台。残存率2/3。	陶器B群	軸：緑灰色 素地：黄灰色	調査2区出土。大塚1～2段階
108	陶器(古瀬戸)灰軸直縁皿	(4.2)	ロクロ成形。口縁部内外面に灰軸を施す。残存率1/8以下。	陶器B群	軸：灰オリーブ 素地：浅黄色 やや硬質	SI02 覆土混入。古瀬戸後期
109	陶器(大塚)灰軸皿	?	ロクロ成形。内外面に灰軸を施す。内面にソコを施す。残存率1/12以下。	陶器B群	軸：暗灰色 素地：黄灰色	調査2区出土。大塚3～4段階
110	陶器(登り窯)鉄絵皿	(2.0)	ロクロ成形。内外面に暗灰色軸を施す。内面に鉄絵を描く。残存率1/12以下。	陶器B群	軸：暗灰色 素地：黄灰色 硬質	2区出土。美濃窯産または肥前窯産。連房1期または肥前1期
111	陶器(大塚)灰軸丸皿	(0.9)	ロクロ成形。底部回転糸切り未調態。内面に緑灰色軸を施す。残存率2/3。	陶器B群+黒色微粒	軸：緑灰色 素地：浅黄色	調査2区出土。大塚1～2段階
112	陶器(大塚)灰軸折縁鉄絵皿	(2.5)	ロクロ成形。口縁部～内部上位に灰軸を施す(内面下位は輪充)。なお、皿部内面に鉄絵を描く。残存率1/8。	陶器B群	軸：オリーブ色 素地：灰黄色 硬質	表採。美濃窯製品 大塚4段階
113	陶器(古瀬戸)灰軸水漬	(3.3)	ロクロ成形。外面に灰軸を施す。残存率1/12。	陶器B群	軸：淡オリーブ 素地：灰色 硬質	SI15 覆土混入。古瀬戸窯製品。中期～後期
114	陶器(古瀬戸)鉄軸水漬瓶	(3.8)	体部外面に鉄軸を施す。体部外面下端ならびに内面に素地。残存率1/8以下。	陶器B群	軸：黒褐色 素地：にぶい褐色 硬質	調査3区出土。古瀬戸後1～Ⅱ期頃か
115	陶器(大塚)緑灰軸大皿	(2.7)(9.4)	ロクロ成形。体部外面上位～内面に緑灰軸を施す。体部外面下端～底部は素地。底部回転糸切り後。周縁回転ヘラケズリ。残存率1/3。	陶器B群+黒色粒子	軸：オリーブ 素地：灰白色 硬質	調査3区出土。美濃窯製品か。大塚3～4段階
116	陶器(瀬美窯製品)広口壺カ	(3.6)	体部外面～底部外面ナデ。内面ナデ。所々に指頭痕残る。底部内面に自然軸が推かる(口縁部が広口の可能性あり)。残存率1/8。	陶器E群+黒色微粒、長石	内：5Y5/1 灰 外：5Y5/1 灰 やや硬質	調査1区出土。瀬美窯製品 常滑窯2～5型式併行
117	陶器(瀬美窯製品)壺	(7.8)	粘土紐巻き上り成形。体部外面木口状工具によるナデ。灰軸をハケ塗り。内面ナデ。残存率1/12以下。	陶器E群+黒色微粒、長石	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y6/1 黄灰 やや硬質	調査1区出土。瀬美窯製品
118	陶器(常滑窯製品)片口鉢	(7.2)	ロクロ成形。体部外面下端ケズリ。内面ナデ。残存率1/12以下。	陶器E群+長石、石英	内：2.5Y6/1 黄灰 外：2.5Y6/1 黄灰 やや硬質	調査3区出土。常滑窯製品

第26表 中世出土土物観察表(2)

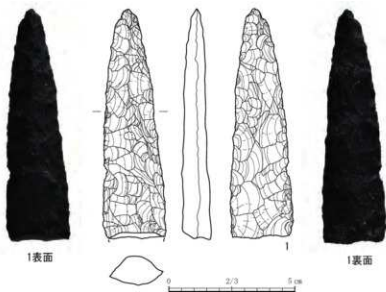
No.	器種	大きさ	特徴	粘土	色調・焼成	備考
119	陶器 壺 (常滑)	(5.1) (15.0)	粘土組織粗み成形。体部外面へウナデ。内面ナデ。底部砂目肌。残存率1/6。	陶器土群 + 白色小礫(長石)	内: 5YR4/2 灰褐色 外: 5YR5/2 灰褐色	調査区出土。常滑窯製品
120	瓦質土器 甕形鉢	(11.4)	ロクロ成形。内面7糸1組の襷目目を施す。外面へウナデ。残存率1/12以下。	瓦質土器B群	外: 2.5Y7/1 灰白 内: 2.5Y7/1 灰白	調査2区出土
121	瓦質火鉢 (在地産)	(3.9)	内面ロクロ成形。外面に陰帯を貼る。区画内はスタンプ文(四神文)を施す。残存率1/12以下。	瓦質土器B群	外: N4/0 灰 内: N4/0 灰	調査1区出土。立石型志氏分類・奈良火鉢浅鉢IV・Vの模倣品か
122	瓦質火鉢 (在地産)	(12.5) (4.6)	内外面ロクロナデ。体部外面にスタンプ文(菊花文)を施す。内面に窪付着。残存率1/8。	瓦質土器B群	外: 10YR6/3 に近い黄褐色 内: 10YR6/3 に近い黄褐色~6/1 褐色 やや硬質	調査1区出土。立石型志氏分類・奈良火鉢深皿皿の模倣品か
123	瓦質土器 内耳罐	(6.8)	口縁部ココナデ。内外面、内耳接合部分に指頭痕残る。残存率1/12以下。	瓦質土器	内: 5YR6/6 褐色 外: 5YR6/6 褐色	調査3区出土
124	瓦質土器 内耳罐	(5.7)	口縁部ココナデ。内耳接合部分に指頭痕残る。残存率1/8以下。	瓦質土器C群 + 礫石、黒色粒子	内: 7.5YR7/6 褐色 外: 5YR6/6 褐色 やや硬質	調査3区出土
125	瓦質土器 内耳罐	(5.3)	口縁部ココナデ。内外面、内耳接合部分に指頭痕残る。残存率1/12以下。	瓦質土器	内: 10YR7/3 に近い黄褐色 外: 10YR7/2 に近い黄褐色	調査3区出土
126	かわらけ 皿	(11.6) 3.0 5.8	ロクロ成形。底部外面ナデ。残存率2/3。	かわらけC群 + 金色雲母粒	内: 7.5YR6/6 褐色 外: 7.5YR7/6 褐色 やや軟質	SI05 覆土混入
127	かわらけ 皿	(11.6) 2.9 5.4	ロクロ成形。底部外面回転余切り後、緩いナデ(一方用)。	かわらけB群 + 金色雲母	内: 7.5YR6/4 に近い褐色 外: 7.5YR6/3 に近い褐色 やや硬質	調査1区出土
128	かわらけ 皿	(11.5) 3.3 5.6	ロクロ成形。底部外面回転余切り後、緩いナデ。残存率2/3。	かわらけC群 + 雲母粒子、石英粒	内: 7.5YR6/4 に近い褐色 外: 7.5YR6/3 に近い褐色 やや軟質	調査2区出土
129	かわらけ 皿	(11.2) (3.2) 4.9	ロクロ成形。底部外面回転余切り未調整。	かわらけB群 + 雲母粒子	内: 7.5YR7/2 明褐色 外: 7.5YR7/3 に近い褐色 やや硬質	調査2区出土
130	かわらけ 皿	(11.6) 3.2 (5.4)	ロクロ成形。底部外面回転余切り後、緩いナデ。残存率2/3。	かわらけB群 + 金色雲母	内: 10YR7/4 に近い黄褐色 外: 10YR7/3 に近い黄褐色 やや硬質	調査3区出土
131	かわらけ 皿	(10.7) 3.5 5.2	ロクロ成形。底部外面回転余切り後ナデ。残存率1/4。	かわらけB群	内: 7.5YR7/6 褐色 外: 5YR6/6 褐色 やや硬質	調査2区出土。口縁部の一部にタール(油煙)付着
132	かわらけ 皿	(2.3) 5.3	ロクロ成形。底部外面回転余切り未調整。底部完周。口縁部欠損。	かわらけB群 + 金色雲母、赤色粒子	内: 5YR7/3 に近い褐色 外: 5YR7/4 に近い褐色 やや硬質	調査2区出土
133	かわらけ 皿	(3.2) 5.5	ロクロ成形。底部外面回転余切り後ナデ。すのこ状庄痕。底部完周。	かわらけC群 + 白色粒子、礫石	内: 10YR7/4 に近い黄褐色 外: 10YR7/3 に近い黄褐色 やや硬質	調査3区出土。内外面に油煙(タール)・腐りゴレ付着
134	かわらけ 小皿	(7.5) 2.2 (4.7)	ロクロ成形。底部外面回転余切り後、一方用ナデ。残存率3/4。	かわらけB群 + 金色雲母、赤色粒子	内: 7.5YR7/6 褐色 外: 7.5YR7/8 黄褐色 やや硬質	調査3区出土。口縁部に油煙(タール)付着
135	かわらけ 小皿	7.4 2.0 4.5	ロクロ成形。底部外面ナデ。残存率5/6。	かわらけC群 + 雲母りゅうし、赤色粒子	内: 7.5YR7/6 褐色 外: 7.5YR7/3 に近い褐色 やや軟質	調査2区出土。口縁端部の一部にタール(油煙)付着
136	かわらけ 小皿	(8.5) 2.1 (5.4)	ロクロ成形。底部外面回転余切り後、一方用ナデ。残存率3/4。	かわらけB群 + 金色雲母、赤色粒子	内: 7.5YR7/6 に近い褐色 外: 7.5YR7/8 に近い褐色 やや硬質	調査2区出土
137	宝篋印塔 相輪部 破片	-	宝珠・蓮花。伏鉢部分を欠く。残存長24.5cm、径11.6cm	-	2.5G7/1 明オリブ灰	調査2区出土
138	宝篋印塔 相輪部 破片	-	宝珠・蓮花。伏鉢部分を欠く。残存長20.4cm、径9.2cm	-	2.5G7/1 明オリブ灰	調査2区出土
139	紙石	-	残存長14.8cm、幅6.4cm、厚み4.5cm	-	深緑色	調査2区出土
140	宝篋印塔 笠部破片	-	隅飾り突起の破片と思われる。突起長7.1cm以上	-	2.5G7/1 明オリブ灰	調査2区出土

第27表 近世・近代出土遺物観察表(1)

品名	器種	大きさ	特徴	出土	色調・焼成	備考
141	磁器 染付皿	(2.3)	型押し成形、口縁部輪花状。外面は草花文、内面唐草状の草花文。残存率1/12以下	磁器A群	染付：明青色 硬質	調査3区出土。肥前IV期か
142	磁器 染付丸碗	(2.2) 3.6	外面文様不明(欠損)。直線文。底部内面みずれた弁弁花文。底部完周	磁器B群	染付：淡藍色 硬質	調査1区出土。地方産(広義の肥前系)。肥前IV-2期併行
143	磁器 染付丸碗	(4.5)	外面縦二重線文。屈曲文(細葉揃き)。内面無文。残存率1/8以下	磁器B群	染付：青色 硬質	表土一括。19世紀後半頃
144	磁器 染付皿	(9.0) 2.8	外面文様不明(欠損)。直線文。底部内面みじん唐草文。幾何学文。残存率1/2	磁器A群	染付：濃藍色 硬質	合成兵須使用。SD02 覆土直入。19世紀後半頃
145	陶器 鉄絵土瓶	(12.6) (4.5)	外面植物文(笹・竹)。内面無文。完形(蓋は欠損)	陶器A群	釉：白色釉、鉄釉(黒色釉) 素地：淡黄色 硬質	笠間・益子系土瓶。調査1区出土。19世紀後半頃
146	磁器 赤絵丸碗	(5.2)	外面亀甲文。直線文(型紙摺り)。内面無文。残存率1/4	磁器A群	染付：赤色 硬質	調査2区出土。19世紀頃
147	磁器 染付丸碗	(3.3)	外面網目文(下絵付・上絵付とも)。内面無文。残存率1/8以下	磁器A群	染付：淡藍色(下絵)、濃藍色(上絵) 硬質	表土一括。20世紀前半頃か
148	磁器 染付丸碗	8.2 4.6 3.2	外面連続草花文(転写版)。内面無文。残存率1/2	磁器A群	染付：淡青色 硬質	表土一括。20世紀前半頃
149	磁器 染付小皿	(9.4) 2.3 (5.5)	外面直線文。内面動物文。残存率1/4	磁器A群	染付：藍色・淡藍色 硬質	調査1区出土。20世紀前半頃か
150	磁器 分電盤蓋		直軸8.2cm、短軸6.1cm、厚み0.9cm。(特許 高周波 10.A 250.V)の刻印	磁器A群	釉：緑釉(茶色釉) 素地：白色 硬質	調査2区出土。名古屋・高岡式スイッチ製作所製造品。大正6年~昭和10年頃
151	磁器 筒形碗	(6.0) (4.3)	外面草花文(イッチン装飾)。内面無文。残存率1/4	磁器A群	染付：褐色、緑色、白色(上絵付け) 硬質	2表土一括。20世紀
152	磁器 小坏	5.3 5.2 2.1	外面草花文。内面無文。見込み面に「銘酒 梅泉」銘あり。完形	磁器A群	染付：淡青色 硬質	表土一括。20世紀
153	磁器 筒形碗	(6.0) (4.3)	外面は草花文(型押し成形)。内面無文。残存率1/3	磁器A群	外面：淡緑色釉(クロム青磁) 内面：透明釉 硬質	表土一括。20世紀前半頃
154	磁器 色絵急須		外面植物文。内面無文。底部完周。体部残存率1/4	磁器A群	外面：青色、淡赤紫色、淡緑色釉(クロム青磁) 内面：透明釉 硬質	表土一括。20世紀前半頃か
155	磁器 染付丸碗	(7.5) 5.2 2.3	外面植物文、唐草文。内面無文。底部完周。体部残存率1/4	磁器A群	染付：濃藍色、赤褐色(上絵付け) 硬質	表土一括。20世紀前半頃か
156	磁器 色絵染付丸碗	(6.0) (4.3)	外面草花文。内面無文。残存率1/4	磁器A群	染付：濃藍色、灰赤色(上絵付け) 硬質	20世紀前半頃か
157	磁器 染付丸碗	(4.1) 2.4	外面植物文。内面無文。底部完周。体部残存率1/6	磁器A群	染付：藍色、緑色(上絵付け) 硬質	調査1区表探。20世紀
158	磁器 染付丸碗	7.5 5.2 3.1	外面果樹植物文。内面無文。底部完周。体部残存率1/4	磁器A群	染付：藍色、緑色・淡褐色(上絵付け) 硬質	表土一括。20世紀
159	磁器 染付丸碗	(7.8) (4.6)	外面果樹植物文。内面無文。残存率1/4	磁器A群	染付：藍色、緑色(上絵付け) 硬質	表土一括。20世紀
160	石製品 硯		残存長14.6cm、幅6.2cm、厚み2.0cm		SG3/暗緑灰	調査3区出土。時期不明
161	陶器 土管		接合部口径18.8cm。土管の本体径13.2cm。残存長21.6cm	白色粘土、白色小礫	釉薬：10R1.7/黒 素地：10R4/6赤 硬質	表土一括。19~20世紀
162	瓦 軒棧瓦 (軒丸部)		直軸7.6cm、厚み2.0cm。軒先先端は無文。軒裏に丸瓦部との接合痕(カキヤブリ痕)あり	細砂灰	N3/暗灰 硬質	調査4区出土。19世紀か

第 28 表 近世・近代出土遺物觀察表 (2)

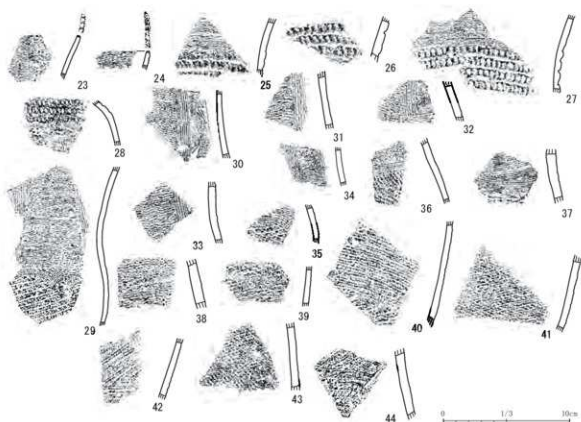
No.	器種	大きさ	特徴	胎土	色調・焼成	備考
163	瓦 丸瓦		残存長 13.7 cm, 残存幅 10.2 cm, 厚み 2.1 cm	白色砂粒	1075/ 灰 硬質	SD05 覆土混入, 19 世紀♾
164	瓦 棧瓦 (平瓦部)		残存長 13.7 cm, 残存幅 16.5 cm, 厚み 2.0 cm	黒色砂粒, 白色砂粒	N3/ 暗灰 硬質	SD05 覆土混入, 19 世紀♾
165	瓦 平瓦		残存長 9.2 cm, 残存幅 9.6 cm, 厚 み 1.8 cm	黒色砂粒, 白色砂粒	N5/ 灰 硬質	SD02 覆土混入, 19 世紀♾
166	瓦 31→3瓦		残存長 9.8 cm, 残存幅 9.3 cm, 厚 み 1.7 cm	黒色砂粒, 白色砂粒	S17/1 灰 全く硬質	表土一括, 20 世紀



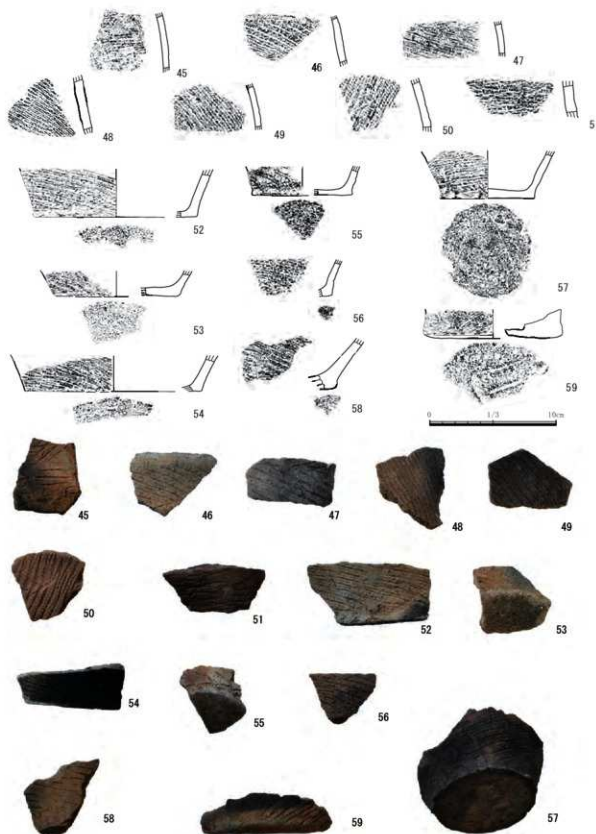
第 42 図 遺構外出土旧石器時代遺物



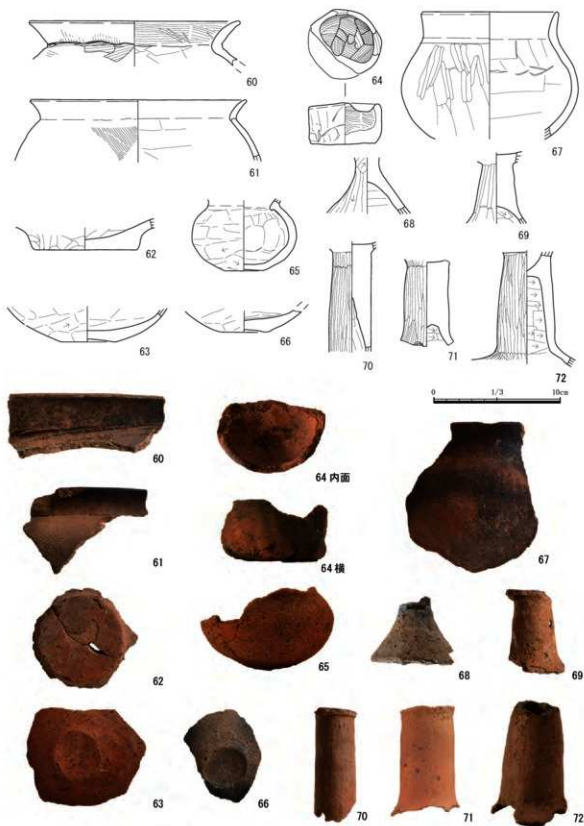
第 43 図 遺構外出土縄文時代遺物



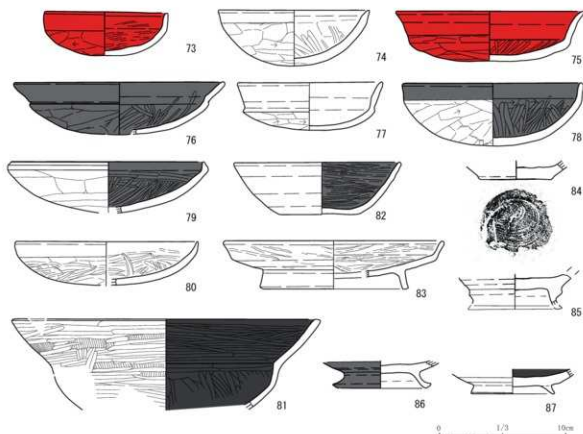
第44図 道橋外出土弥生時代遺物(1)



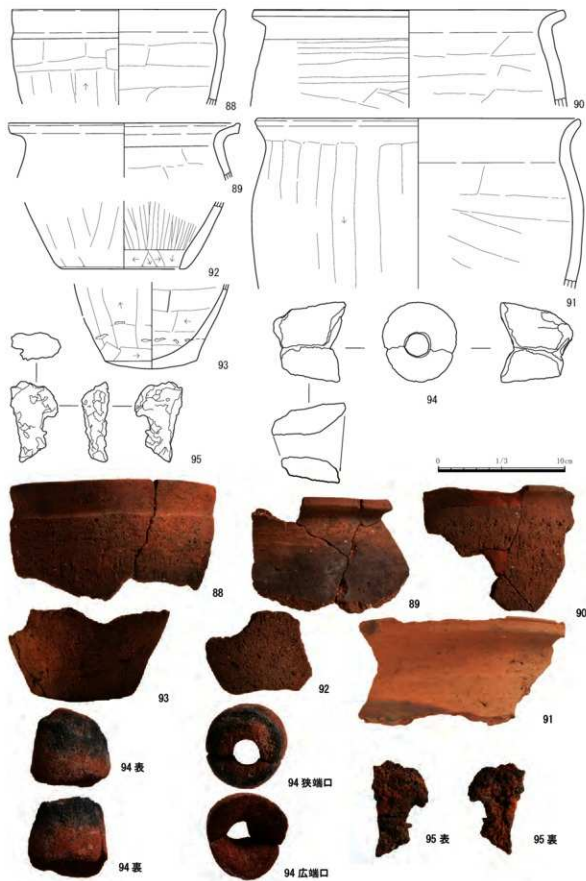
第45図 遺構外出土弥生時代遺物(2)



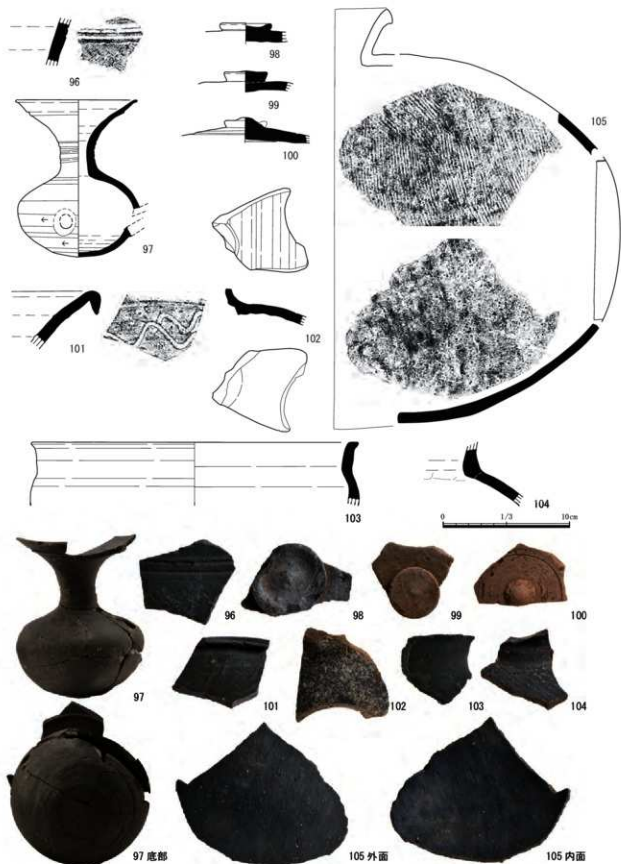
第46图 道構外出土古代遺物(1)



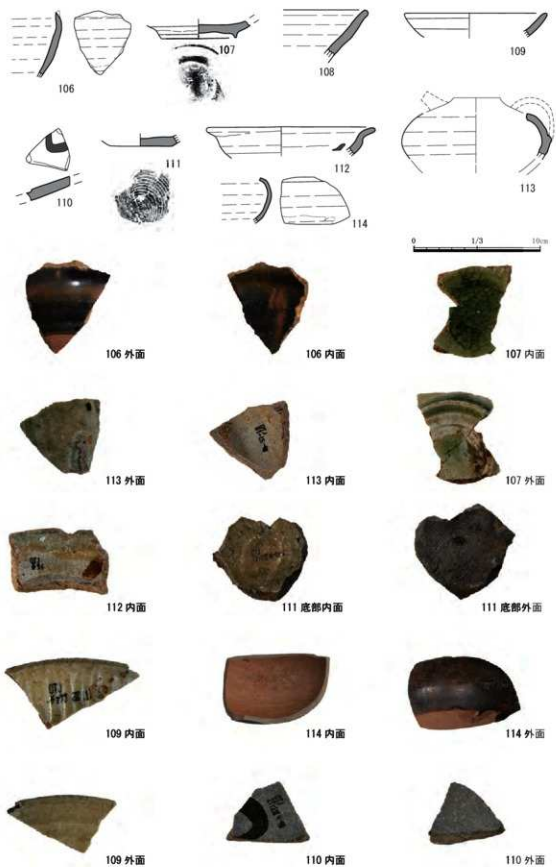
第 47 図 遺構外出土古代遺物 (2)



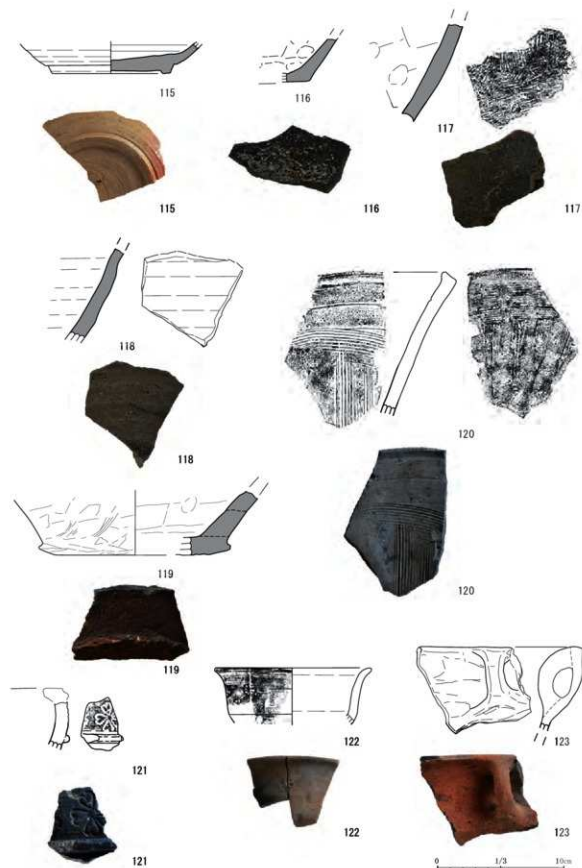
第48图 道槽外出土古代遗物(3)



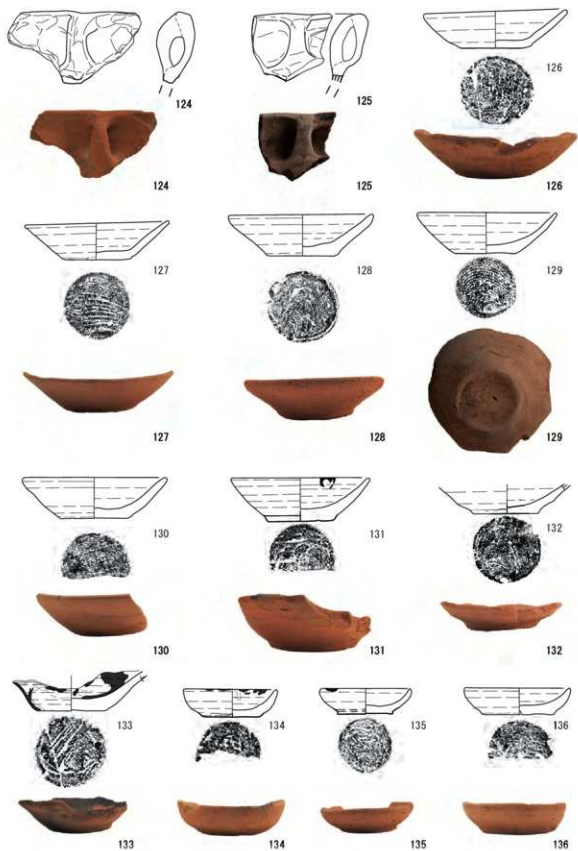
第 49 图 造槽外出土古代遗物 (4)



第 50 图 遗構外出土中世遺物 (1)



第51图 遺構外出土中世遺物(2)



第 52 図 遺構外出土中世遺物 (3)



第 53 図 遺構外出土中世遺物 (4)



第54図 遺構外出土近代・現代遺物

第5章 まとめ

第1節 古代の遺構・遺物について

〔1〕土器群の位置付け

ここでは従来の土器編年に照らし合わせて今回調査で出土した古墳時代～古代の土器の位置付けをはかってみたい。

古墳時代前期・中期

遺構外-60・61は単口縁のハケメ調整土師器甕破片である。同65・66は小型壺、同68・69は器台、同70・71は柱状器台の脚部破片である。いずれも古墳時代前期に位置付けられる。

遺構外-72は脚部の中程が膨らむ高坏破片で古墳時代中期と思われる。なお遺構外-96は細かな波状文を多段に施す須恵器器台・皿部分であることから陶邑編年・TK208～23・47併行期〔5世紀後半〕に比定できよう。

古墳時代後期～終末期

まず、遺構外-73は内外面に赤彩された半球形坏、同75は体部の境界に稜線が設けられた赤彩坏である。いずれも6世紀前～中葉頃であろう。

次に、SI-02・3、SI-04・2～4は漆仕上げ（内面ヘラミガキまたはナデ）を施す丸底坏である。SI-04・2が体部の境界に稜線が明瞭な須恵器散坏であること、共存している土師器甕〔SI-02・6,7〕の最大径が口縁部と同大であること、から6世紀中葉に位置付けられよう。

第三に、SI-13・1は口縁部が短く直立する半球形坏である。また、遺構外-79・80も口縁端部が短く立ち上がる半球形坏である。いずれも簡単な漆仕上げであることから7世紀前～中葉頃に位置付けておきたい。SI-01・1は陶邑編年・TK 209～217併行期〔7世紀中葉〕の北関東系須恵器蓋に比定できる。遺構外-97は体部装飾文様を喪失した須恵器ハソウであることから、やはり陶邑編年・TK209～217併行期頃に比定できよう。さらに、口縁部が短く直立する遺構外-103も類似品が陶邑編年・TK209～46型式に存在することから、その頃に比定できるのではなかろうか。

古代

遺構外-98は新治窯跡産のリング状つまみ蓋破片で、栗山窯～一町田窯段階〔7世紀末から8世紀初頭〕に位置付けられる。また、遺構外-99は扁平ボタン状つまみ、同・100は山形ボタン状つまみであることから、二つとも8世紀代と考えられる。遺構外-102は多口瓶である。三彩小型多口瓶（奈良県・薬師寺西僧坊出土）や猿投窯産・須恵器多口瓶（愛知県・黒笹36号窯跡出土）などが類品と想定できることから8世紀頃に捉えておく。

遺構外-89は口縁端部を直立的に積み上げる常総系土師器甕であることから大賀2013分類・整形③、器形C類〔8世紀末～9世紀代〕、吉田1998分類・3～4類〔9世紀第2～3四半期〕、樫

村 1998 編年・6～7 期〔9 世紀前半～後半〕に比定できよう。

遺構外-101 は頭部に 1 条のヘラ描き波状沈線文を施す須恵器大甕である。栃木県・篠倉窯跡（益子窯跡群の原・山本支群に所在。9 世紀第 2～3 四半期頃の操業）などで一定量生産されている。本期の傍証資料となり得よう

遺構外-82・86・87 は黒色処理を施すロクロ土師器であることから 9～10 世紀頃に、同・84, 85 は器面未処理のロクロ土師器坏であることから 10 世紀中葉以降に考えられよう。

〔2〕 竪穴建物跡の位置付け

次に、土器群の位置付けを基礎に、各遺構の帰属時期について整理すると以下のようになる。

古墳時代前期・中期

今回調査区では、古墳時代前～中期の遺構は発見されていないが、遺構外-60～72, 96 といった土器群が出土している。2020 年度発掘調査区で当該期の竪穴建物跡が検出されていることから調査区外に古墳時代前～中期の遺構が存在する可能性はあろう。

古墳時代後期～終末期

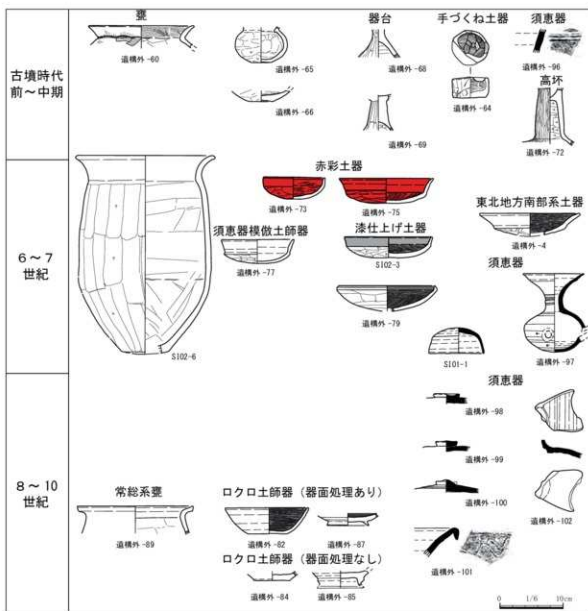
6 世紀前～中葉 6 世紀中葉以前と推定される竪穴建物跡として SI14 がある。また 6 世紀中葉の竪穴建物跡として SI02・04 がある（2020 年度発掘調査区でも当該期の竪穴建物跡は検出されている）。

6 世紀中葉～7 世紀 6 世紀中葉以降の竪穴建物跡として SI05 がある。また 6～7 世紀頃の竪穴建物跡として SI06、7 世紀前～中葉の竪穴建物跡として SI01・13 がある（2020 年度発掘調査区でも当該期の竪穴建物跡は検出されている）。

8 世紀～9 世紀 今回調査区では、8 世紀の遺構は発見されていないが、遺構外-98～102 といった須恵器が出土している。調査区外に当該期の遺構が存在する可能性はあろう（2020 年度発掘調査区でも当該期の竪穴建物跡は検出されている）。

9 世紀の竪穴建物跡としては SI07・11 がある。なお遺構外出土遺物中で 10 世紀の遺物が出土している。調査区外に当該期の遺構が存在する可能性はあろう（2020 年度発掘調査区でも当該期の竪穴建物跡は検出されている）。

以上を要約すると第 55 図・第 29 表のようになる



第 55 図 古代土器編年図

第 29 表 古代の調査成果要約

	2020年調査成果	今回発見の遺構	今回出土の遺構外遺物
旧石器～縄文時代	なし	なし	遺構外-1～22
弥生時代後期	18号住	なし	遺構外-23～59
古墳時代前期	76・77号住	なし	遺構外-60～71
古墳時代中期	73号住→29号住→5号住など	なし	遺構外-72, 96
6世紀前～中葉	41号住→11号住など	SI02・04	遺構外-73～77
6世紀後葉	15・16・39号住など	SI05	遺構外-78～81
7世紀	81号住→64号住→89号住など	SI01・06・13	遺構外-79, 80, 97, 103
8世紀	60号住→50号住など	なし	遺構外-98～100, 102
9世紀	46号住→54号住→57号住など	SI07・11	遺構外-82, 83, 86, 87, 89, 101
10世紀	68号住	なし	遺構外-84, 85

第2節 中世の遺物

(1) 陶磁器について

① 貿易陶磁器

年代 実測図掲載資料をまとめると次のように比定できる。

器種名・年代	遺物No.
青磁酒会壺（龍泉窯系製品）(14c)	SD05・1
青白磁瓶子（梅瓶）(14c)	SD05・2
青磁稜花皿（15～16c）	SD05・3
白磁皿（15～16c）森田分類・白磁E2類	SD05・4,5
褐色釉陶器壺	SD01・2
陶胎染付皿（漳州窯系製品）(16c)	SD01・1
染付（青花）皿（15～16c）	SD02B・1
染付碗（15～16c）小野分類・染付碗E群	SD05・6

出土傾向について 14世紀の実測個体は2点。いずれも調査1区(SD05)からの出土である。15～16世紀の実測個体は6点。調査1区(SD05)、調査3区(SD02B)、調査4区(SD01)で出土している。

② 古瀬戸窯製品

年代 実測図掲載資料をまとめると次のように比定できる。

器種名・年代	遺物No.
古瀬戸中期（13c末葉～14c中葉）	瓶子 SD05・17
古瀬戸中Ⅲ期～後Ⅱ期（14c中葉～15c前葉）	花瓶 SD06・1
古瀬戸後Ⅰ～Ⅲ期（14中葉～15c中葉）	鉄釉水滴 遺構外-114
古瀬戸中～後期（13c末葉～15c後葉）	鉄釉壺・瓶類 SD02A・1
	鉄釉壺・瓶類 SD05・18
	灰釉水滴 遺構外-113
古瀬戸後期（14c末葉～15c後葉）	皿類 SD04・2
	直縁皿 遺構外-108
古瀬戸後Ⅳ期～大窯2段階（15c中葉～16c中葉）	天目碗 遺構外-106

出土傾向について 実測個体は7点。調査2区(SD04・2、遺構外-107,109,114)、調査3区(SD06・1、遺構外-115)、調査4区(SD01)で出土している。

③大窯期～登り窯期初期製品

年代 実測図掲載資料をまとめると次のように比定できる。

器種名・年代	遺物No.
大窯段階(1480頃～1610頃)	丸皿 SD05・8
大窯第1～2段階(1480頃～1560頃)	丸皿 SD01・3 丸皿 SD02A・2,3 皿類 SD05・7,9,11 丸碗 SD05・12 はさみ皿 遺構外-107
大窯第2段階後半(1545頃～1560頃)	丸皿 SD05・10
大窯第3～4段階(1560頃～1610頃)	皿類 遺構外-115
大窯第3段階(1560頃～1590頃)	天目碗 SD01・4 折縁皿 SD04・1
大窯第4段階(1590頃～1610頃)	折縁内ソギ皿 SD05・13
大窯第4段階後半～末(1595頃～1610頃)	志野丸皿 SD05・14
大窯第4段階末(1600頃～1610頃)	折縁鉄絵皿 遺構外-112
連房1期または肥前1期(1590頃～1610頃)	鉄絵皿 遺構外-110

出土傾向について 大窯第1～2段階の実測個体は10点。調査1区(SD05・7～12)、調査3区(SD02A・2,3)、調査4区(SD01・3)で出土している。

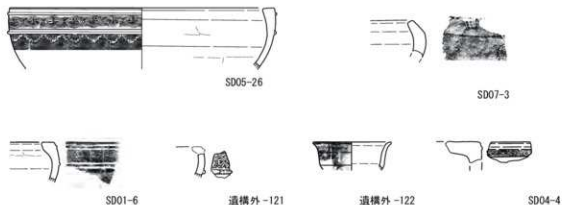
大窯第3～4段階の実測個体は5点。調査1区(SD05・13,14)、調査2区(SD04・1)、調査4区(SD01・4)で出土している。

④須恵系陶器・瓷器系陶器

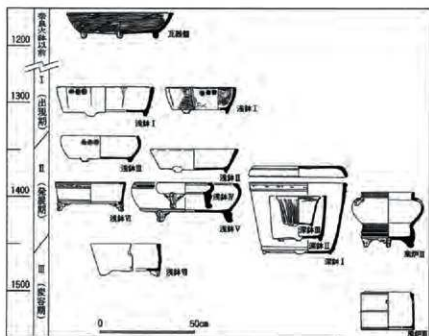
年代 実測図掲載資料のうち産地・暦年代比定ができたものをまとめると次のように比定できる。

器種名・年代	遺物No.
渥美窯製品	
常滑2～5型式併行(12c後半～13c前半)	広口壺 遺構外-116
渥美窯または常滑窯製品	
常滑2～5型式併行(12c後半～13c前半)	へら描き沈線文壺 SD05・19
常滑窯製品	
常滑5型式(1220～1250年)以前	片口鉢 SD05・20
常滑5～8型式(1220～1400年)	片口鉢 SD05・21
常滑9～10型式(1400～1500年)	甕 SD05・24,25
瀬戸窯製品か	
尾張型山茶碗4～6型式(1110～1260年頃)	片口鉢 SD01・5

出土傾向について 実測個体のほとんどが調査1区(SD05・20212425)、調査4区(SD01・21)で出土している。



今回調査出土の瓦質火鉢 (S=1/6)



奈良火鉢編年図 (S=1/20) (立石 1995 文献)

第 56 図 瓦質火鉢関係

A類		B類		C類		D類	
A1	白第4号地下式坑	村第31号建物跡		C1	小第3号堀跡	白第508号土坑	
A2	村第487号土坑	村第6号建物跡		C2	小第24A号溝	穴第2号池跡	
A3	村第18号建物跡					村第69号建物跡	
E類		F類					
E1	白第5号堀	E2	村第14号建物跡	村第6号建物跡		村第69号建物跡	
E3	村第34号建物跡	E4	村第31号建物跡	小第1号堀跡		村第83号建物跡	

白→白石遺跡 村→村松白根遺跡 小→小幡城 穴→穴戸城跡

表 かわらけ型式分類一覧

	底形	側形	調整	粘土
A類	A1		①	褐色または黄褐色。金雲母を含む。海綿骨針、赤色粒子を含むものあり。
	A2	ロクロ成形。右回転糸切り。板目状圧痕をもつものあり。	②	
	A3		③	
B類	B	ロクロ成形。右回転糸切り。板目状圧痕をもつものあり。	④	褐色。金雲母含む。海綿骨針、赤色粒子を含むものあり。
C類	C1	ロクロ成形。右回転糸切り。板目状圧痕をもつものあり。	⑤	
C2		⑦		
D類	D	ロクロ成形。右回転糸切り。板目状圧痕をもつものあり。	⑥・⑦	褐色。金雲母含む。海綿骨針、赤色粒子を含むものあり。
E類	E1		①	
	E2	ロクロ成形。右回転糸切り。板目状圧痕をもつものあり。	④・⑤	
	E3			
	E4		⑧	
F類	F	ロクロ成形。右回転糸切り。板目状圧痕をもつものあり。	⑥～⑩	褐色。金雲母含む。海綿骨針、赤色粒子を含むものあり。

内底面調整痕

①底部内径が狭い、同心円状にナデ調整痕、横方向にナデる。

②底部内径が狭い、見込み周縁部をナデる。底面中央部が突出。

③何處もヨコナデする。

④幅広い渦巻状にナデた後、横方向にナデる。

⑤底部内径が狭い、見込み周縁部を沈線状にナデる。

⑥幅広い渦巻状にナデた後、横方向にナデる。

⑦幅広い渦巻状にナデる。

⑧渦巻状にナデた後、見込み外周部をナデる。

〔2〕瓦質土器(火鉢,内耳鍋)について

SD05・26、SD01・6、遺構外-121の体部は内境、口縁端部を内側に浅く折り曲げている。また外面には二条の突帯を貼り、その上下などにスタンプ文を施す。SD05・26は奈良火鉢・浅鉢Ⅴそのもの、SD01・6、遺構外-121は奈良火鉢・浅鉢Ⅴを模倣した在地産瓦質火鉢と考えられる。なお、浅鉢Ⅴは14世紀後葉頃に出現し、15世紀後半にピークに達する。

SD07・3も口縁端部を内側に浅く折り曲げるが、外面突帯を施していない(体部外面にスタンプ文を施す)。奈良火鉢・浅鉢Ⅲを模倣した在地産瓦質火鉢であろう。ちなみに、浅鉢Ⅲは14世紀中頃に位置付けられており、SD07・3も、おおむねこの時期であろう。

SD04・4は口縁部が、内側に水平に折れ曲がる。また外面には二条の突帯を貼り、その間にスタンプ文を施している。奈良火鉢・浅鉢Ⅵを模倣した在地産瓦質火鉢と思われる。ちなみに、浅鉢Ⅵは14世紀後葉頃に出現し、15世紀後半にピークに達する。

遺構外-122は口縁部が朝顔状に外反し、体部外面にスタンプ文を施すことから、奈良火鉢・深鉢Ⅲを模倣した在地産瓦質火鉢と考えられる。なお、深鉢は14世紀中頃に出現し、16世紀後にピークに達する(以上、立石1995, 441～443頁)。

SD05・27は内耳鍋である。器高5.8cm以上と深いことから服部1997編年・小泉館段階～鹿島城段階=15世紀頃に捉えておきたい。

〔3〕かわらけについて

田口2011文献では第57図のように、かわらけを器形分類している。これをもとに今回調査区出土かわらけを照合してみると次のようになる。

第30表 今回出土かわらけ分類表

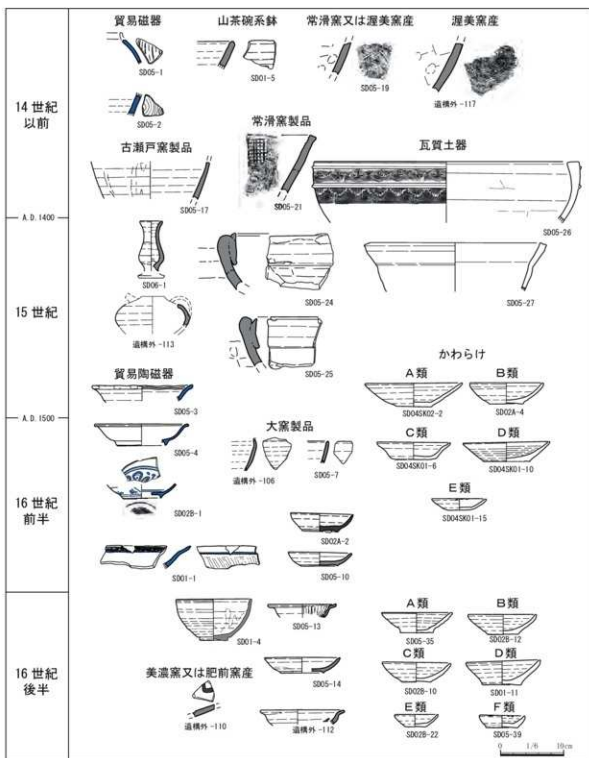
	SD01	SD02A	SD02B	SD04SK01	SD04SK02	SD05
田口2011分類A類(15c中葉～16c後葉)					1～4	32, 35
田口2011分類B類(15c後葉～16c後葉)		4	9, 11, 12		5～9	
			10, 15, 16	6		(33)
田口2011分類D類(16c中葉～17c前葉)	9～14	5, 6	14, 17		10～14	34
田口2011分類E類(15c前葉～16c中葉)		(8), 9	19, 20, 22, 27	(8, 9)	15～19	
田口2011分類F類(16c中葉～17c前葉)	15～22	10～13	18, 21, 23～26			36～42

※SD03・04・06・07は器形照合可能な、かわらけが出土していない

〔小結〕以上を整理すると、第58図ならびに次のようになる。

14世紀以前 少量ながら、青磁[SD05・1]、青白磁[SD05・2]、山茶碗系片口鉢[SD01・5]、渥美窯産または常滑窯産製品のヘラ描き沈線文壺[SD05・19]、渥美窯産製品[遺構外-117]、常滑窯5～8型式鉢[SD05・21]、古瀬戸中期様式製品[SD05・17]が認められる。

15世紀 古瀬戸中Ⅱ～後Ⅱ期の灰釉花瓶[SD06・1]、常滑窯9～10型式甕[SD05・24, 25]、大和産と考えられる火鉢[SD05・26]が認められる。なお、貿易磁器[SD05・3, 4, SD02B・1]は15～16世紀頃に位置付けられよう。



第 58 図 中世土器編年図

16世紀前半 古瀬戸後Ⅳ期～大窯第2段階頃の天目碗小片〔遺構外-106, SD05・7〕、大窯第1～2段階の碗皿〔SD02A・2, SD05・10など〕が認められる。なお、漳州窯系陶胎染付皿〔SD01・1〕は16世紀代に位置付けられよう。

16世紀後半 大窯第3段階の天目碗〔SD01・4〕、大窯第3～4段階の折縁内ソギ皿〔SD05・13〕、大窯第4段階（後半～末）の志野様式皿〔SD05・14〕、大窯第4段階（末）の鉄絵皿〔遺構外-110, 112〕、かわらけF類が認められる。

〔4〕中世の遺構について

1号堀跡（SD01）は調査4区において検出された。中～下層の覆土は埋め戻し土である。この堀跡最下層から大窯第3段階（1560頃～1590頃）の天目碗〔SD01・4〕や、かわらけF類（16世紀中葉～17世紀前葉）〔SD01・15など〕が出土している。このことから、遺構の機能停止時期を16世紀末葉頃、ひいては堀として機能していた時期を16世紀後葉以前に想定できそうである。

2号堀跡（SD02B, SD05）は調査1・3区において検出された。この堀も中～下層の覆土は埋め戻し土である。この堀跡中～下層から大窯第4段階末（1590頃～1610頃）の折縁内ソギ皿〔SD05・13〕、志野丸皿〔SD05・14〕、かわらけF類（16世紀中葉～17世紀前葉）〔SD02B・24, SD05・36など〕が出土している。このことから、遺構の機能停止時期を16世紀末葉～17世紀初頭頃、ひいては堀として機能していた時期を16世紀後半以前に推定してみたい。

なお、2号堀（SD02B, SD05）以前に浅い堀（SD02A）の存在が明らかになっている。このSD02A覆土から大窯第1～2段階（1480頃～1560頃）の丸皿〔SD02A・2, 3〕、かわらけF類（16世紀中葉～17世紀前葉）〔SD02A・10など〕が出土している。このことから、遺構の機能停止時期を16世紀中葉頃、ひいては堀として機能していた時期を16世紀前半代と捉えてみたい。

4号堀跡（SD04）は調査2区において検出された。この堀も覆土下層は埋め戻し土、中層以上に造成基盤層が認められる。この堀跡下層から大窯第3段階（1560頃～1580頃）の折縁皿〔SD04・1〕が出土している。このことから、遺構の機能停止時期を16世紀末葉～17世紀初頭頃、ひいては堀として機能していた時期を16世紀後半以前に推定してみたい。

なお、4号堀以前の土坑としてSD04SK01、SD04SK02がある。両遺構とも、かわらけF類が出土していない。このことから遺構埋没は16世紀中葉以前として考えたい。

3号堀跡（SD03）は調査3区、2号堀跡の西側で検出された。この堀の覆土下層は埋め戻し土だが出土土器はなく、遺構の機能停止時期、堀としての機能時期は不明である。

6号溝跡（SD06）は調査3区、2号堀跡と3号堀跡間に2号堀跡と併行して走る溝跡である。なお、この堀の覆土中から古瀬戸中Ⅲ期～後Ⅱ期（14c中葉～15c前葉）の花瓶〔SD06・1〕が出土しているが、このほかに相伴土器がない。それゆえ、遺構の機能停止時期、堀としての機能時期は不明としたい。

7号溝跡（SD07）は4号堀に向かって流れ込む溝跡である。覆土下層は埋め戻し土であるが出土土器がなく、遺構の機能停止時期、堀としての機能時期は不明である。

8号溝跡（SD08）は1号堀と2号堀の接する付近で確認された溝跡である。土層断面観察に留まるうえ、出土土器がないため時期不明である。

〔小結〕以上、述べてきたことを整理すると次のようにまとめられよう。

16世紀前半 2号堀跡 (SD02A), SD04SK01, SD04SK02

16世紀後半 1号堀跡 (SD01), 2号堀跡 (SD02B SD05), 4号堀跡 (SD04)

時期不明 3号堀跡 (SD03), 6号溝跡 (SD06), 7号溝跡 (SD07), 8号溝跡 (SD08)
SD05SK01, SD05SK02

〔5〕中世の遺構・遺物の歴史的的位置付け

14世紀以前

i) 清和源氏義光流の佐竹氏が太田城を築いたのは1109(天仁2)年のこととされる(奥州藤原氏や常陸平氏と関係を経て勢力を拡大)。一方、治承・寿永の乱～奥州合戦[1180～1189年]で、佐竹氏は平氏方に与したため、合戦終結後、源頼朝によって所領の多くは没収され低迷期を迎えた。なお、当該期の遺構は、今回発掘調査区では確認されていない。遺物も山茶碗系片口鉢[SD01・5]、渥美窯産または常滑窯産製品のヘラ描き沈線文壺[SD05・19]、渥美窯産製品[遺構外-116, 117]、などごく微量しかない。

ii) 13～14世紀、北条得宗家や、足利尊氏らに通じることで、佐竹氏は勢力を復活させている(1135年には常陸国守護職を獲得)。また、鎌倉公方によって関東八館(宇都宮・小田・小山・佐竹・千葉・長沼・那須・結城の八氏に与えられた称号)に定められてもいる。当該期の遺構は、今回発掘調査区では確認されていない。だが、遺物では常滑窯5～8型式鉢[SD05・21]、古瀬戸中期様式製品[SD05・17など]が出土している。今後の成果に期したい。

15世紀

1408(応永14)年、関東管領・山内上杉憲定の二男龍保丸(のち佐竹義憲)が佐竹氏の家督を相続したことを契機に約100年にわたる佐竹一門の内紛がはじまる(いわゆる「佐竹の乱」、このため佐竹氏の勢力は一時的に弱まった)。

当該期の遺構は、今回発掘調査区では確認されていない。なお、遺物では古瀬戸後期(14c末葉～15c後葉)の製品[SD04・2, 直縁皿 遺構外-108]、常滑甕[SD05・24, 25]、大和産と考えられる火鉢[SD05・26]、貿易磁器[SD05・3, 4, SD02B・1]がある。

16世紀前半

16世紀初頭、佐竹義舜が佐竹山入家を打倒し佐竹本宗家を統一した。しかし、小場氏・宇留野氏・長倉氏などの一族層は、これに反した(部垂の乱)。だが、義舜の子・義篤が1540(天文9)年に乱を制した結果、佐竹氏は常陸国北部の権力を確立し、支配機構の整備をはかっている。加えて下野国東部や陸奥国南部へ進出をおこなってもいる。

当該期の遺構としては、2号堀跡(SD02A)が確認されている。また遺物では大窯第1～2段階(1480頃～1560頃)の製品[SD02A・2, 3など]がある。

16世紀後半

佐竹義重（義舜の曾孫）の時代、常陸国南部の江戸氏、小田氏などを制圧したことにより、佐竹氏は常陸国の大半を支配下に置いている。

当該期の遺構として、1号堀跡（SD01）、2号堀跡（SD02B SD05）、4号堀跡（SD04）が考えられる。遺物では大窯第3～4段階（1560頃～1610頃）の製品〔天目碗SD01・4など〕、かわらけF類（16世紀中葉～17世紀前葉）がある。なお、大窯第4段階後半～末（1595頃～1610頃）の志野丸皿〔SD05・14〕と、大窯第4段階末併行（1600頃～1610頃）の鉄絵皿〔遺構外-110,112〕は太田城の下限を示す資料である。

〔補記〕近代産業遺跡（大蔵省専売局太田製造所跡）に関する遺構・遺物

①太田城は廃城後、長らく畑地とされていたためか、今回調査区内での17世紀前葉～18世紀の土器・陶磁器の出土は皆無である。近世陶磁器で年代が分かるものは遺構外-141・142（ともに肥前編年IV期後半頃）が知られる程度である。

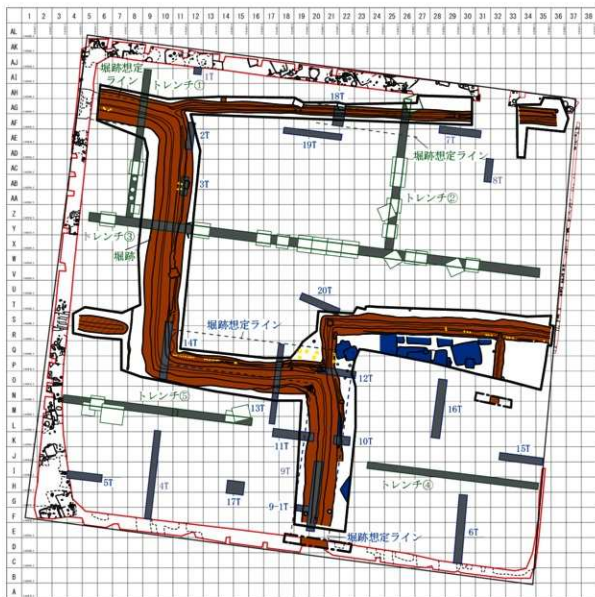
②今回調査区出土の近・現代陶磁器の多くは20世紀代に位置付けられるものばかりである〔遺構外-147～159〕。しかし、なかには笠間・益子系陶器鉄絵土瓶〔遺構外-145〕や、磁器印判手染付皿〔遺構外-144〕、磁器赤絵丸碗〔遺構外-146〕など大蔵省専売局太田製造所の開所期に遡る資料も微量ながら出土している。

③大蔵省専売局太田製造所跡、ないし日本専売公社（1949～1985年）に関する遺構としては、礫石積の跡、丸太杭列〔SD05 東西堀〕、東西に長い建物跡礎石〔SD04の分岐点〕、コンクリート製電柱列〔SD04の南壁, SD02 北部〕、コンクリート製の荷解き場プラットフォーム〔SD01 南側〕がある。

④専売局太田製造所跡に関わる明確な遺物としては分電盤の磁器製蓋〔遺構外-150〕がある。また、土管〔遺構外-161〕、スレート瓦〔遺構外-166〕も専売局太田製造所時代、ないし専売公社時代のものとして捉えている。なお、専売公社時代後半期の資料として1970年代後半に製造・販売されていた清涼飲料水500mlガラス瓶（ファミリーサイズ瓶、未掲載資料）が造成土中から出土している。

参考・引用文献

- 赤井博之 1998「古代常陸国新治陶跡群の研究(1) - 奈良・平安時代の須恵器編年を中心に -」『婆良岐考古』第20号、婆良岐考古同人会
- 大阪府立近つ飛鳥博物館 2006『年代のものさし - 陶色の須恵器 -』
- 上高津貝塚ふるさと歴史の広場 1999『第4回特別展 焼き物にみる中世の世界 - 県内出土の土器・陶磁器を中心にして -』
- 上高津貝塚ふるさと歴史の広場 2002『第7回特別展 常陸戦国記 - 出土遺物にみる16世紀の城と村 -』
- 亀井明徳編 2001『季刊考古学』第75号 特集 基準資料としての貿易陶磁器、雄山閣
- 九州陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』
- 古代生産史研究会 1997『東国の須恵器 - 関東地方における歴史時代須恵器の系譜 -』
- 佐々木義則 1999「茨城県北半部における土師器碗の形式変遷」『婆良岐考古』第21号、婆良岐考古同人会
- 續 伸一郎 1995「Ⅲ 土器・陶磁器 11. 貿易陶磁器 [2] 中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編、真陽社
- 全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会 2005『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～ 資料集』
- 田口睦子 2011「県央・県北のかむらけ - 15世紀～17世紀前半を中心として -」『茨城中世考古学の最前線～編年と基準資料～』茨城県考古学協会
- 立石堅志 1995「Ⅲ 土器・陶磁器 10. 瓦質土器 [1] 奈良火鉢」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編、真陽社
- 津野 仁ほか 2004「三鑫山麓窯跡群の須恵器生産(Ⅱ)」『栃木県考古学会誌』第25集、栃木県考古学会
- 東国土器研究会 1989『東国土器研究』第2号 特集 黒色土器 - 出現と背景
- 東国土器研究会 1990『東国土器研究』第3号 特集 黒色土器 - 展開と終焉
- 東国土器研究会 1995『東国土器研究』第4号 特集 東国における律令制成立までの土器様相とその歴史的動向
- 東国土器研究会 1999『東国土器研究』第5号 特集 東国における古墳時代中期の土器様相と諸問題
- 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団 1997『古館・三反田遺跡』
- 中野晴久 1995「Ⅲ 土器・陶磁器 9. 中世陶器 [2] 常滑・渥美」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編、真陽社
- 服部敬史 1997・1998「内耳土鍋の研究(上・下)」『土曜考古』第21・22号、土曜考古学研究会
- 藤澤良祐 2008『中世瀬戸焼の研究』高志書院
- 藤野一之 2019『古墳時代の須恵器と地域社会』六一書房
- 山本信夫 1995「Ⅲ 土器・陶磁器 11. 貿易陶磁器 [2] 中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編、真陽社



- 青字、 第1次試験調査
 緑字、 第2次試験調査 (: 竪穴建物跡 ○ : 土坑)
 令和元年度発掘調査 調査区
 今回調査区
 時期不明遺構
 古代遺構
 中世遺構
 中世遺構 (詳細時期不明)
 近代遺構

0 1/1900 20m

第59図 遺跡全圖



調査視察風景（2号堀、北から）



学校見学風景（1号堀、東から）



太田城跡 JT 敷地内調査区全景（真上から）

報告書抄録

ふりがな	おおたじょうあと							
書名	太田城跡							
副書名	JT跡地内太田城跡埋蔵文化財調査							
シリーズ名	常陸太田市内遺跡調査報告書							
シリーズ番号	第17集							
編著者名	山口憲一・永原康平・米山聡一・谷 旬・大賀 健							
編集機関	株式会社 勾玉工房							
所在地	〒286-0221 千葉県富里市御料1009番地28							
発行年月日	2022（令和4）年3月1日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おたじょうあと 太田城跡	いばらきけん 茨城県 ひたちねがし 常陸太田市栄町 102番1	212	129	36° 32′ 47″	140° 31′ 17″	20200427 ～20201130	3770㎡	開発に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
太田城跡	集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 古墳時代 平安時代	竪穴建物跡15棟	石器（尖頭器） 縄文土器（黒浜式等）・石器 弥生土器（十王台式等） 古墳時代（前期～後期の土器） 奈良・平安時代 土師器・須恵器				
	城郭跡	中世	堀跡5条 溝跡3条 土坑4基	貿易陶磁器（龍泉窯・漳州窯等） 陶器（古瀬戸・瀬戸美濃焼） 須恵系、甕器系（渥美窯・常滑窯・ 瀬戸窯）、瓦質土器（火鉢・内耳鍋） かわらけ（皿・鉢・内耳鍋） 石製品（宝篋印塔・砥石）			巨大な2号堀により、 本地点は4つの郭に 分割されていること が判明した。	
	近代 産業跡	近世・近代 現代	土地造成基盤 石積基礎・杭列 礎石建物・電柱	近代陶磁器（碗・皿・分電盤） 石製品（硯）瓦（棧瓦・スレート瓦） 土管類			大蔵省専売局による 「水府煙草」太田収蔵 所設置以来の工場跡。	
要約	3地点で屈折する2号堀と3号堀により従来3郭とされていた部分が、北及び東に分かれていたことが判明した。また、東に展開する外郭も4号堀により南北に区画されていた可能性もある。中世以外の集落跡は極めて保存状態が良好である。							

常陸太田市内遺跡調査報告書
太田城跡
JT跡地内太田城跡埋蔵文化財調査報告書
第17集

発行年月日 2022（令和4）年3月1日

編 集 株式会社 勾玉工房
千葉県富里市御料1009番地28号
℡ 0476（92）0658

発 行 常陸太田市教育委員会
〒313-0055 茨城県常陸太田市西二町2200
℡ 0294（72）3201

印 刷 株式会社 エイティ一
千葉県八潮市八街1221番地
℡ 043（444）2024

[付録] 常陸太田市 太田城跡調査区全体図 S=1:400

